

小杉町赤田土地区画整理事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査

赤田 I 遺跡発掘調査報告

2003年12月

富山県小杉町教育委員会

序

小杉町は富山県のほぼ中央にあって、町の南部には射水丘陵、北部には射水平野が広がる大変緑豊かな町であるとともに、県内の遺跡の約10パーセントにあたる301遺跡が存在する文化財の宝庫であります。

このたび、小杉町赤田土地区画整理事業に先立ち、赤田Ⅰ遺跡の発掘調査を実施いたしました。その結果、本町初の平安時代の祭祀遺跡であることが確認されました。これまで丘陵部において古代の生産遺跡を多数確認しておりましたが、今回の調査は平野部における古代の人々の暮らしを知るうえで、貴重な資料となりました。

終りに、発掘調査及び報告書刊行にあたり、ご支援・ご協力を頂きました関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成15年12月

小杉町教育委員会

教育長 稲葉茂樹

例 言

1. 本書は、富山県射水郡小杉町下条地内に所在する赤田 I 遺跡の発掘調査報告書である。
2. 当調査は、赤田土地区画整理組合の委託を受け、小杉町教育委員会生涯学習課の指導のもと、(株)中部日本鉱業研究所が実施した。
3. 調査期間及び面積は次のとおりである。

試掘調査 1 回目	平成14年 4月17日～5月10日	発掘調査面積	802.0㎡ (延べ10日間)
試掘調査 2 回目	平成14年 5月27日～6月10日	発掘調査面積	1,952.8㎡ (延べ10日間)
本調査	平成14年 7月13日～10月14日	発掘調査面積	2,170.0㎡ (延べ47日間)
4. 調査担当は以下のとおりである。なお、本調査は便宜上 1 区から 4 区の 4 地区に分けて実施した。

試掘調査 1 回目	小杉町教育委員会主事	稲垣尚美	
試掘調査 2 回目	小杉町教育委員会主任	原田義範・同事	稲垣尚美
本調査 1・2 区	(株)中部日本鉱業研究所 調査員	井伊浩一郎	
本調査 3・4 区	小杉町教育委員会主事	稲垣尚美	
5. 本書の編集・執筆は、稲垣尚美(小杉町教育委員会)、井伊浩一郎、新宅理久、藤田慎一(株)中部日本鉱業研究所)が行った。なお、文責は文末に記した。
6. 巻頭写真及び図版11～25の写真撮影は西大宇フォトが実施し、牛島 茂氏、杉本和樹氏(奈良文化財研究所)のご指導、ご協力を得た。
7. 本書における挿図の表示は次のとおりである。
 - (1) 方位は全て座標北であり、水平基準線は海拔高で表示した。
 - (2) 遺構の表記は次の記号を用いた。

SB	: 建物	SD	: 溝	SK	: 土坑	P	: 柱穴状ピット	SX	: 不明遺構
	: 黒色研磨		: 須恵器の断面		: 墨痕		: 漆痕		: 漆痕?
 - (3) 土器・石器・陶磁器類の縮尺は1/3・1/4を基本とし、木製品の縮尺は原則として1/4・1/6、金属製品は1/4とした。
8. 発掘調査作業及び報告書作成作業にあたっては、次の諸機関と諸氏のご指導・ご教示・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。(敬称略 五十音順)

富山県教育委員会、石川ゆずは、五十川伸也、内田亜紀子、太田浩司、鹿島昌也、門田誠一、鈴木景二、高梨清志、武田健次郎、中村亮仁、根津明義、木瀬正恒、森 隆、吉村正親
9. 本遺跡の出土遺物や記録資料は、小杉町教育委員会が一括して保管にあっている。
10. 発掘調査及び遺物整理の参加者は下記のとおりである。(敬称略 順不同)

〔現地調査〕
三上正夫、大杉正夫、柿谷 進、林えみ子、長井礼子、松林敦子、高橋八智子(以上小杉町シルバー人材センター)
遠藤正成、高越文治、密 勇次郎、高田栄治、高橋昭雄、泉 義正、荒滝正男、高橋澄江、長谷一雄、小塚菊枝、高田タマ子、田畑美智子、山崎松子、中橋道子、野畑ふみ子、広田久実子、石黒啓子、三島律子、高橋静子、坂田行子、大木豊枝、坂本照子、坂本夏子、石崎美枝子(以上大門町シルバー人材センター)
山口チズ子、土田ユキ子、坪田和子、久野静枝、酒井すず子、安田久実代、横川美雪、黒田忠明

〔整理作業〕
加藤由美子、高橋英史子、渡辺賀世子、宮崎美紀、真田恭子、北川泰子、茂住千佳子、元藤智子、紙居典子、日尾順子、土井美恵子、安立佳子、野田幸二、今井江利子、池田真由美、大寺美樹、杉本悦子、吉島正喜、間 一美、堀壺実律子、吉沢泰子

目 次

I 遺跡の位置と歴史的環境	1
II 調査に至る経緯	3
1. 調査に至る経緯	3
2. 調査の経過	3
III 遺構と遺物	4
1. 基本層序	4
2. 遺構と遺物	4
3. 調査区の概要	5
4. 掘立柱建物	7
5. 溝状遺構	10
6. 不明遺構	59
7. 土坑	61
8. ビット	62
9. 遺構内および包含層出土遺物	63
IV まとめ	64
〈引用・参考文献〉	65

挿図目次

第1図	周辺の主な遺跡 (1:50,000)	2
第2図	立地図	3
第3図	基本層序略図	4
第4図	赤田I遺跡調査区配置図 (1:5,000)	5
第5図	赤田I遺跡遺構概略図 (1:500)	6
第6図	1区SB37・38遺構平・断面図 (1:80)	8
第7図	2区SB26遺構平・断面図 (1:80)	9
第8図	SD01遺構平面図 (1:200)	11
第9図	4区SD01遺構平・断面図 (1:100)	12
第10図	4区SD01塚状遺構平・断面図 (1:40)	13
第11図	4区SD01遺物出土状況図 (1:40)	14
第12図	3区SD01堤状遺構平・断面図 (1:40)	14
第13図	3区SD01遺構平・断面図、遺物出土状況図 (1:80 / 1:50)	15
第14図	2区SD01遺構平・断面図、遺物出土状況図 (1:80 / 1:50)	16
第15図	SD01出土緑釉陶器実測図 (1:3)	18
第16図	SD01出土墨書土器実測図 (1:4)	19
第17図	SD01出土黒色土器実測図 (1:3)	20
第18図	SD01出土墨痕・漆裏土器実測図 (1:4)	23
第19図	SD01出土土師器埴A実測図1 (1:4)	24
第20図	SD01出土土師器埴A実測図2 (1:4)	25
第21図	SD01出土土師器埴A実測図3 (1:4)	26
第22図	SD01出土土師器埴A実測図4 (1:4)	27
第23図	SD01出土土師器埴A実測図5 (1:4)	28
第24図	SD01出土土師器埴A実測図6 (1:4)	29
第25図	SD01出土土師器皿実測図 (1:4)	30
第26図	SD01出土遺物実測図 (1:3)	31
第27図	SD01出土遺物実測図 (1:3 / 1:4)	32
第28図	SD01出土木製品実測図1 (1:2 / 1:4 / 1:6)	38
第29図	SD01出土木製品実測図2 (1:4)	39
第30図	SD01出土木製品実測図3 (1:4 / 1:6)	40
第31図	SD01出土木製品実測図4 (1:6 / 1:8)	41
第32図	SD01出土木製品実測図5 (1:4 / 1:8)	42
第33図	SD01出土木製品実測図6 (1:4 / 1:6)	43
第34図	SD01出土木製品実測図7 (1:4)	44
第35図	SD01出土木製品実測図8 (1:4)	45

第36図	SD01出土木製品実測図9 (1:4).....	46
第37図	SD01出土木製品実測図10 (1:4).....	47
第38図	SD01出土木製品実測図11 (1:4).....	48
第39図	SD01出土木製品実測図12 (1:4 / 1:6).....	49
第40図	SD01出土金属製品・土製品実測図 (1:2 / 1:4).....	52
第41図	1区SD21遺構平・断面図 (1:100 / 1:80).....	53
第42図	1区SD21遺物出土状況図 (1:40).....	53
第43図	1区SD21出土遺物実測図 (1:3 / 1:4).....	54
第44図	2区SD02・05・29遺構平・断面図 (1:80).....	55
第45図	2区SD02・29出土遺物実測図 (1:3).....	56
第46図	4区SD04・16・17遺構平・断面図 (1:200 / 1:80).....	57
第47図	4区SD16H出土遺物実測図 (1:3).....	57
第48図	3区SD02遺構平・断面図 (1:80).....	58
第49図	1区SX22遺構平・断面図 (1:80).....	59
第50図	1区SX22出土遺物実測図 (1:3).....	60
第51図	1区SK04・08・17・30、2区SK09、4区SX18遺構平・断面図 (1:80).....	61
第52図	遺構内出土遺物・包含層出土遺物実測図 (1:3).....	63

表 目 次

第1表	赤田I遺跡の主な周辺遺跡.....	1
第2表	1区SB37・38規模観察表.....	7
第3表	2区SB26ピット規模観察表.....	8
第4表	SD01出土遺物法量分布・器種構成比率.....	22
第5表	SD01出土遺物観察表.....	33
第6表	SD01出土遺物観察表.....	34
第7表	SD01出土遺物観察表.....	35
第8表	SD01出土木製品観察表.....	50
第9表	SD01出土木製品観察表.....	51
第10表	1区SD21出土遺物観察表.....	54
第11表	2区SD02・29出土遺物観察表.....	56
第12表	4区SD16出土遺物観察表.....	58
第13表	溝状遺構規模観察表.....	58
第14表	1区SX22出土遺物観察表.....	60
第15表	ピット規模観察表.....	62

圖版目次

卷頭 1	SD01出土遺物	
卷頭 2	SD01出土陶青土器	
卷頭 3	SD01出土綠釉陶器	
卷頭 4	SD01出土木製品	
卷頭 5	SD01出土席巾	
卷頭 6	SD01出土人形、豎杵	
圖版 1	1・2 区全景	66
圖版 2	3・4 区全景	67
圖版 3	2・3 区SD01遺物出土狀況	68
圖版 4	2・4 区SD01黑青土器・2 区SD01綠釉陶器出土狀況	69
圖版 5	1 区遺構・遺物	70
圖版 6	2 区遺構・遺物	71
圖版 7	3 区遺構・遺物	72
圖版 8	4 区遺構	73
圖版 9	SD01出土遺物	74
圖版 10	SD01出土遺物	75
圖版 11	SD01出土黑色土器	76
圖版 12	SD01出土金屬器	77
圖版 13	遺構・包含層出土遺物	78
圖版 14	SD01出土木製品	79
圖版 15	SD01出土木製品	80
圖版 16	SD01出土木製品	81
圖版 17	SD01出土木製品	82
圖版 18	SD01出土木製品	83
圖版 19	SD01出土木製品	84
圖版 20	SD01出土木製品	85
圖版 21	SD01出土木製品	86
圖版 22	SD01出土木製品	87
圖版 23	SD01出土木製品	88
圖版 24	SD01出土木製品	89
圖版 25	SD01出土木製品	90



卷頭1 SD01出土遺物



卷頭 2 SD01出土黑書土器



卷頭 3 SD01出土綠釉陶器



卷頭 4 SD01出土木製品



卷頭 5 SD01出土斎串



卷頭 6 SD01出土人形・堅杵

I 遺跡の位置と歴史的環境

赤田Ⅰ遺跡は富山県射水郡小杉町下条地内に位置し、標高約5mの下条川右岸の水田に立地する。当遺跡の行政区にあたる小杉町は富山県のほぼ中央に位置し、東は富山市、西は大高町・大門町、北は新湊市に隣接する。地形的には北側は射水平野、南側には射水丘陵が広がって町全体の4割を占めている。丘陵は新世代第三紀の泥岩・砂岩層によって構成されており、和田川・下条川などの小支流が谷を削り樹枝状の地形を呈する。こうした下条川などの河川は、古くから丘陵地にある生産遺跡と越中国府などの集落(消費)遺跡を結ぶ水路として活用されたと考えられている。

赤田Ⅰ遺跡の周辺地域をみると、旧石器時代の遺跡は新造池遺跡・中山中遺跡など、その多くは丘陵地に位置している。縄文時代の遺跡は、南太閤山Ⅰ遺跡・上野遺跡・水上谷遺跡など、前期から中期までは丘陵地に位置しているものが多いが、中期以降は平野部の陸地化に伴い伊勢領遺跡・黒河尺目遺跡といった集落が低地にも残されている。弥生時代・古墳時代の遺跡としては、二の井遺跡・中山南遺跡・丁田遺跡・小杉丸山遺跡・圓山遺跡などがあり、集落・耕地・粘土採掘場・墓地・祭祀とそれぞれ異なった性格を備えている。奈良・平安時代の遺跡は、小杉流通乗務団地内遺跡群に代表される須恵器や鉄・炭の製造施設を備えた丘陵地の生産遺跡と、南太閤山Ⅰ遺跡・伊勢領遺跡・北高木遺跡・覚煙遺跡などの平野部の集落遺跡に大きく分けられる。北高木遺跡は平成4年から6年まで行われた調査で掘立建物や溝などの遺構が検出され、墨書土器・人形・刀子・人面墨書土器などが出土していることから、国府や郡衙に属する公的な施設と考えられている。平安時代後期から室町時代末期にかけて平野部では莊園形成が進み倉垣庄や大袋庄などが運営されていた。(井伊)

番号	名称	種別	時代	現況	備考
1	赤田Ⅰ遺跡	集落	弥生・古墳・平安・中世	田	
2	赤田遺跡	散布地	弥生	田	平4年一部試掘
3	赤田東遺跡	散布地	不明	田	平13年一部試掘
4	下条新遺跡	散布地	弥生	田	平4年一部試掘
5	二の井Ⅱ遺跡	散布地	弥・古代・奈・平・中・近	宅地・田	
6	二の井Ⅲ遺跡	散布地	弥・古代・奈・平・中・近	宅地・田	
7	二の井Ⅳ遺跡	散布地	古墳・中世・近世	宅地・田	
8	圓山遺跡	散布地・墓	縄文(前)・弥生(後)	公園	昭44年本調
9	圓山東遺跡	製鉄	奈良	宅地・学校用地	昭44年本調
10	中山中遺跡	集落	旧石・縄文・弥・古墳・奈	宅地・畑	昭56・平元年試掘、平2・13年本調
11	中山南遺跡	古墳	弥生	宅地・公園	昭50年県指定史跡、昭38・43年本調
12	大南南B遺跡	製鉄	古代・奈良・平安	公園	昭44年本調
13	口の宮遺跡	散布地・城	弥生・古代・中世	田	平13年一部試掘
14	南太閤山Ⅰ遺跡	集落・墓	縄・弥・古墳・奈・平・近	宅地・道路・山林	昭57~60年本調
15	南太閤山Ⅱ遺跡	製鉄	縄・弥・古・古代・奈・平	道路・山林	昭55~58年本調
16	千田遺跡	集落	弥(後)・古墳・奈・平・中	宅地・学校用地・田	昭63年・本調
17	上野遺跡	集落・窯	旧・縄・弥・古・奈・平・近	宅地・道路・雑草地	昭45~47年本調
18	黒河尺目遺跡	集落	旧石・縄・奈・平・中・近	宅地・道路・田・畑	昭61・62・平2・3・12・13年本調
19	針原西遺跡	散布地	弥生・古墳・奈良	田	平12・13年本調
20	小杉伊勢領遺跡	散布地	縄・弥・古代・奈・平・近	宅地・田	平3年本調
21	HS-03遺跡	散布地	不明	宅地・田	一部愛宕遺跡と重複
22	HS-04遺跡	散布地	縄・弥・古・古代・中・近	宅地・田	白石遺跡を含む、平3・4・7年本調
23	愛宕遺跡	散布地	弥・奈・奈良・中世・近世	田	昭62・平7年本調

第1表 赤田Ⅰ遺跡の主な周辺遺跡



第1図 周辺の主な遺跡 (1:50,000)



II 調査に至る経緯

1. 調査に至る経緯

遺跡の立地

赤田I遺跡が位置する平野部は狭義の射水平野にあたる。最終氷期である約2万年前の最大海退期には、現在の海面下100mあたりが当時の海面であった。しかし、温暖化に伴い海面が上昇し、潟や湖が形成され縄文海進時のピークには現在の海面より2～3m海面が上昇し内陸にまで広がる大きな湾が形成され射水丘陵の際まで古日本海が迫っていたが、その後の海水面の後退により後背湿地が形成され河川の堆積作用によって埋積低地(射水平野)が形成された。

赤田I遺跡は下条川の氾濫原が一気に広がる平野部に形成された右岸自然堤防の東側縁辺部に位置し、直接洪水の被害に遭わない位置と推測される。このよう

な立地条件のもとに営まれた赤田I遺跡は平安時代の祭祀遺跡で、今回の調査対象は、まじないや祓に用いられた罪穢疾気を移した形代のほか碗や皿を破棄した川跡で、住居跡等は発見されなかったが、おそらく下条川の洪水の害を受けない右岸か左岸の自然堤防上に生活の拠点があったと推測される。

2. 調査の経過

赤田I遺跡の調査は、小杉町赤田土地区画整理組合からの依頼を受け、小杉町教育委員会の指導のもと中部日本鉱業研究所が実施した。調査対象面積は2,170㎡である。平成14年7月初旬から準備作業を開始するとともに、小杉町教育委員会により表土掘削が行われた。現地調査は、7月16日から開始し調査区の東西方向と並行に10m間隔のグリッドを設定した。原点は1区の北西端に設置し、東西方向に数字、南北方向にアルファベットを付し、各グリッドは北西枕の番号で呼称した。遺物の取り上げは基本的にグリッド一括で行い、10×10mのグリッドの場合は4分割して行った。調査区は4地区に分け遺構番号は各区の検出順に付した。

7月から8月にかけては1区と4区の調査を同時に行った。作業は包含層掘削および遺構面検出から始まり、確認後は遺構掘削・図面作成・写真撮影等の記録作業を実施した。1区は8月12日に4区は8月22日に全体写真を撮り、その後残務作業に約1週間を要した。

8月中頃から10月初旬にかけては、2区と3区の調査を同時進行で行った。2区のSD01の調査は8月末から実施し、9月に入ると多量の土師器碗Aの他、斎串・木製盤・曲物等が出土した。同様に3区のSD01の調査では2区以上の量の土師器碗Aや様々な種類の木製品が出土した。9月24日には2区のSD01で緑釉陶器が出土した。10月4日に2区・3区の全体写真撮影を行い、その後残務作業に入った。



第2図 立地図

残務作業の期間中に2区および3区のSD01の北壁と南壁が崩落したため、これに伴い現れた遺物の採取作業を実施し、3区で数点の緑軸陶器の他、多数の土師器埴Aや木製品を取上げた。このため、2区SD01北壁と3区SD01南壁については、調査範囲をやや拡張することになった。10月8日に2区、10月9日に3区の調査を終了し、10月11日に現場事務所棟と発掘用具等の撤去作業を行い、全ての現地調査を終了した。

Ⅲ 遺構と遺物

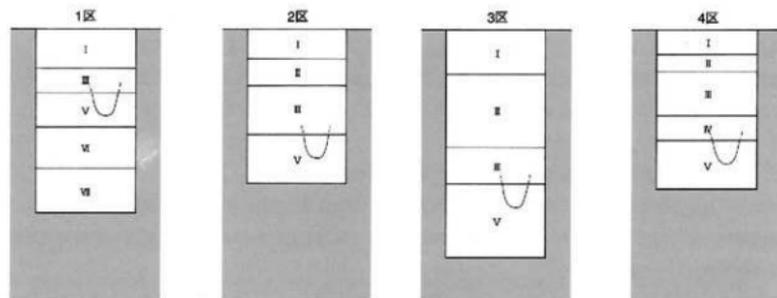
1. 基本層序 (1・2・3・4区)

赤田I遺跡の地形は、最も南に位置する1区から4区に向かって低くなる様相を呈している。基本層序は大きく4層に分けることができる。全地区に共通する点として、包含層の上部は後世の削平を受けており、特に2・3・4区については、地山面まで耕作機械による影響も確認できた。

第I層	10YR 3 / 3	暗褐色土	現代耕作土である。
第II層	10YR 4 / 2	灰黄褐色土	砂質の層が所々みられる農道路床である。
第III層	10YR 2 / 2	黒褐色粘質土	遺物包含層である。
第IV層	10YR 5 / 3	にぶい黄褐色土	シルト質であり、4区のみで検出した層である。
第V層	10YR 5 / 2	黄灰色粘質土	遺構を検出した層である。
第VI層	2.5Y 3 / 1	黒褐色粘質土	1区のサブトレンチにて確認できた層である。
第VII層	7.5Y 6 / 1	灰色粘土	1区のサブトレンチにて確認できた層である。

2. 遺構と遺物

遺構は溝25条・土坑5基・掘立柱建物4棟・ピット46基・不明遺構4ヶ所が確認されている。遺構の時期は弥生後期と平安時代が中心であり、包含層の遺物には古代をはじめ中世等の遺物もみられる。出土遺物の量は4地区合わせて、土器類はコンテナ約150箱と木製品はコンテナ約30箱ほどであった。



第3図 基本層序略図

3. 調査区の概要

今回調査を行った赤田1遺跡は、区画道路の整備に先立つ埋蔵文化財発掘調査である。そのために1区は幅3.5m・長さ56m、2区と3区は幅6m・長さ56m、4区は幅19m・長さ56mの調査区を遺跡の範囲にトレンチを入れる様な形で設定している。検出した遺構数は溝25条・土坑5基・掘立柱建物4棟・ピット46基・不明遺構4ヶ所の合計84である。

調査区で最も南側に位置する1区では、溝5条・土坑4基・掘立柱建物2棟・ピット22基・不明遺構3ヶ所を検出した。SD21の最深部からは弥生土器がまとまって出土した。

1区から約31m北側に位置する2区では、溝7条・土坑1基・掘立柱建物1棟・ピット18基を検出した。SD01から緑釉陶器・墨書土器・多量の上師器碗A・木製品(祭祀具・発火具・容器類等)が出土した。

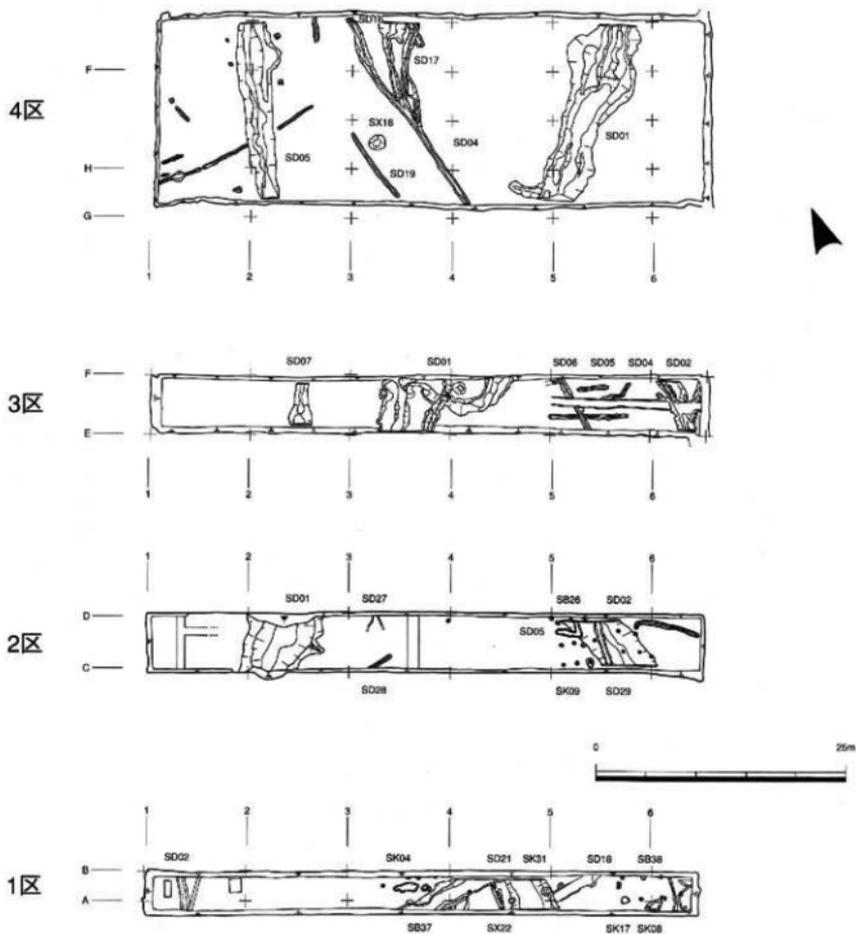
2区から約31m北側に位置する3区では、溝6条を検出した。SD01から10数点の緑釉陶器・墨書土器・黒色土器・多量の上師器碗の他、様々な種類の木製品(祭祀具・紡績具・容器類・箸状木製品・枕等)が折り重なるように出土した。

最も北側に位置する4区では、溝7条・掘立柱建物1棟・ピット6基・不明遺構1ヶ所を検出した。SD01から墨書土器・土師器碗A・木製品(祭祀具・容器類・枕等)が出土した。また、同遺構にしがらみや枕等の護岸・環状の痕跡を確認した。

以上のように出土遺物の大部分を占めているのは、2区・3区・4区にまたがって確認されたSD01からのものである。



第4図 赤田1遺跡調査区配置図 (1:5,000)



第5図 赤田I遺跡遺構概略図 (1:500)

4. 掘立柱建物

1区SB37

1区のA3・AA3～AA4グリッドに位置し、検出した部分は1×1間であり、+aが考えられる掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行・乗行ともに3.2m、平面積10.24㎡である。主軸は北東～南西方向ないし北西～南東に桁行きが向く形で立地する。柱穴から柱根・礎板等は確認していない。柱穴の規模は長径約75cm、短径約45cm、深さ6～20cmである。掘り方はP23は楕円形を呈し、P20とP26はSD21により切られているがおそらく同様の規模と思われる。このSD21の間溝によってP23とP20の間にあったと思われる柱穴は消失した可能性が考えられる。

1区SB38

1区のA5・AA5～A6・AA6グリッドに位置し、検出した部分は1×2間であり、+aが考えられる掘立柱建物である。確認できた規模は、桁行2.2m・乗行3.9m、平面積8.58㎡で主軸はやや北東に傾く形で立地している。柱穴の規模は直径20～40cm、深さ10～20cmである。掘り方は円形と楕円形の2種類がみられる。柱穴からの出土遺物はなく、柱根・礎板等も見られなかった。また、柱穴の土層で柱痕は確認することができなかった。遺構の一部が調査区域外に広がるため全体像は確認できないが、桁行は南北方向にそれぞれ広がることも十分に考えられ総柱建物であることも考慮したい。



4区作業風景（北東より）

1区SB37

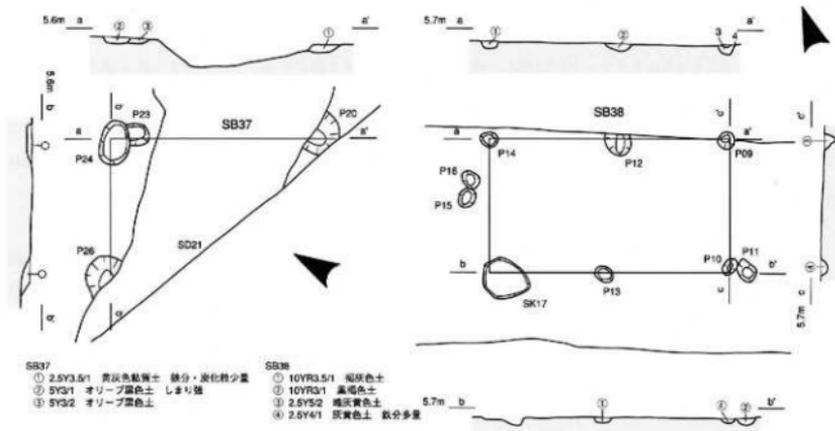
()は推定値

遺構番号	平面形	直径(cm)	深さ(cm)	柱痕の有無	備	考
P20	楕円形	(73.0)	17.0	無	SD21に切られる	
P23	楕円形	(32.0)	6.0	無	P24に切られる	
P24	楕円形	72.0	6.0	無		
P26	楕円形	(74.0)	17.0	無	SD21に切られる	

1区SB38

遺構番号	平面形	直径(cm)	深さ(cm)	柱痕の有無	備	考
P09	円形	28.0	16.0	無		
P10	楕円形	30.0	8.0	無		
P11	楕円形	32.0	12.0	無		
P12	楕円形	35.0	13.0	無		
P13	円形	33.0	9.0	無		
P14	円形	28.0	11.0	無		

第2表 1区SB37・38規模観察表



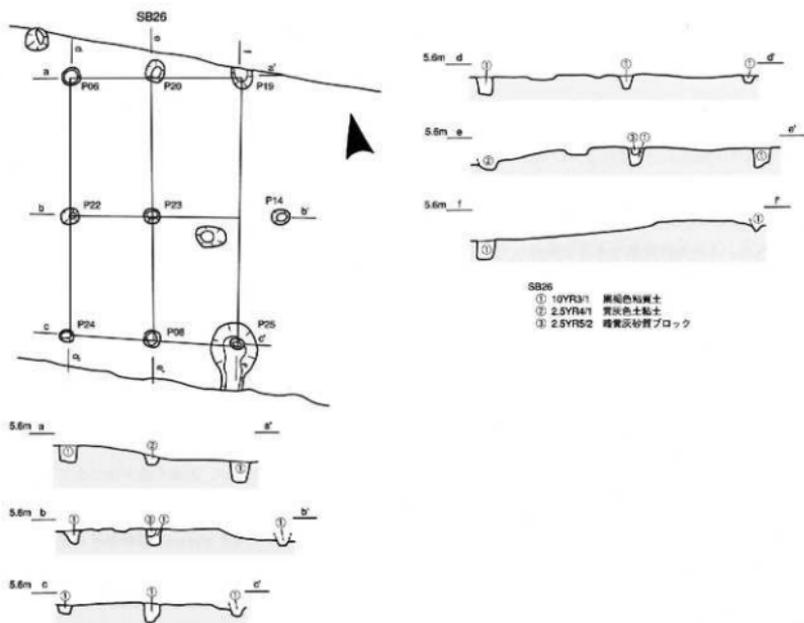
第6図 1区SB37・38遺構平・断面図 (1:80)

2区SB26

2区のC4～C5グリッドに位置し、ほぼ南北方向に桁行が向く形で立地する総柱建物である。遺構の一部が南北の調査区域外に広がる可能性があり、正確な規模は不明確である。また、東隣に位置するSD02の上層にもいくつかの柱穴を検出している。これらは配置や軸方向の違いから別棟の存在が考えられるものの明確な建物配置を確認するには至らなかった。検出できた部分での規模は2×2間とする。柱穴の掘り方は概ね円形を呈する。P19からは柱根、P20・23・24からは礎板が出土している。

遺構番号	平面形	直径(cm)	深さ(cm)	柱根の有無	備	考
P06	円形	28.0	29.0	無		
P08	円形	27.0	31.0	無		
P14	円形	28.0	26.0	柱根		
P19	楕円形	34.0	32.0	柱根		
P20	楕円形	34.0	15.0	礎板		
P22	円形	28.0	20.0	無		
P23	円形	25.0	30.0	礎板		
P24	円形	22.0	14.0	礎板		
P25	円形	23.0	16.0	無		

第3表 2区SB26ピット規模観察表



第7図 2区SB26遺構平・断面図 (1:80)



作業風景 (南西より)

5. 溝状遺構

SD01

2～4区でそれぞれ北東～南西方向に横断するように検出した。ここでは各地区における遺構の概観について述べることとする。

4区SD01

調査区東端のGH4・5～IJ5グリッドに位置し、規模は全長約19.0m、幅3.7～7.4m、最深部で約1.4mを測る。断面形は遺構の中央および南壁付近でU字形を呈し、北壁付近は不整形である。覆土は3層からなる。溝の底部は北側から南側に向かって徐々に深くなっており、中央部から北側の溝幅が広がる部分で4本の杭や矢板が出土している。これを境にして北側は深さ約80cmとやや浅くなり、溝の中央付近に2ヶ所のしがらみ(第10図参照、以下堰状遺構と仮称)がみられる。この堰状遺構で水量を調節し、他に導水する溝があるのではないかと考えたが、確認することはできなかった。また、溝の南西端には長さ約3.5m、幅約1.0m、深さ20cmの規模の取り出しを持つが、遺物は出土していない。遺物の大部分は最深部付近より出土している。

出土遺物は土師器埴A・須恵器の他、斎串・曲物・板材・杭等の木製品がある。

3区SD01

調査区のはほぼ中央E3・4グリッドに位置し、規模は全長6.0m、幅約5.5～12.8m、最深部で約1.5mを測る。南壁付近の断面形はU字形で北壁付近は不整形を呈し、覆土は4層からなる。溝の底部は4区と同様北側から南側に向かって徐々に深くなる。溝の北東部分は調査区域外へ広がるために形状は判断できないが、大きく張り出したテラスが造られる。深さは約70cmでテラス内および周囲には複数の杭が打ち込まれており、その中央には堰状遺構がみられる。遺物は覆土上部から上器と木製品が入り混じるように折り重なって、遺構の全体で出土した。上器器埴は5重・8重と重なったままの状態のものもあり、未使用のまま溝に廃棄されたとみられる。出土遺物は土師器・須恵器・緑釉陶器・黒色土器の他に、斎串・人形・舟形・馬形・刀形・箸状木製品・曲物・器台・紡績具等様々な種類の木製品、包丁・刀子・鏝子・古銭の金属製品と獣骨や被熱を受けた礎等がある。

2区SD01

調査区西端のC1・2グリッドに位置し、規模は全長6.0m、幅約5.8～8.0m、深さ約1.5mを測る。断面形は逆台形を呈し、覆土は5層からなる。最深部では獣骨および歯の集中する部分を3ヶ所確認した。溝の東側には長さ約1.6m、幅約80cm、深さ約70cmほどの小さな張り出しを持つ。ここからは2区で唯一の緑釉陶器が出土した。堰状遺構は北東隅と南西隅の2ヶ所で残骸を検出したことから、溝の護岸養生に敷設していたと考えられる。遺物は最深部よりやや上部で多く出土し、全体的に遺構の西側層部にまとまってみられる。

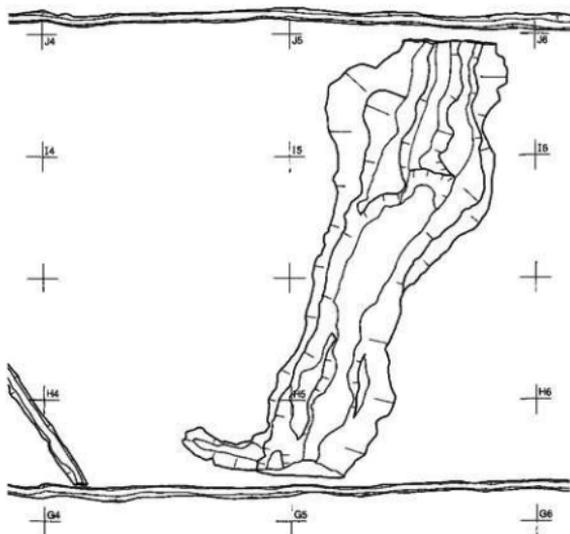
出土遺物は土師器・須恵器を中心に、斎串・馬形・檜扇・火鑽臼・曲物・壺・板材等の木製品、鉄鍋・鉄鎌の金属製品、羽川や獣骨・獣歯や被熱を受けた礎等がある。

土層には流水堆積がみられなかったことから、緩やかな流れであったと考えられる。以上のことから形状は1条の溝ではなく、所々に溝状あるいはテラス状に張り出しを持っている。また、杭や矢板が打ち込まれて、堰状遺構が敷設されるなどの養生が施されていたことが確認できる。

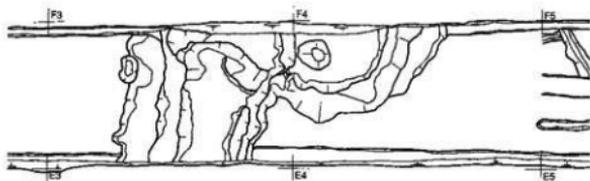
遺物は折り重なって出土することが多く、土師器は坏・甕・高坏、須恵器は坏A・坏B・皿・蓋・甕・長頸壺・双耳瓶・平瓶等の器種がある。黒青土器は須恵器坏A・坏B・蓋、土師器埴A・有台碗・皿A・皿Bにみられ、黒書の内容は「東」・「仁」・「泉」・「二」記号等がある。緑釉陶器と黒色土器の大部分は3区からの出土である。特異な遺物としては、斎串・人形・舟形・馬形・箸状木製品があり、付近で祭祀が行われていたことを容易に想像できる。こうした祭祀具以外に曲物・壺・器台・瓢箪容器・柄杓等の容器類についても2区から多く出土している。(井伊)



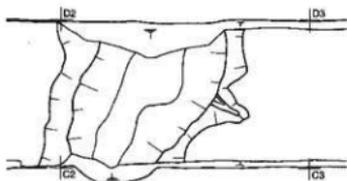
4区



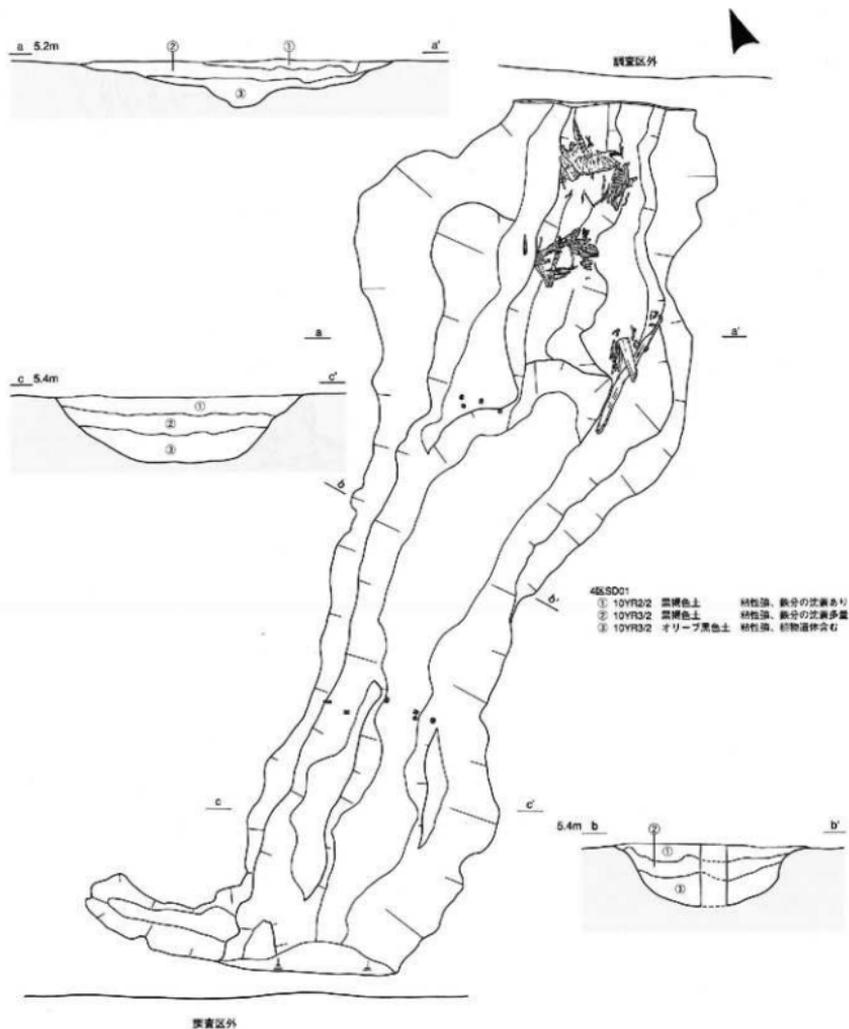
3区



2区

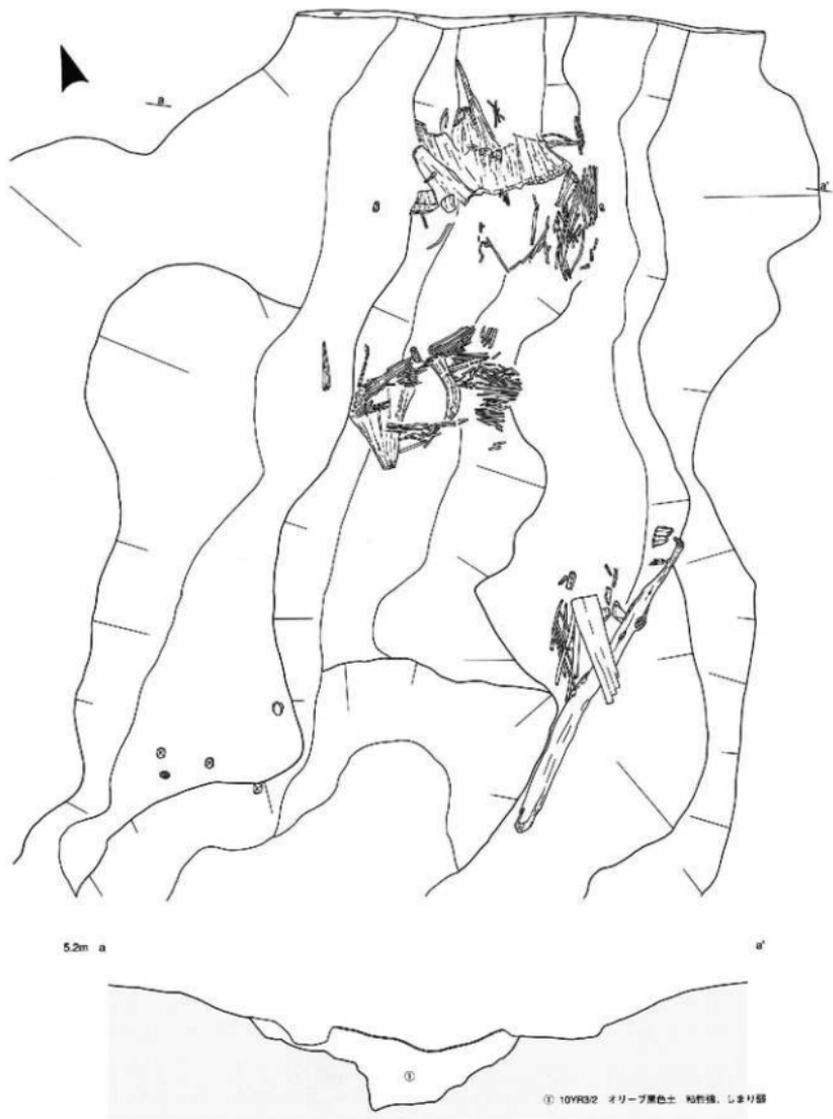


第8图 SD01遺構平面図 (1:200)



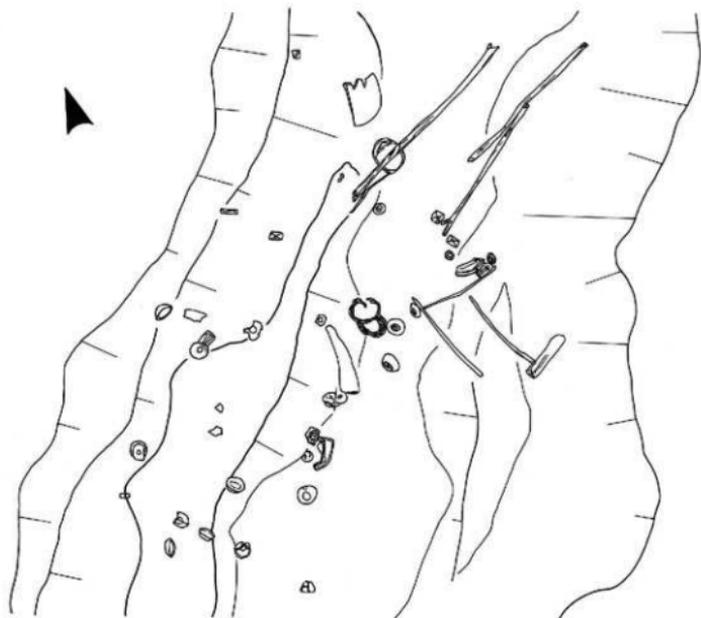
第9図 4区SD01遺構平・断面図 (1:100)



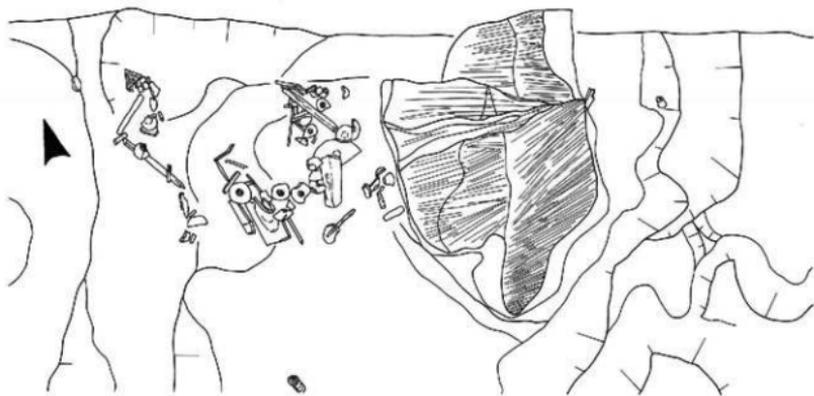


第10図 4区SD01壇状遺構平・断面図 (1:40)



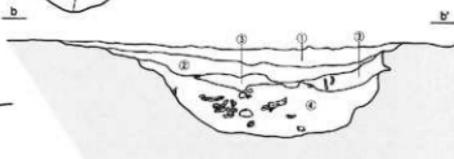
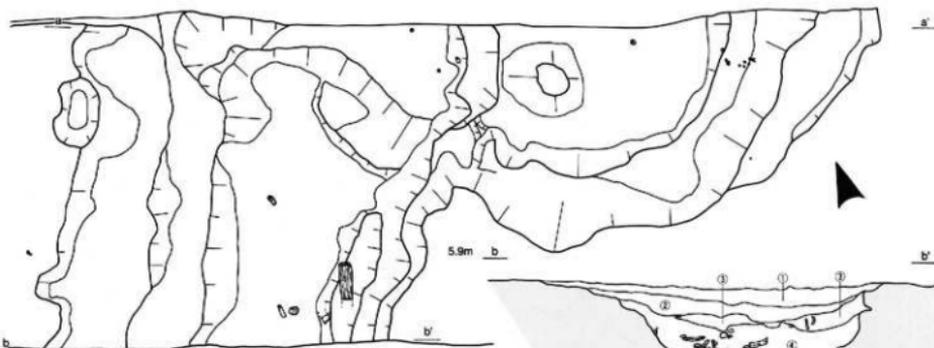
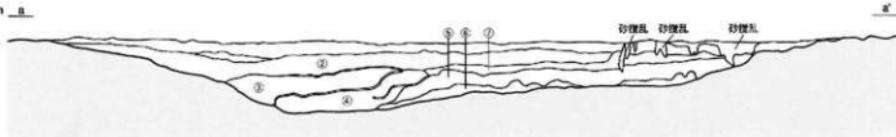


第11图 4区SD01遗物出土状况图 (1:40)



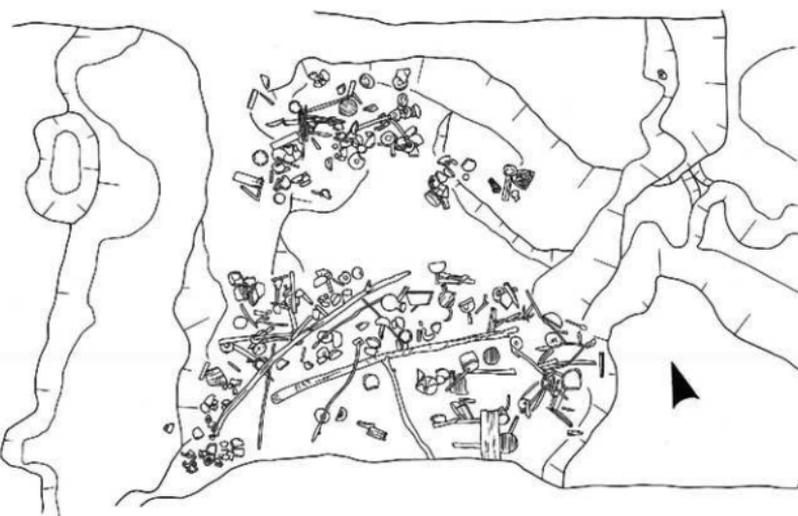
第12图 3区SD01埋状遗构平面图 (1:40)

5.5m a

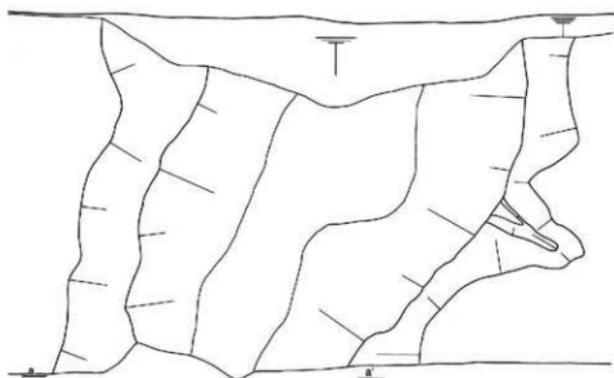


3区SD01

- ① 10YR2/2 黄褐色土 粘性中強、しまり弱、腐鉄沈着
 ② 10YR2/1 黄褐色土 粘性強、しまり弱、上部部に腐鉄沈着
 ③ 2.5YR3/1 黄褐色土 粘性強、しまり弱、植物遺体・土器碎片・木炭屑含む
 ④ 2.5YR2/1 黒色土 粘性強、しまり弱、植物遺体・土器碎片・木炭屑含む
 ⑤ 10YR6/2 黄褐色土 粘性強、しまり弱
 ⑥ 2.5YR3/1 オリーブ黒色土 粘性強、しまり弱
 ⑦ 2.5YR2/1 黒褐色土 2.5Y5/3黄褐色焼山礫土ブロック含む

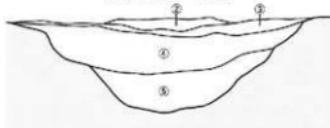


第13図 3区SD01遺構・断面図、遺物出土状況図 (1:80/1:50)



5.9m a

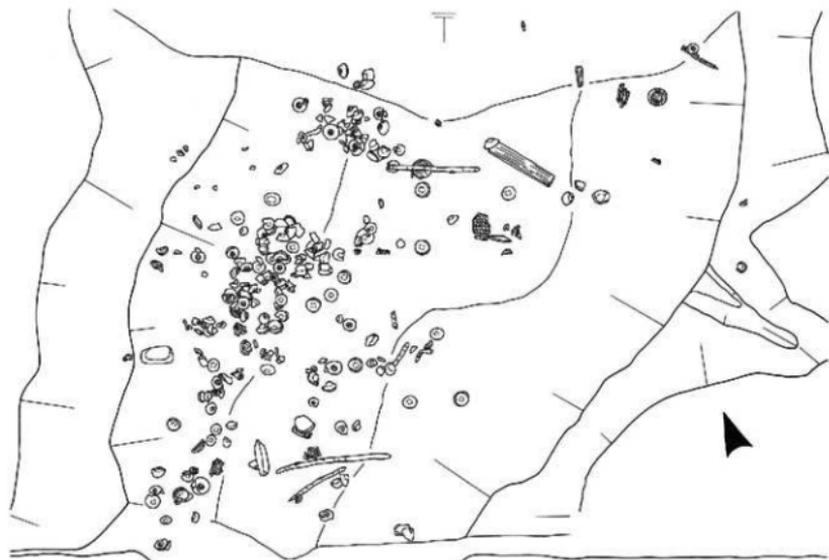
1層および2層の一部透視



b

2RSD01

- ① 10YR3/1 黄褐色粘土質、粘付・しまりややあり、鉄分多量
- ② 2.5YR3/1 黄褐色土、粘性ややあり、しまり弱、鉄分少量、炭化物多量
- ③ 10YR3/1 黄褐色粘土質、粘付強、しまり弱、炭化物多量
- ④ 5Y3/1 黒色土、粘付強、しまり強、炭化物多量、植物遺体・ビビアンナイト少量
- ⑤ 2.5YR3/1 黄褐色粘土質、粘付やや強、しまり弱、炭化物少量、植物遺体・ビビアンナイト少量層より多量に含む、土質鉄分多量を含む



第14図 2区SD01遺構平・断面図、遺物出土状況図 (1:80/1:50)



緑釉陶器 (第15図)

SD01からは12個体の緑釉陶器が出土した。12個体中、2個体が尾張産、残りはすべて京都洛北産のものである。富山県下では内田亞紀子氏によると19遺跡で出土しており(内田1999)、美野下遺跡、吉倉B遺跡につぐ出土量である。尾張産の出土は県内で2例目である。

尾張産は胎土が硬質のものであり、皿・壺が1点ずつ出土している。皿は口縁端部が大きく外反し、やや水平に伸びている。高台は削り出しの輪高台であり、高台高は低いものである。内面には陰刻花文を施し、見込み・側面に花文を配するものである。釉は濃緑色で器面全体に施されている。(第15図-1)

壺は小型のものである。体部の腰の張りが弱く、口縁端部の外反は小さくなっている。高台は貼付の輪高台をもつ。皿と同じく内面の見込み、側面に陰刻花文を施しており、濃緑色の釉が器面全体に施されている。(第15図-2)

洛北産は尾張産とは異なり胎土が軟質のもので皿・壺の二器種が出土している。皿は口縁端部が小さく外反する。高台は削り出しの蛇の目高台であり、高台の内側にヘラ記号を刻んだものもある。また、素地の器面全体にヘラミガキがなされ、淡緑色の釉が器面全体に薄く施されている。(第15図-3・5・7)

壺は通常のものと同量の二法量に分けられる。通常のは体部が内湾し、口縁端部は外反する。高台は削り出し高台であり、蛇の目ものと平底の円盤状高台が見られる。また、皿と同じく器面全体にヘラミガキがなされ、淡緑色の釉が全体に薄く施されている。(第15図-4・9)

小型の壺は通常のものと同じく体部が内湾し、口縁端部が小さく外反するものである。高台には糸切り未調整の円盤状高台のものがある。これらも他の製品と同じく器面全体にヘラミガキがなされ淡緑色の釉がうすく施されている。(第15図-6・8・10)

また、洛北産の製品には皿・壺の各1点ずつにヘラ記号がみられる。2点とも蛇の目高台の内側に×の字に刻まれており、洛北産の製品によく見られるヘラ記号である。

出土した緑釉陶器の機能について、口縁部分を一部あるいは、半円形に打ち欠いた痕跡や釉薬の部分的な銀化などの変化が若干見られる。また、長期間の使用による磨耗などの使用痕が見られず、あまり使用期間が長いものとは思われない。

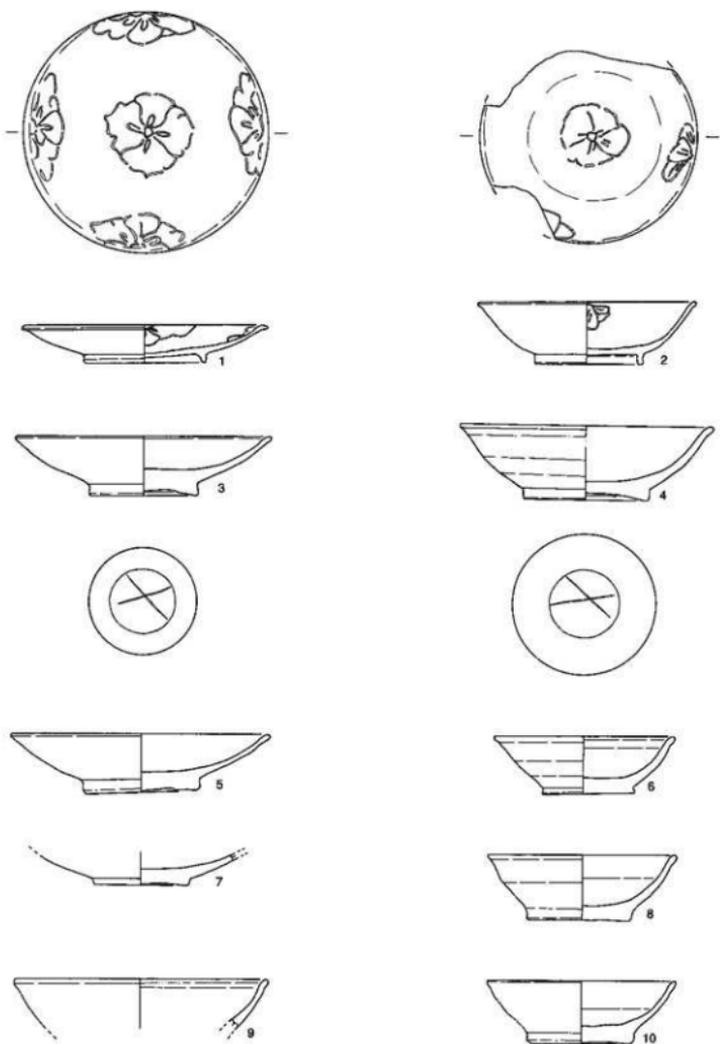
これらについて百瀬正和氏、吉村正親氏の教示によると口縁部分の打ち欠きは意図的なものであり、この打ち欠いた部分に燈芯を置いたとのことである。また、釉薬の部分的な変化は油を注ぎ灯火として用いる際、燈芯が置かれたと思われる部位を中心に釉薬が変化したとの教示を受けた。このことから緑釉陶器は祭祀儀礼における灯火として用いられ、祭祀が執り行われた後、木製品や他の土器とともにそのままSD01へと廃棄されたものと考えられる。

年代について、尾張産は形状や陰刻花文の描写などから黒鉄90号窯(K-90)期にあたり、9世紀後半から10世紀初頭にかけての時期に位置づけられる。皿は口縁端部の外反が大きく、水平に伸びるものであり、高橋照彦氏のA1類にあたる。A1は9世紀前半に位置づけられるため、皿はやや古相を呈していると思われる。壺は口縁端部の外反が小さく、高橋氏のA2類にあたり、高橋氏によると9世紀後半に位置づけられる。

洛北産は高台の形状が平底、蛇の目の2タイプがあり、輪高台のものは見られない。高橋照彦氏の緑釉陶器の分類によるとA2類にあたり、9世紀後半に位置づけられる。

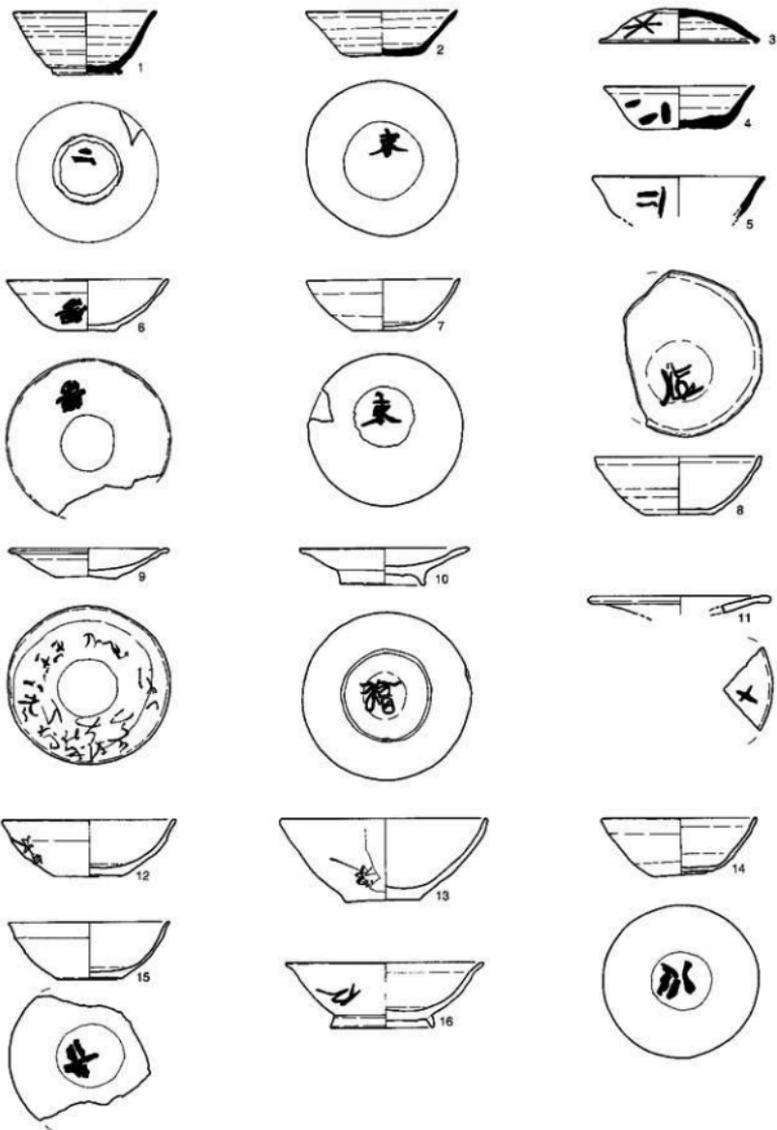
緑釉陶器は高級品としてこの地にもたらされたものである。他の土器や木製品と共に祭祀に用いられ、SD01に廃棄されたものと考えられる。年代も他の土器と同じく9世紀後半前後を示しており、SD01で祭祀が行われた時期を特定するものと思われる。

(藤田)



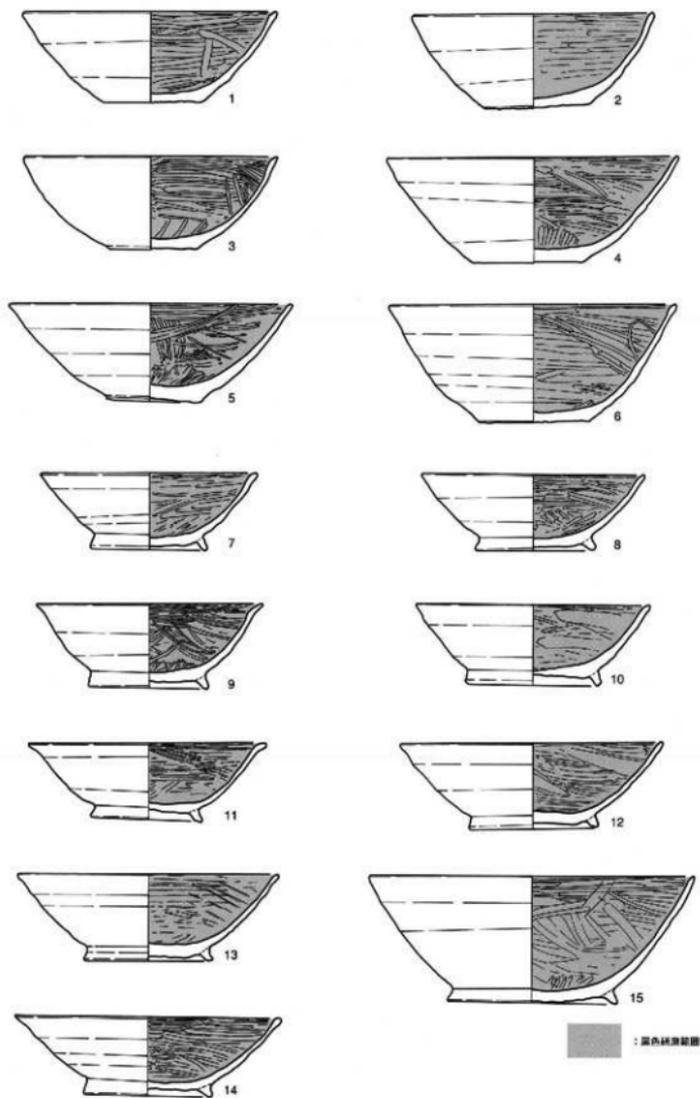
第15图 SD01出土绿釉陶器实例图 (1:3)





第16图 SD01出土墨书土器实测图 (1:4)





第17图 SD01出土黑色土器实测图 (1:3)

SD01より出土した土器には、先に述べた緑釉陶器の他に墨書土器・黒色土器・土師器・須恵器などが出土している。時期的なものは、やや須恵器に古相のものが見られるものの、ほぼ緑釉陶器と同様に黒埴90号窯(K-90)期に比定できる時期のものである。

墨書土器 (第16図)

SD01より出土した墨書土器は、15点である。本遺跡にて出土したものは14点であり、試掘調査によって確認されたものも含めると合計で16点である。SD01より出土した墨書の文字には、「仁」と記されているものが最も多く5点を数え、続いて「東」又は「束」と考えられるものが2点、さらに「泉」・「審」・「二」・「槍」などが1点ずつ見られた。記号的なものとしては、「十」と「十」がそれぞれ1点ずつ見られる。それ以外は、解釈不明が2点確認されている。試掘調査にて出土したものには「泉」や手習い墨書的なものが出土している。

墨書されている位置は底部中央が7点・側面が8点であり、墨痕を伴うものは見込みの中心付近に配置するものがほとんどであった。

「仁」の文字には、文字の全体的なバランスや、留め・払いといった筆使いなどから、文字が稚拙なものと、達筆なもの2種類が見られる。双方がそれぞれ同一の人物によって書かれたものかは不明であるが、その文字の意味を理解出来るものが存在していたことが、うかがえる格好な資料である。稚拙な方は、文字の配置などから、本遺構から出土した「二」の墨書を基本として、イを書き込み「仁」を作りだしていることが考えられる。

「東」又は「束」については、細筆書きで、現代の書き順などがほぼ一致し、さらに筆使い・文字のバランスなどの点で「仁」の墨書で云う達筆な方の書き方に類似している。この種類は「泉」・「槍」といった墨書にもその傾向が見られる。

文字の意味的なものは、一字による墨書であるため、断言するに足るものが無いのが現状である。そのようななかで、「泉」と云う墨書については、本遺跡周辺の二ノ井には、古くから二つの泉があり、村人の飲水になっていたと云う記述がある。また赤田と云う地名も古くアカモ(水草)が茂っていた所であり、そこから地名がついたとされている。いわゆる湿地に近い土地であった事が想像でき、この周辺特有の名称を指していることが考えられる。

「仁」については人名が考えられるが不明である。周辺遺跡では、北高木遺跡にその類例を見る事が出来る。

黒色土器 (第17図)

器種は無高台塚と有高台塚の2種類である。黒色土器は総数で25点であり、無高台のものは、11点、有高台のものは、14点である。小型のものには有高台塚が多く、無高台のものは、大型品に多く存在する傾向がある。有台塚は口径が4.9cm~5.7cmのものが多く見られ、無高台は口径5.8cm~8.1cmのものが存在する。

黒色研削は内面に限定され、そのミガキ方法には大きく分けて2種類が挙げられる。1類目が口端部・体部上半部・体部下半部とミガキ3区画に分かれて入り、さらに見込み部分には平行に入るものである。2類目は口端部・体部上半部には規則的なミガキが入り、見込み部分には平行に入るものの、体部下半部はやや不規則なミガキを施すものである。見込み部分に平行にミガキが入るなど、畿内の影響は見られるものの、全般的に在地色が強く現れたものである。

土師器 (第19・20・21・22・23・24・25図)

SD01からは土師器片で5876点の出土があった。うち接合作業によって、器種が判断できるものは、できる限り実測し掲載した。その総数は513点である。ここで使う器種名については、須恵器の系譜を引く無高台のものを塚A、有高台を塚Bとし、皿については、平底無高台を皿A、有高台のものを皿Bとした。

器種は杯・有高台塚・皿A・皿Bであり、出土傾向は杯が圧倒的に多く、続いて皿A・皿Bと続く(第4表参照)。杯には、法量分布図(第4表)から2種類のグループが見られる。I類が口径12cm~14cm・器高4cm~6cmのものであり、II類が口径15cm~18cm・器高5cm~6cmのまとまりのものである。数量的にはI類が圧倒的に多く出土してお

り、高台の付く埴Bは1点のみであった（第16図-16）。

形態は底部から口縁端部にかけて、やや内湾しながら立ち上がるものと、直線的に立ち上がるもの、さらに緩やかに内湾しながら立ち上がり、口縁部付近で緩やかに角度を変え外反し、口縁端部に至るものの3種類が見られる。この3種類のなかで、量的には内湾しながら立ち上がる物が多く、次いで内湾しながら立ち上がり口縁部付近で緩やかに外反するものが続く。

器厚は全般的に薄く、底部は埴Aの多くが回転糸切り未調整であり、数点ではあるが手持ちヘラゲズリを施すものが見られる。体部内外面はロクロナデが90%以上であるが、数点に体部外面下半への手持ちヘラゲズリを施すものが見られる。

赤彩は実測した土師器埴は、448点中223点であり、全体の約49%が施されていた。赤彩方法は、見込みの中心から円を描くように口縁端部にまで達するものであった。

皿類は、皿A55点、皿B9点である。皿Aの形態は、口縁部が「て」の字に似た口縁の形状を持つもの（第25図-52）が1点ある他は、直線的に開くものがほとんどで、やや口縁部内面部分を折り曲げた形のものも見られる。底部はすべて回転糸切り未調整である。皿Bの形態はほぼ皿Aの直線的に開くものに類似する。高台部分はハの字形に開き、高台径12cm・高台長0.5cmを測る。赤彩は皿A・皿B合わせて15点と埴と比べて少ない。

須恵器・土師器（第26・27図）

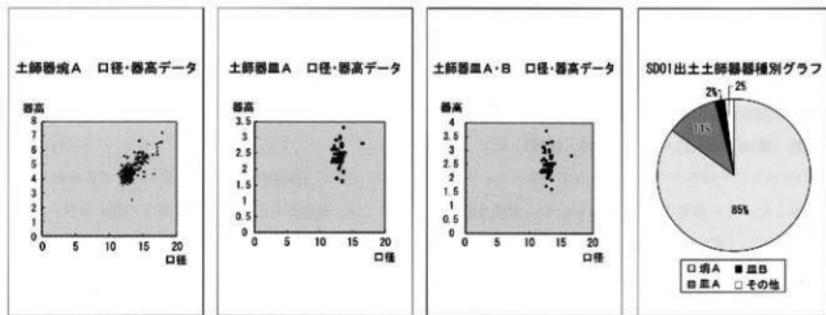
出土した須恵器は坏A・坏B・皿・蓋・双耳瓶・壺・瓶類・甕などが見られた。坏Aの口径の平均値は12.8cmであり、器高の平均値は4.3cmであった。量的には浅身のものが多く、深身のもの（第26図-22・23）も若干見られる。

浅身のものの形態は底部から口縁部へ内湾しながら立ち上がり、口縁端部へ外反して至るものと、直線的に立ち上がるものが見られた。底部はロクロヘラ切りである。深身のものは底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり、体部下半部に手持ちヘラゲズリ調整が入るものが見られた（26図-22）。坏Bは、口径の平均値が12.6cmと径が小さく、器高は5.25cmであった。形態としては、口縁部がやや外反するもののほか、直線的に立ち上がるものが見られ、高台部分は外側へ向くものや、平行に接地するものなどが見られた。

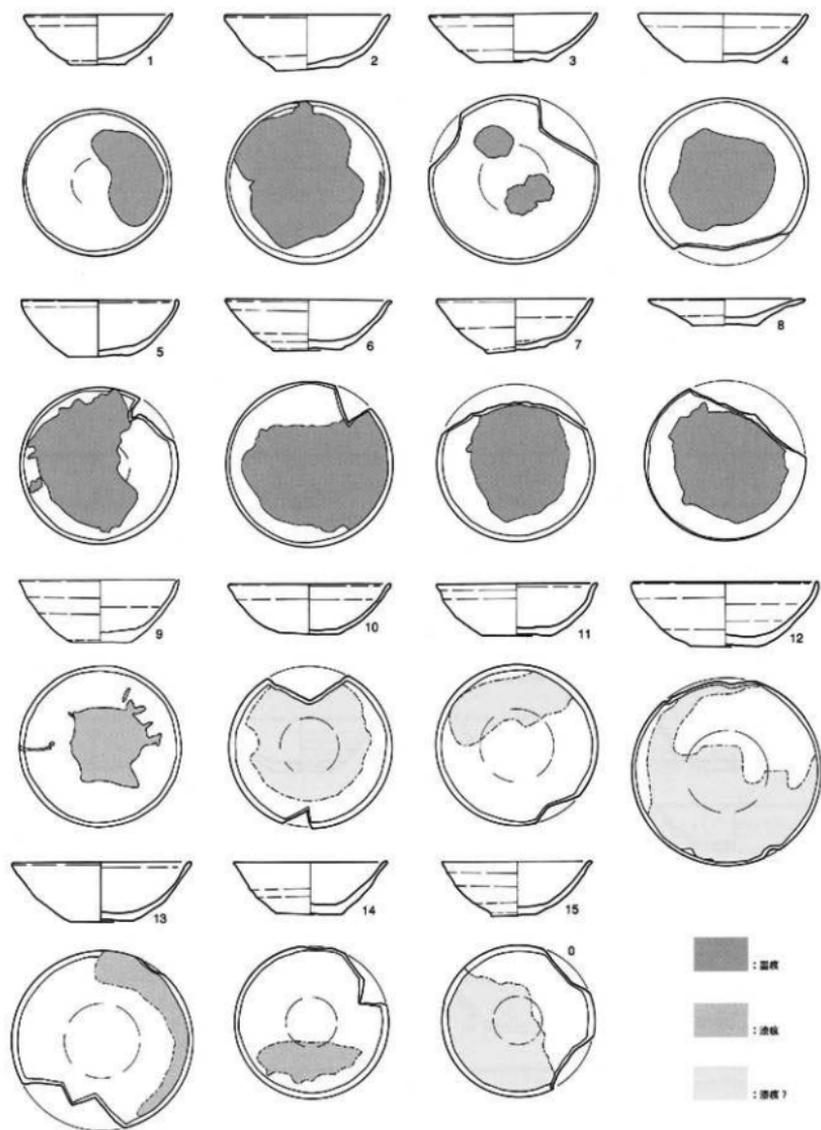
坏蓋は、転用硯として使用したと考えられるもの（第26図-5・6）があり、6は口径が大きく、端部は丸く取られた形であった。蓋は、扁平型であり、端部は丸形に納められているものや、断面三角形のものなどが見られる。ほかに水滴などの特殊器種も見られた。

貯蔵具としては、双耳瓶・小型長頸瓶、煮炊具として甕などがある。

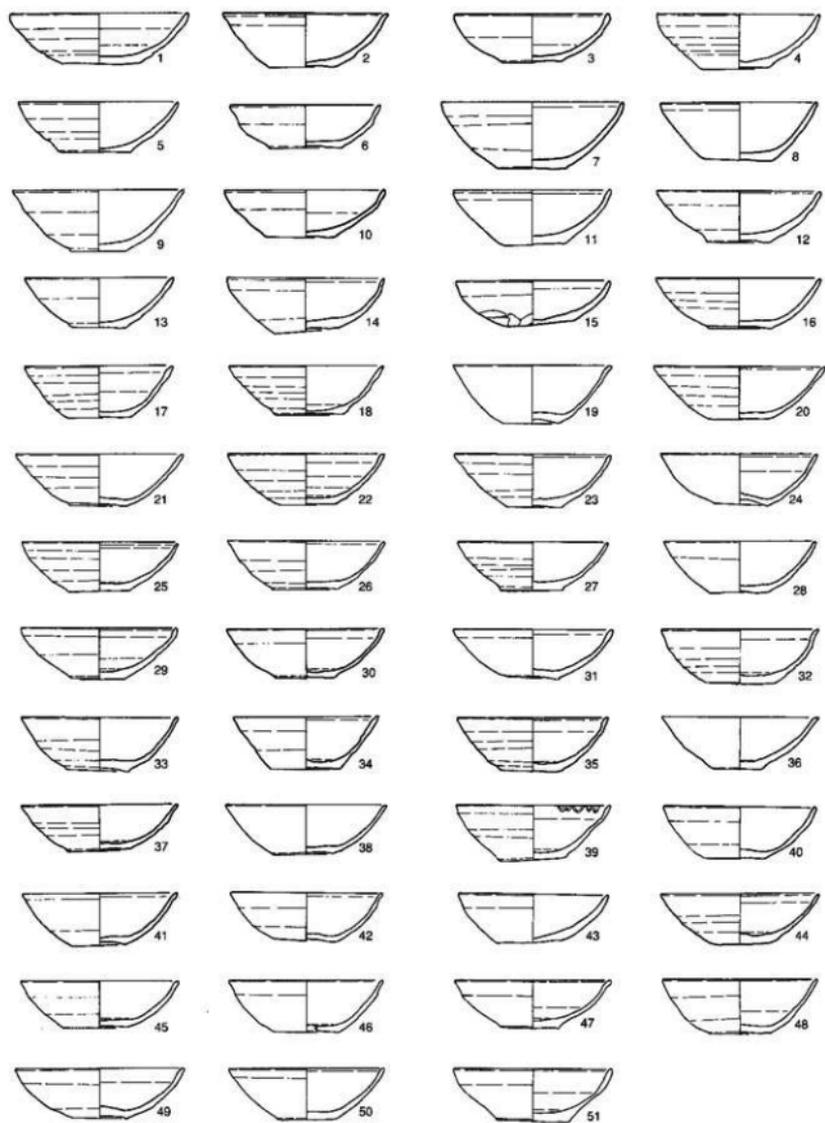
（新宅）



第4表 SD01出土遺物法量分布・器種構成比率

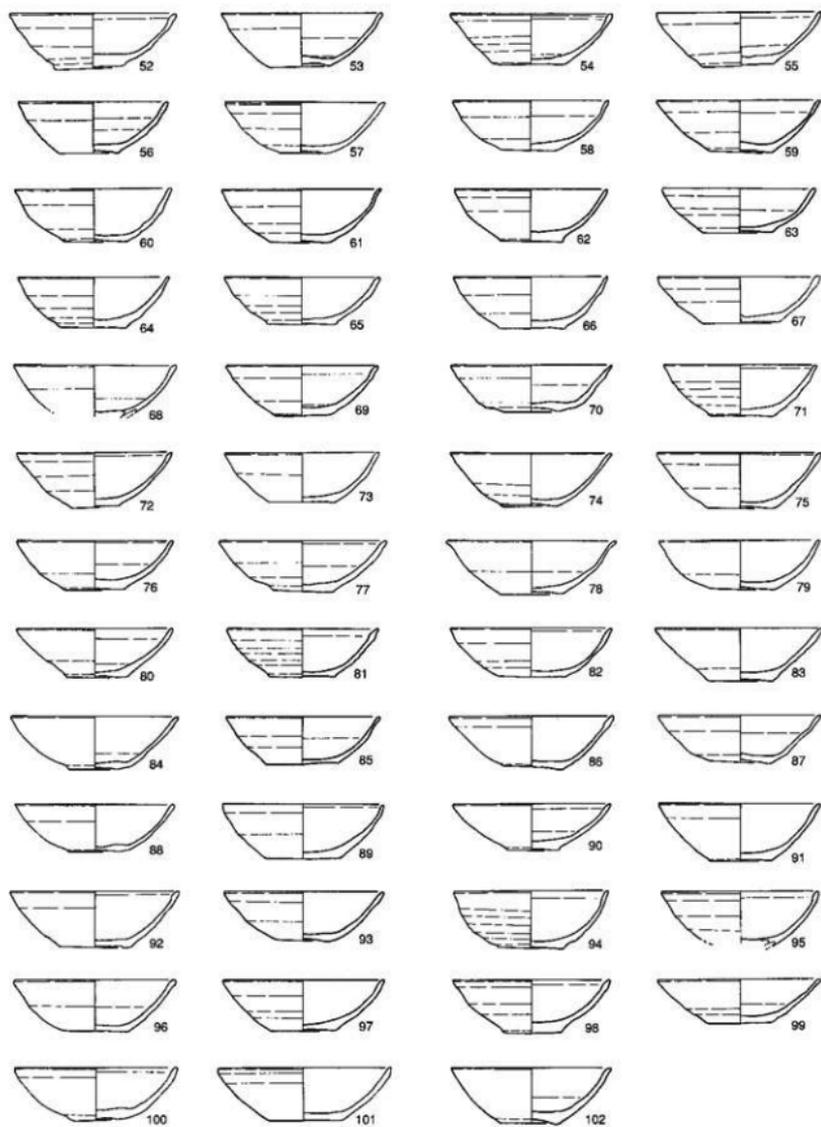


第18图 SD01出土墨痕·漆痕土器实测图 (1:4)



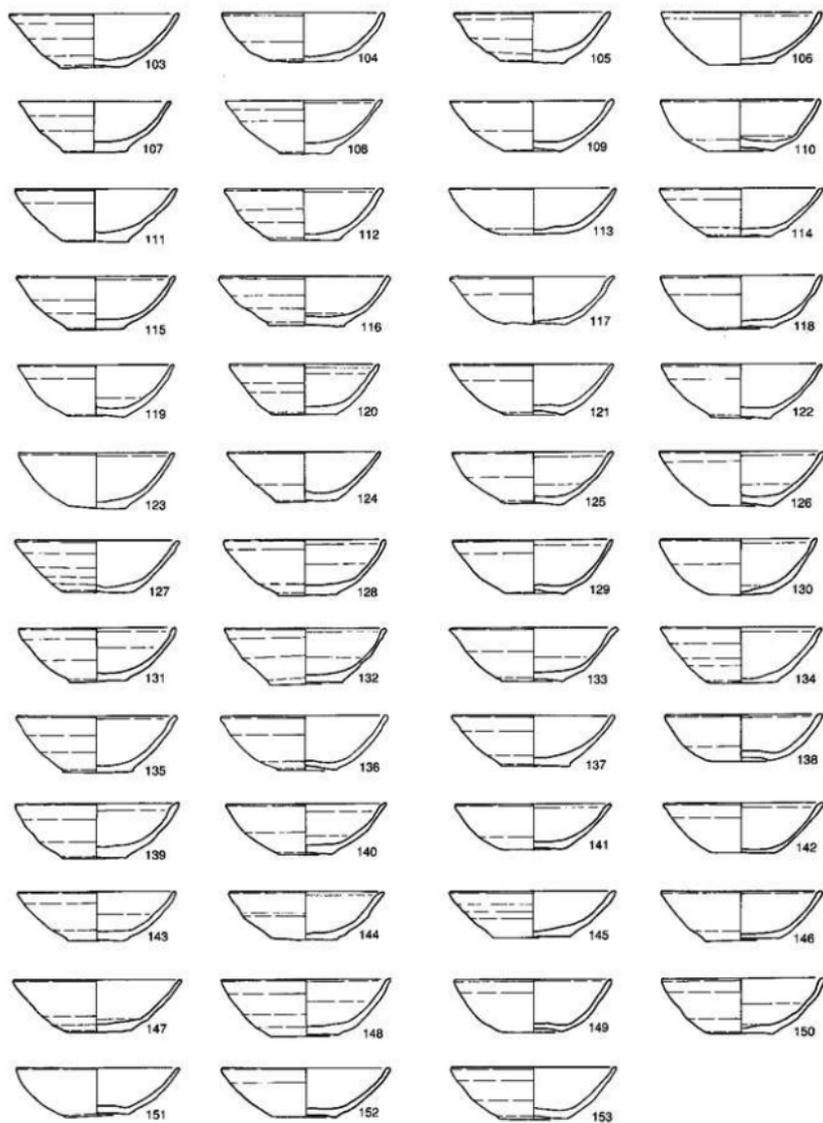
第19圖 SD01出土土師器境A実測圖1 (1:4)





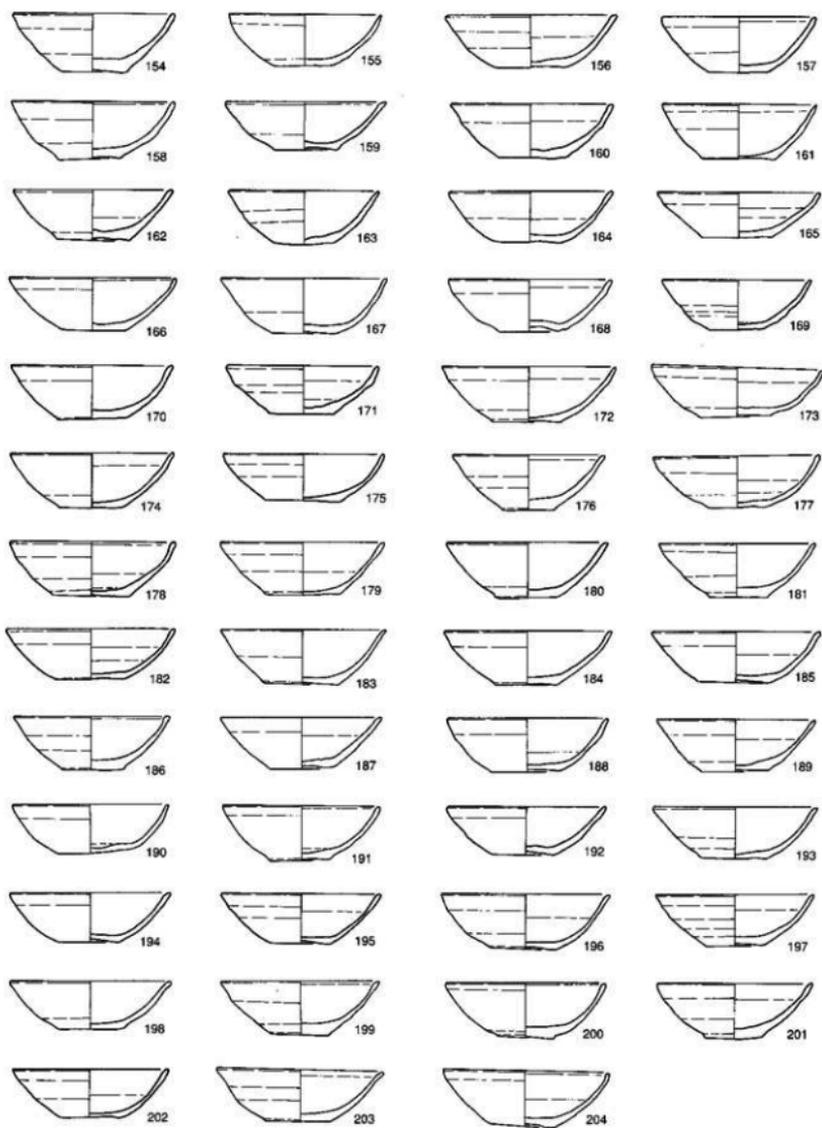
第20图 SD01出土土師器境A实测图2 (1:4)





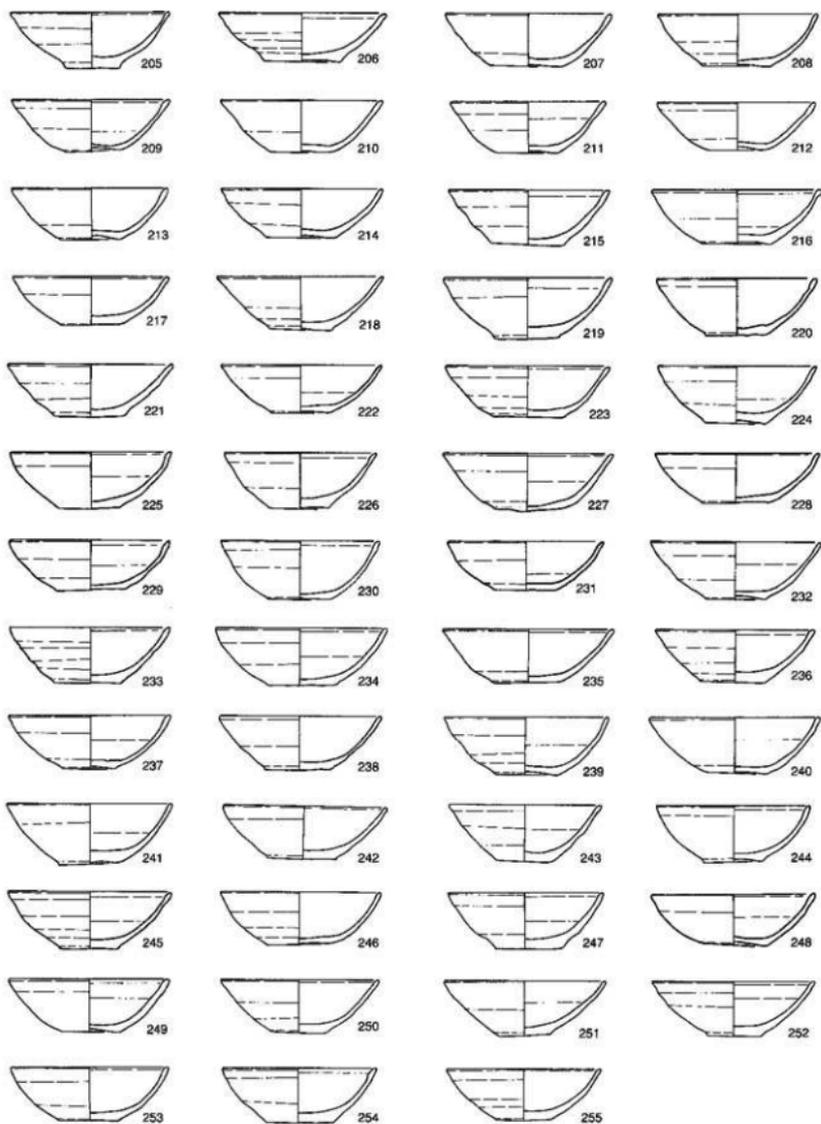
第21图 SD01出土土器器境A实测图3 (1:4)





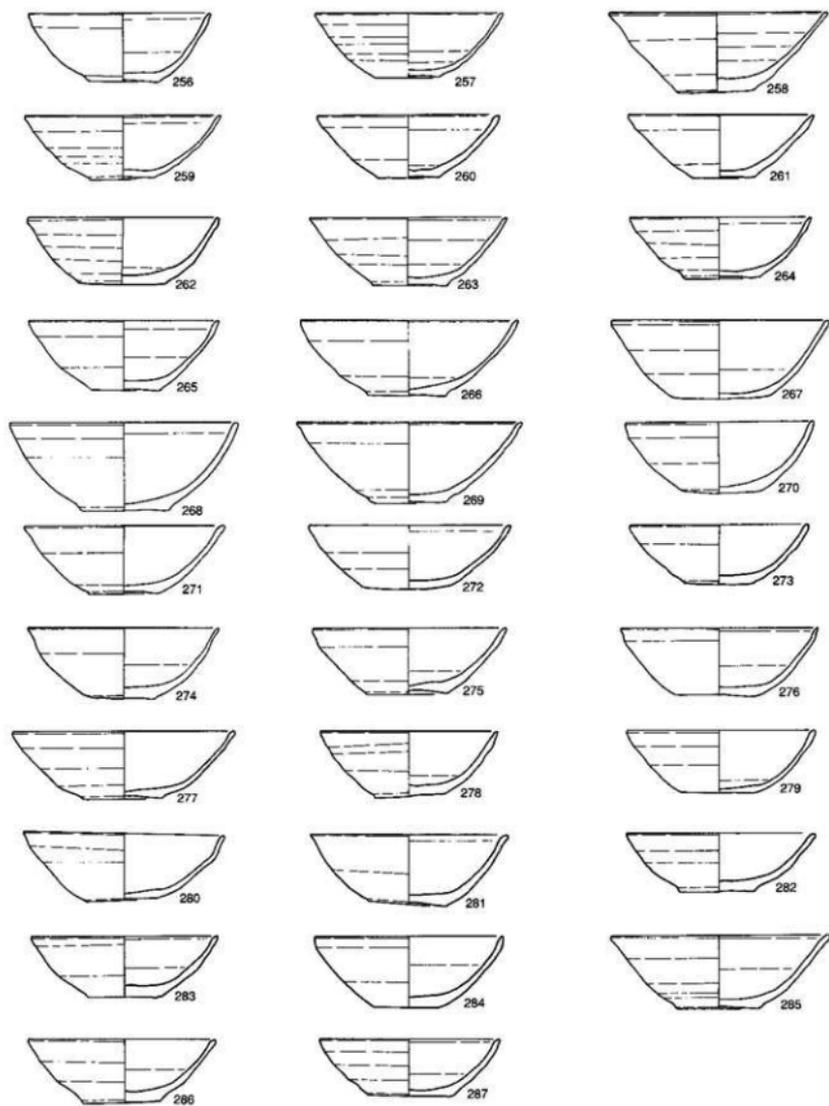
第22图 SD01出土土師器境A実測图4 (1:4)





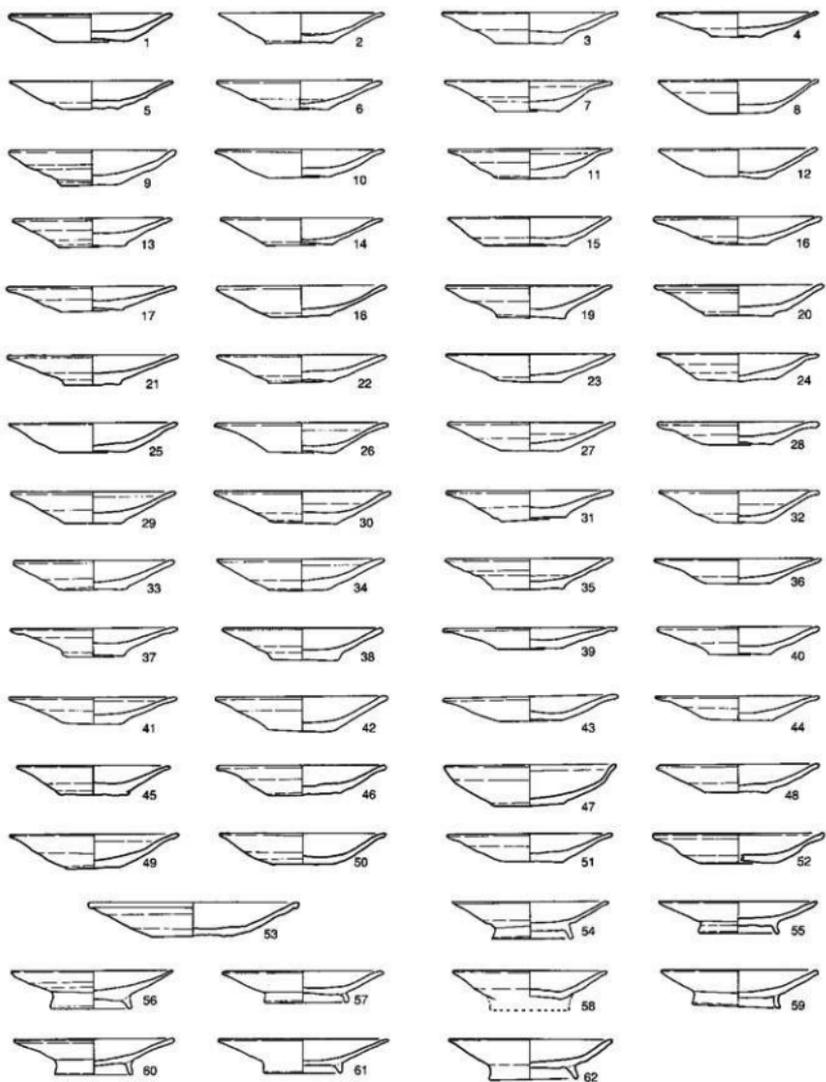
第23图 SD01出土土器器魂A实测图5 (1:4)





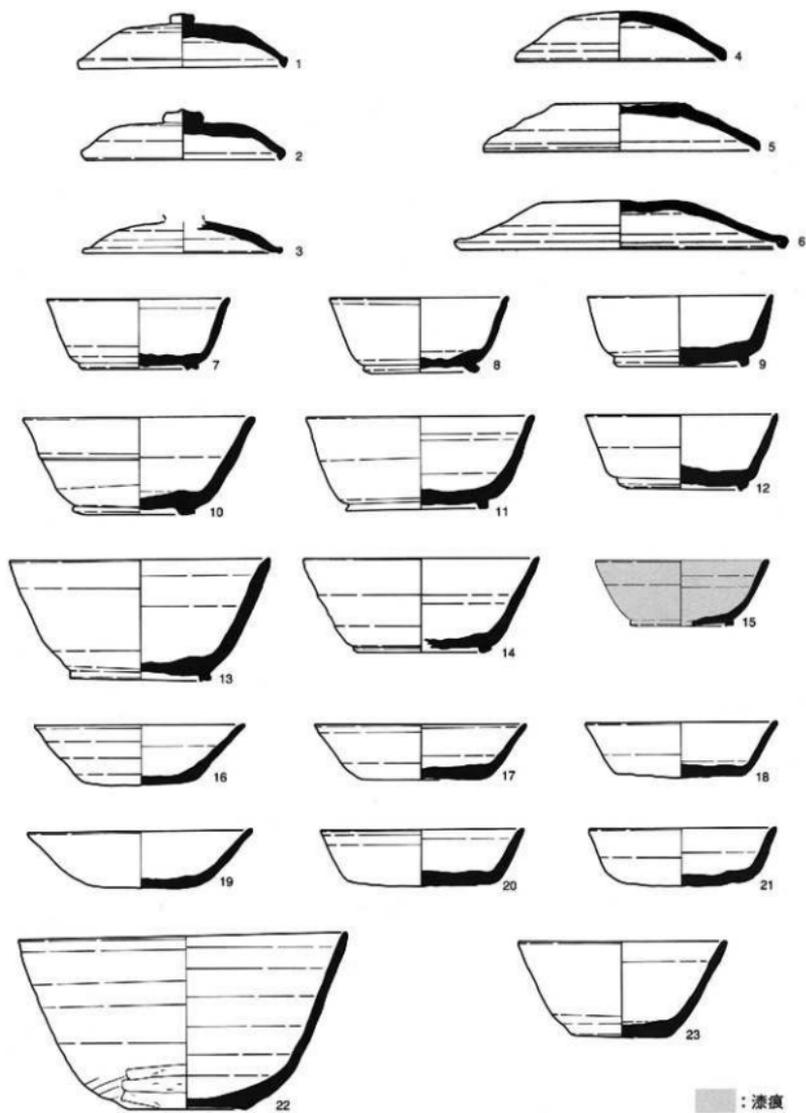
第24图 SD01出土土師器境A実測图6 (1:4)



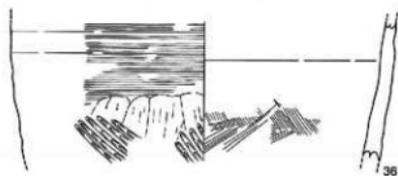
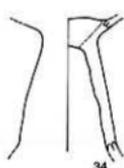
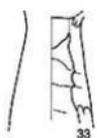
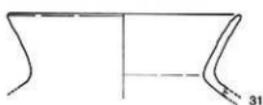
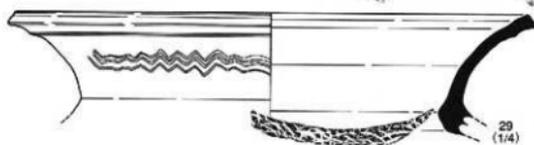
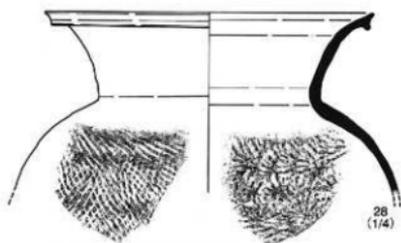
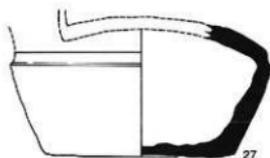
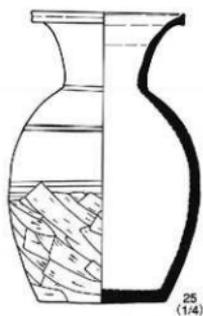
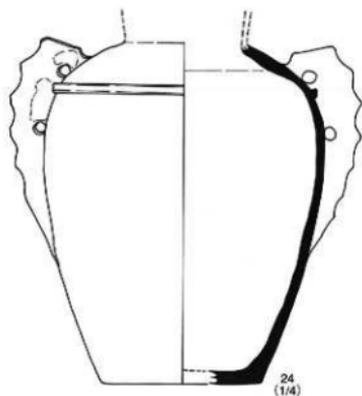


第25图 SD01出土土器器皿实测图 (1:4)





第26图 SD01出土遺物実測図 (1:3)



第27图 SD01出土遺物実測図 (1:3/1:4)

国环评号	审批	投资	建设	环评阶段	环评日期	环评单位	环评名称
10-1	环评	16.6	2.3	6.8		100100	环评
10-2	环评	13.2	3.8	5.8		30100	环评
10-3	环评	15.3	3.6	6.9		30100	环评
10-4	环评	14.9	4.5	7.3		34100	环评
10-5	环评	16.8	3.5	7.0		32100	环评
10-6	环评	10.6	3.7	5.6		50100	环评
10-7	环评	1.8	1.8	5.7		3010	环评
10-8	环评	2.0	3.7	5.8		50100	环评
10-9	环评	24.0	3.0	-		120	环评
10-10	环评	11.0	3.9	6.4		33100	环评
10-11	环评	11.5	5.2	4.7		30100	环评
10-12	环评	12.2	3.6	0.5		100100	环评
10-13	环评	12.2	2.8	-		100100	环评
10-14	环评	12.1	3.5	6.8		100100	环评
10-15	环评	14.0	3.4	-		40100	环评
10-16	环评	13.0	4.2	4.2		30100	环评
10-17	环评	12.4	4.2	4.8		30100	环评
10-18	环评	13.5	4.7	5.5		30100	环评
10-19	环评	23.0	2.4	4.6		100100	环评
10-20	环评	13.8	3.0	6.2		100100	环评
10-21	环评	15.0	1.9	-		50	环评
10-22	环评	13.0	4.8	3.5		100100	环评
10-23	环评	16.5	6.9	6.0		50100	环评
10-24	环评	13.7	4.8	4.8		200100	环评
10-25	环评	13.0	4.9	3.4		30100	环评
10-26	环评	13.0	5.3	8.0		100100	环评
10-27	环评	15.4	4.6	3.7		30100	环评
10-28	环评	14.8	4.8	6.4		100100	环评
10-29	环评	15.4	4.6	5.3		30100	环评
10-30	环评	17.6	6.4	6.6		30100	环评
10-31	环评	17.2	4.8	4.9		30100	环评
10-32	环评	17.4	7.1	6.7		30100	环评
10-33	环评	13.0	4.7	6.5		30100	环评
10-34	环评	13.4	4.75	6.7		30100	环评
10-35	环评	13.8	5.1	7.1		30100	环评
10-36	环评	16.2	4.5	7.0		30100	环评
10-37	环评	11.4	4.7	6.0		100100	环评
10-38	环评	16.0	5.25	7.2		30100	环评
10-39	环评	16.8	5.3	7.1		30100	环评
10-40	环评	16.2	4.9	7.0		30100	环评
10-41	环评	19.8	7.7	9.6		30100	环评
10-42	环评	12.0	4.1	4.4		100100	环评
10-43	环评	13.0	4.9	5.0		100100	环评
10-44	环评	3.3	4.05	6.0		30100	环评
10-45	环评	12.5	3.95	3.7		30100	环评
10-46	环评	12.6	4.61	5.1		30100	环评
10-47	环评	12.3	4.1	5.3		100100	环评
10-48	环评	12.6	4.2	4.6		30100	环评
10-49	环评	12.5	2.2	5.2		30100	环评
10-50	环评	12.8	5.1	5.3		30100	环评
10-51	环评	13.0	4.15	4.95		100100	环评
10-52	环评	12.95	4.75	5.35		30100	环评
10-53	环评	14.95	5.25	5.5		30100	环评
10-54	环评	14.3	5.25	5.1		30100	环评
10-55	环评	12.3	4.2	3.6		30100	环评
10-56	环评	11.9	4.45	3.5		30100	环评
10-57	环评	14.4	4.3	6.5		100100	环评
10-58	环评	13.3	4.6	5.3		30100	环评
10-59	环评	12.2	4.1	3.3		30100	环评
10-60	环评	12.9	4.1	5.8		30100	环评
10-61	环评	11.9	4.1	6.5		30100	环评
10-62	环评	12.6	4.8	5.4		30100	环评
10-63	环评	12.0	4.2	5.2		30100	环评
10-64	环评	12.5	2.2	5.2		30100	环评
10-65	环评	12.8	5.1	5.3		30100	环评
10-66	环评	13.0	4.15	5.05		30100	环评
10-67	环评	12.2	4.0	3.7		30100	环评
10-68	环评	12.2	4.05	5.05		30100	环评
10-69	环评	13.9	4.4	4.8		30100	环评
10-70	环评	12.8	5.3	5.3		30100	环评
10-71	环评	12.4	4.0	4.8		30100	环评
10-72	环评	14.95	5.25	5.5		30100	环评
10-73	环评	14.3	5.25	5.1		30100	环评
10-74	环评	12.3	4.2	3.6		30100	环评
10-75	环评	11.9	4.45	3.5		30100	环评
10-76	环评	14.4	4.3	6.5		100100	环评
10-77	环评	13.3	4.6	5.3		30100	环评
10-78	环评	12.2	4.1	3.3		30100	环评
10-79	环评	12.9	4.1	5.8		30100	环评
10-80	环评	11.9	4.1	6.5		30100	环评
10-81	环评	12.6	4.8	5.4		30100	环评
10-82	环评	12.0	4.2	5.2		30100	环评
10-83	环评	12.5	2.2	5.2		30100	环评
10-84	环评	12.8	5.1	5.3		30100	环评
10-85	环评	13.0	4.15	5.05		30100	环评
10-86	环评	12.2	4.0	3.7		30100	环评
10-87	环评	12.2	4.05	5.05		30100	环评
10-88	环评	13.9	4.4	4.8		30100	环评
10-89	环评	12.8	5.3	5.3		30100	环评
10-90	环评	12.4	4.0	4.8		30100	环评
10-91	环评	14.95	5.25	5.5		30100	环评
10-92	环评	14.3	5.25	5.1		30100	环评
10-93	环评	12.3	4.2	3.6		30100	环评
10-94	环评	11.9	4.45	3.5		30100	环评
10-95	环评	14.4	4.3	6.5		100100	环评
10-96	环评	13.3	4.6	5.3		30100	环评
10-97	环评	12.2	4.1	3.3		30100	环评
10-98	环评	12.9	4.1	5.8		30100	环评
10-99	环评	11.9	4.1	6.5		30100	环评
10-100	环评	12.6	4.8	5.4		30100	环评
10-101	环评	12.0	4.2	5.2		30100	环评
10-102	环评	12.5	2.2	5.2		30100	环评
10-103	环评	12.8	5.1	5.3		30100	环评
10-104	环评	13.0	4.15	5.05		30100	环评
10-105	环评	12.2	4.0	3.7		30100	环评
10-106	环评	12.2	4.05	5.05		30100	环评
10-107	环评	13.9	4.4	4.8		30100	环评
10-108	环评	12.8	5.3	5.3		30100	环评
10-109	环评	12.4	4.0	4.8		30100	环评
10-110	环评	14.95	5.25	5.5		30100	环评
10-111	环评	14.3	5.25	5.1		30100	环评
10-112	环评	12.3	4.2	3.6		30100	环评
10-113	环评	11.9	4.45	3.5		30100	环评
10-114	环评	14.4	4.3	6.5		100100	环评
10-115	环评	13.3	4.6	5.3		30100	环评
10-116	环评	12.2	4.1	3.3		30100	环评
10-117	环评	12.9	4.1	5.8		30100	环评
10-118	环评	11.9	4.1	6.5		30100	环评
10-119	环评	12.6	4.8	5.4		30100	环评
10-120	环评	12.0	4.2	5.2		30100	环评
10-121	环评	12.5	2.2	5.2		30100	环评
10-122	环评	12.8	5.1	5.3		30100	环评
10-123	环评	13.0	4.15	5.05		30100	环评
10-124	环评	12.2	4.0	3.7		30100	环评
10-125	环评	12.2	4.05	5.05		30100	环评
10-126	环评	13.9	4.4	4.8		30100	环评
10-127	环评	12.8	5.3	5.3		30100	环评
10-128	环评	12.4	4.0	4.8		30100	环评
10-129	环评	14.95	5.25	5.5		30100	环评
10-130	环评	14.3	5.25	5.1		30100	环评
10-131	环评	12.3	4.2	3.6		30100	环评
10-132	环评	11.9	4.45	3.5		30100	环评
10-133	环评	14.4	4.3	6.5		100100	环评
10-134	环评	13.3	4.6	5.3		30100	环评
10-135	环评	12.2	4.1	3.3		30100	环评
10-136	环评	12.9	4.1	5.8		30100	环评
10-137	环评	11.9	4.1	6.5		30100	环评
10-138	环评	12.6	4.8	5.4		30100	环评
10-139	环评	12.0	4.2	5.2		30100	环评
10-140	环评	12.5	2.2	5.2		30100	环评
10-141	环评	12.8	5.1	5.3		30100	环评
10-142	环评	13.0	4.15	5.05		30100	环评
10-143	环评	12.2	4.0	3.7		30100	环评
10-144	环评	12.2	4.05	5.05		30100	环评
10-145	环评	13.9	4.4	4.8		30100	环评
10-146	环评	12.8	5.3	5.3		30100	环评
10-147	环评	12.4	4.0	4.8		30100	环评
10-148	环评	14.95	5.25	5.5		30100	环评
10-149	环评	14.3	5.25	5.1		30100	环评
10-150	环评	12.3	4.2	3.6		30100	环评
10-151	环评	11.9	4.45	3.5		30100	环评
10-152	环评	14.4	4.3	6.5		100100	环评
10-153	环评	13.3	4.6	5.3		30100	环评
10-154	环评	12.2	4.1	3.3		30100	环评
10-155	环评	12.9	4.1	5.8		30100	环评
10-156	环评	11.9	4.1	6.5		30100	环评
10-157	环评	12.6	4.8	5.4		30100	环评
10-158	环评	12.0	4.2	5.2		30100	环评
10-159	环评	12.5	2.2	5.2		30100	环评
10-160	环评	12.8	5.1	5.3		30100	环评
10-161	环评	13.0	4.15	5.05		30100	环评
10-162	环评	12.2	4.0	3.7		30100	环评
10-163	环评	12.2	4.05	5.05		30100	环评
10-164	环评	13.9	4.4	4.8		30100	环评
10-165	环评	12.8	5.3	5.3		30100	环评
10-166	环评	12.4	4.0	4.8		30100	环评
10-167	环评	14.95	5.25	5.5		30100	环评
10-168	环评	14.3	5.25	5.1		30100	环评
10-169	环评	12.3	4.2	3.6		30100	环评
10-170	环评	11.9	4.45	3.5		30100	环评

国环评号	审批	投资	建设	环评阶段	环评日期	环评单位	环评名称
10-171	环评	12.6	4.2	4.3		30100	环评
10-172	环评	12.6	4.0	5.0		30100	环评
10-173	环评	10.7	3.9	5.4		30100	环评
10-174	环评	12.5	4.5	4.6		30100	环评
10-175	环评	12.3	4.1	4.8		30100	环评
10-176	环评	12.6	4.1	4.2		30100	环评
10-177	环评	10.7	4.0	4.8		30100	环评
10-178	环评	12.5	3.5	4.1		30100	环评
10-179	环评	12.4	4.3	5.3		30100	环评
10-180	环评	12.6	4.3	4.3		30100	环评
10-181	环评	11.7	4.3	2.0		30100	环评
10-182	环评	12.2	4.56	4.2		30100	环评

編號	地點	時期	面積	層數	用途	出土品	數量	備註
22-103	埔心	13.4	5.1	3.4	○	○	300/100	
22-104	埔心	12.8	4.0	3.8			300/100	
22-105	埔心	12.2	4.1	5.0			300/100	
22-106	埔心	12.6	4.35	5.0			80/100	
21-107	埔心	12.0	4.2	5.1			300/100	
22-108	埔心	12.3	4.4	4.2			300/100	
21-109	埔心	12.8	4.3	4.4	○	○	80/100	
22-110	埔心	12.4	4.25	5.4	○	○	300/100	
22-111	埔心	12.75	4.40	5.4	○	○	300/100	
21-112	埔心	12.4	4.2	5.5			80/100	
22-113	埔心	12.1	3.75	4.9			300/100	
22-114	埔心	12.7	3.8	3.0	○	○	300/100	
22-115	埔心	12.5	4.35	4.3			300/100	
22-116	埔心	13.4	4.1	6.0	○	○	850/100	
22-117	埔心	12.8	4.0	6.1	○	○	80/100	
22-118	埔心	12.8	4.35	5.2	○	○	740/100	
22-119	埔心	12.2	4.3	4.6			300/100	內置門牌號碼
22-120	埔心	11.8	1.1	5.8			300/100	
22-121	埔心	12.75	4.15	4.7	○	○	960/100	
22-122	埔心	12.5	4.65	4.7			800/100	
21-123	埔心	12.3	4.6	4.7	○	○	300/100	
22-124	埔心	12.3	4.2	4.9			300/100	
22-125	埔心	12.65	4.3	4.8			300/100	
21-126	埔心	12.8	4.2	4.9	○	○	300/100	
22-127	埔心	12.5	4.75	5.65	○	○	100/100	
22-128	埔心	12.7	4.33	4.63			300/100	
22-129	埔心	12.6	4.35	4.8			300/100	內置樓梯
22-130	埔心	12.3	4.6	4.63	○	○	87/100	
21-131	埔心	12.25	4.4	4.6	○	○	80/100	
22-132	埔心	12.75	4.5	5.8			85/100	
22-133	埔心	13.0	4.25	4.9	○	○	88/100	
21-134	埔心	12.63	4.58	5.7			98/100	
22-135	埔心	12.7	4.6	5.5			82/100	
21-136	埔心	13.2	4.65	4.8	○	○	96/100	
21-137	埔心	12.8	4.5	5.4			80/100	
22-138	埔心	12.3	3.75	4.7	○	○	300/100	
21-139	埔心	12.8	4.45	5.0	○	○	300/100	
22-140	埔心	12.5	4.1	4.2			700/100	
21-141	埔心	12.3	3.7	4.9			300/100	
22-142	埔心	12.5	4.1	4.9			300/100	
22-143	埔心	12.5	4.0	4.8	○	○	300/100	打噴嚏?
21-144	埔心	12.2	3.9	6.3			300/100	
22-145	埔心	13.0	3.8	6.0			300/100	
22-146	埔心	13.2	4.1	3.7			300/100	
22-147	埔心	13.3	4.2	5.3	○	○	300/100	
22-148	埔心	13.5	4.6	3.4	○	○	300/100	
22-149	埔心	12.4	4.3	4.7			300/100	
22-150	埔心	12.8	4.45	5.25			300/100	
22-151	埔心	12.9	4.0	5.2	○	○	300/100	
22-152	埔心	12.4	4.0	5.2	○	○	300/100	一併
22-153	埔心	13.0	4.3	5.3	○	○	300/100	
22-154	埔心	12.4	4.75	5.2	○	○	300/100	
22-155	埔心	11.53	4.2	4.8			300/100	
22-156	埔心	13.3	4.25	5.4			82/100	
22-157	埔心	12.3	4.5	4.65	○	○	300/100	內置一號樓梯
22-158	埔心	12.9	4.7	4.9			300/100	
22-159	埔心	12.5	3.0	4.95			60/80	
22-160	埔心	12.7	4.4	5.4	○	○	300/100	內置樓梯
22-161	埔心	12.4	4.4	5.8			50/100	
22-162	埔心	12.6	4.1	5.8			300/100	
22-163	埔心	12.8	4.4	5.0	○	○	300/100	
22-164	埔心	12.8	4.3	5.9	○	○	750/100	
22-165	埔心	12.8	3.7	5.75			80/100	
22-166	埔心	13.2	4.3	5.3	○	○	430/100	打噴嚏?
22-167	埔心	13.05	4.5	6.15	○	○	80/100	一併
22-168	埔心	12.75	4.3	4.63	○	○	300/100	內置
22-169	埔心	11.75	4.1	6.4	○	○	300/100	一併
22-170	埔心	12.8	4.33	5.7	○	○	940/100	
22-171	埔心	12.0	3.83	3.0			81/100	
22-172	埔心	13.6	4.3	5.4	○	○	880/100	一併
22-173	埔心	13.35	4.0	3.30			73/100	
22-174	埔心	13.0	4.45	5.0	○	○	300/100	
22-175	埔心	12.8	4.0	6.0	○	○	890/100	內置
22-176	埔心	11.95	4.5	5.2			300/100	
22-177	埔心	12.3	4.2	4.7	○	○	360/100	一併
22-178	埔心	13.15	4.05	6.0			88/100	
22-179	埔心	13.0	4.3	6.0			300/100	
22-180	埔心	12.7	4.5	5.2	○	○	84/100	
22-181	埔心	12.2	4.35	4.8			70/100	

編號	地點	時期	面積	層數	用途	出土品	數量	備註
22-182	埔心	13.5	4.3	5.4	○	○	300/100	
22-183	埔心	13.1	4.35	5.85			67/100	
22-184	埔心	13.2	4.35	4.8	○	○	300/100	
22-185	埔心	13.4	4.15	3.05	○	○	80/100	
22-186	埔心	12.4	4.3	5.0			300/100	內置樓梯
22-187	埔心	12.7	4.2	3.0			80/100	
22-188	埔心	12.65	4.35	5.15			80/100	內置樓梯
22-189	埔心	12.5	4.2	5.4			100/100	
22-190	埔心	12.3	4.0	5.3			100/100	
22-191	埔心	12.4	4.4	4.6	○	○	300/100	
22-192	埔心	12.4	3.3	4.8	○	○	300/100	
22-193	埔心	12.9	4.2	5.3			78/100	
22-194	埔心	12.8	4.0	4.8	○	○	300/100	
22-195	埔心	12.3	4.05	4.85	○	○	88/100	
22-196	埔心	13.3	4.3	5.4			76/100	
22-197	埔心	12.4	4.15	4.7	○	○	93/100	
22-198	埔心	12.6	3.9	5.3			80/100	
22-199	埔心	12.4	4.4	4.7			82/100	
22-200	埔心	12.3	4.4	4.5	○	○	76/100	
22-201	埔心	12.3	4.55	4.6	○	○	73/100	
22-202	埔心	12.35	3.9	4.8	○	○	76/100	
22-203	埔心	12.1	4.2	5.2			66/100	
22-204	埔心	12.2	4.05	5.3	○	○	300/100	
22-205	埔心	12.4	4.3	4.2			63/100	
22-206	埔心	12.1	3.9	6.1			88/100	
22-207	埔心	13.0	4.3	5.7			70/100	
22-208	埔心	12.5	4.0	5.95			76/100	
22-209	埔心	12.4	4.15	4.4	○	○	300/100	
22-210	埔心	12.7	4.5	5.1	○	○	300/100	
22-211	埔心	12.8	4.25	4.7	○	○	300/100	
22-212	埔心	12.3	3.9	4.6	○	○	300/100	
22-213	埔心	12.5	4.3	4.7	○	○	300/100	
22-214	埔心	12.7	3.95	5.15	○	○	76/100	
22-215	埔心	12.65	4.45	5.8			76/100	
22-216	埔心	13.2	4.35	5.4	○	○	78/100	
22-217	埔心	12.7	5.0	4.7			76/100	
22-218	埔心	13.1	4.4	4.8	○	○	80/100	內置
22-219	埔心	13.0	5.0	5.1			84/100	
22-220	埔心	12.8	4.0	5.0	○	○	80/100	內置衛生槽
22-221	埔心	12.95	4.3	5.5			100/100	
22-222	埔心	12.7	3.9	4.5	○	○	300/100	
22-223	埔心	12.8	4.2	5.7	○	○	300/100	
22-224	埔心	12.4	4.7	4.8	○	○	300/100	
22-225	埔心	13.05	4.8	4.9	○	○	65/100	
22-226	埔心	12.0	4.5	4.6			100/100	
22-227	埔心	13.56	4.66	5.6			86/100	
22-228	埔心	13.05	4.05	3.3			96/100	
22-229	埔心	13.6	4.1	3.3	○	○	300/100	
22-230	埔心	12.5	4.7	4.95	○	○	100/100	
22-231	埔心	12.6	4.0	4.8	○	○	300/100	
22-232	埔心	13.4	4.65	4.75	○	○	94/100	
22-233	埔心	12.7	4.3	3.3			86/100	
22-234	埔心	13.5	4.65	5.65	○	○	91/100	
22-235	埔心	13.5	4.4	5.3			100/100	
22-236	埔心	12.65	4.2	3.3			100/100	
22-237	埔心	12.8	4.3	4.1	○	○	300/100	
22-238	埔心	12.8	4.4	3.3	○	○	100/100	
22-239	埔心	13.1	4.63	3.0	○	○	85/100	
22-240	埔心	13.3	4.5	4.4	○	○	300/100	
22-241	埔心	13.0	4.9	4.9	○	○	88/100	
22-242	埔心	12.9	4.8	5.0	○	○	96/100	一併
22-243	埔心	12.7	4.6	4.3			100/100	
22-244	埔心	12.1	4.6	4.6	○	○	300/100	一併
22-245	埔心	12.8	4.65	4.4			100/100	
22-246	埔心	12.65	4.35	5.1	○	○	80/100	
22-247	埔心	12.4	4.5	5.3			100/100	
22-248	埔心	12.8	4.1	5.13	○	○	100/100	
22-249	埔心	12.5	4.35	4.7	○	○	300/100	
22-250	埔心	12.3	4.25	4.5			100/100	
22-251	埔心	12.9	4.4	6.1	○	○	300/100	
22-252	埔心	12.8	4.4	4.3			80/100	
22-253	埔心	12.4	4.3	4.75	○	○	300/100	
22-254	埔心	12.1	4.6	5.1			100/100	
22-255	埔心	12.33	4.13	4.8			100/100	

第 6 表 SD01 出土遺物觀察表

器物番号	群	種	寸法	容	高	底径	口径	外径	底径	備	考
24-236	縄文	土器	14.5	6.6	5.3	○	口縁		10000		
24-237	縄文	土器	15.0	6.2	4.6	○	口縁		100100		
24-238	縄文	土器	17.4	6.5	6.7	○			95000		
24-239	縄文	土器	15.5	5.2	5.3	○	口縁		98000		
24-240	縄文	土器	14.5	5.1	5.9	○			96000		
24-241	縄文	土器	14.4	5.1	5.8	○	口縁		98000		
24-242	縄文	土器	13.0	5.4	4.8	○			92000		
24-243	縄文	土器	13.6	5.5	5.9	○			90000		
24-244	縄文	土器	14.2	5.0	6.2	○			63000		
24-245	縄文	土器	15.0	5.6	6.3	○	口縁		70000		
24-246	縄文	土器	12.5	6.15	6.2	○	口縁		88000		
24-247	縄文	土器	17.1	6.4	7.6	○			60800		
24-248	縄文	土器	16.0	7.2	6.8	○			61000		
24-249	縄文	土器	17.8	6.15	6.2	○			62800		
24-250	縄文	土器	14.75	5.8	6.35	口縁			82000		
24-251	縄文	土器	13.7	5.55	5.4	○	口縁		90000		
24-252	縄文	土器	15.3	5.25	7.5	○			85000		
24-253	縄文	土器	13.9	4.9	5.25	○			100000		
24-254	縄文	土器	5.1	5.4	5.4	○			98000		
24-255	縄文	土器	16.2	5.35	6.95	○			100000		
24-256	縄文	土器	16.5	5.5	6.3	○			70000		
24-257	縄文	土器	17.3	5.65	6.0	○			100000		
24-258	縄文	土器	14.0	5.3	5.5	○	口縁		82000		
24-259	縄文	土器	11.8	5.1	6.0	○			86000		
24-260	縄文	土器	15.75	5.4	5.7	○			100000		
24-261	縄文	土器	15.9	5.7	6.2	○	口縁		91000		
24-262	縄文	土器	14.7	4.7	6.0	○			71000		
24-263	縄文	土器	14.7	4.95	5.5	○			82000		
24-264	縄文	土器	14.8	5.75	5.7	○	口縁		85000		
24-265	縄文	土器	17.2	5.5	6.45	口縁			98000		
24-266	縄文	土器	14.8	5.15	6.05	○			90000		
24-267	縄文	土器	14.3	4.6	6.0	○			82000		
25	縄文	土器	13.3	2.3	5.8	○			90000		
25-1	縄文	土器	12.1	2.4	5.4	○	口縁		100000	片縁器の遺棄	
25-2	縄文	土器	14.0	2.5	5.2	○			100000		
25-3	縄文	土器	12.0	2.0	4.2	○			90000		
25-4	縄文	土器	13.1	2.3	4.5	○			95000		
25-5	縄文	土器	13.2	2.5	4.7	○			96000		
25-6	縄文	土器	13.0	2.5	5.1	○			84000		
25-7	縄文	土器	12.4	2.7	3.4	○			65000		
25-8	縄文	土器	13.5	2.0	5.9	○			90000		
25-9	縄文	土器	13.3	2.45	5.0	○	口縁		63000		
25-10	縄文	土器	12.8	2.5	5.7	○			96000		
25-11	縄文	土器	12.4	2.5	4.95	○			9080		
25-12	縄文	土器	12.4	2.3	5.45	○			100000		
25-13	縄文	土器	12.6	2.3	5.3	○			100000		
25-14	縄文	土器	12.8	2.3	6.45	○	口縁		100000		
25-15	縄文	土器	13.4	2.2	4.45	口縁			100000		
25-16	縄文	土器	13.6	2.0	5.0	○			100000		
25-17	縄文	土器	13.5	2.5	4.7	口縁			100000		
25-18	縄文	土器	13.1	2.5	3.4	口縁			100000		
25-19	縄文	土器	13.6	2.5	5.6	○			85000		
25-20	縄文	土器	13.6	2.4	4.6	○			100000		
25-21	縄文	土器	13.4	2.1	5.0	○			75000		
25-22	縄文	土器	13.3	2.3	5.1	○	口縁		70000		
25-23	縄文	土器	12.9	2.3	6.3	○			78000		
25-24	縄文	土器	13.5	2.3	5.5	○			66000		
25-25	縄文	土器	13.7	2.4	5.5	○			25000		
25-26	縄文	土器	13.2	2.3	4.7	○			50000		
25-27	縄文	土器	13.0	1.7	5.6	○			66000		
25-28	縄文	土器	13.1	2.5	4.7	○	口縁		100000		
25-29	縄文	土器	13.0	2.5	5.2	口縁			57000		
25-30	縄文	土器	13.2	2.4	5.7	口縁			100000		
25-31	縄文	土器	12.9	2.6	4.3	口縁			100000		
25-32	縄文	土器	12.8	2.3	5.5	口縁			78000		
25-33	縄文	土器	13.2	2.5	4.9	口縁			67000		
25-34	縄文	土器	13.3	2.3	5.4	口縁			50000		
25-35	縄文	土器	13.2	2.1	5.2	口縁			86000		
25-36	縄文	土器	13.4	2.3	4.6	口縁			49000		
25-37	縄文	土器	12.7	2.6	5.4	口縁			86000		
25-38	縄文	土器	13.8	1.7	5.1	口縁			50000		
25-39	縄文	土器	13.0	2.2	4.9	口縁			100000		
25-40	縄文	土器	13.7	3.1	5.6	口縁			16000		
25-41	縄文	土器	13.7	1.9	4.9	口縁			80000		
25-42	縄文	土器	13.7	3.3	5.3	口縁			9600		
25-43	縄文	土器	13.8	2.6	4.7	口縁			54000		
25-44	縄文	土器	13.4	2.15	4.9	口縁			100000		
25-45	縄文	土器	13.2	2.0	5.6	口縁			100000		
25-46	縄文	土器	13.3	2.3	5.8	口縁			86000		
25-47	縄文	土器	13.5	2.5	5.1	口縁			62000		

器物番号	群	種	寸法	容	高	底径	口径	外径	底径	備	考
25-48	縄文	土器	12.0	2.2	5.1	口縁			76000		
25-49	縄文	土器	12.2	2.3	5.5	口縁			89000		
25-50	縄文	土器	12.0	2.2	5.0	口縁			90000		
25-51	縄文	土器	13.7	2.1	6.9	口縁			42000		
25-52	縄文	土器	16.7	2.38	6.2	口縁			73000		
25-53	縄文	土器	12.4	3.0	6.4	口縁			100000		
25-54	縄文	土器	2.7	2.6	5.4	口縁			100000		
25-55	縄文	土器	13.2	3.1	5.4	口縁			90000		
25-56	縄文	土器	12.8	3.7	6.0	口縁			90000		
25-57	縄文	土器	12.3	3.3	5.1	口縁			90000		
25-58	縄文	土器	12.3	3.3	5.1	口縁			90000		
25-59	縄文	土器	12.4	3.1	6.8	口縁			17000		
25-60	縄文	土器	12.5	2.9	6.2	口縁			25000		
25-61	縄文	土器	13.6	2.75	6.0	口縁			90000		
25-62	縄文	土器	13.0	3.25	6.95	口縁			73000		
26-1	縄文	土器	12.2	3.3	-	口縁			90000		
26-2	縄文	土器	11.60	3.1	-	口縁			10000		
26-3	縄文	土器	11.7	1.9	-	口縁			90000		
26-4	縄文	土器	2.45	2.0	6.4	口縁			80000		
26-5	縄文	土器	6.4	2.9	7.7	口縁			13000		
26-6	縄文	土器	16.15	3.0	8.3	口縁			75000		
26-7	縄文	土器	10.75	4.3	6.4	口縁			38000		
26-8	縄文	土器	10.45	4.6	6.5	口縁			83000		
26-9	縄文	土器	10.9	4.3	7.2	口縁			36000		
26-10	縄文	土器	13.65	5.9	5.5	口縁			79000		
26-11	縄文	土器	13.4	5.7	6.6	口縁			62000		
26-12	縄文	土器	11.3	1.6	6.8	口縁			30000		
26-13	縄文	土器	13.6	1.2	3.6	口縁			96000		
26-14	縄文	土器	14.0	5.7	7.6	口縁			75000		
26-15	縄文	土器	13.6	5.1	8.1	口縁			64000		
26-16	縄文	土器	12.4	3.7	6.2	口縁			100000		
26-17	縄文	土器	2.6	3.05	7.1	口縁			91000		
26-18	縄文	土器	1.2	3.4	7.6	口縁			20000		
26-19	縄文	土器	13.2	3.5	5.8	口縁			91000		
26-20	縄文	土器	12.0	3.45	8.4	口縁			66000		
26-21	縄文	土器	11.0	3.5	7.8	口縁			35000		
26-22	縄文	土器	19.6	10.5	7.2	口縁			65000		
26-23	縄文	土器	12.2	5.7	5.6	口縁			36000		
27-1	縄文	土器	-	27.0	13.5	口縁			42000		
27-2	縄文	土器	12.0	22.56	10.25	口縁			23000		
27-3	縄文	土器	16.2	6.5	6.0	口縁			90000		
27-4	縄文	土器	8.0	11.3	2.0	口縁			20000		
27-5	縄文	土器	26.1	14.6	1.6	口縁			10000		
27-6	縄文	土器	40.7	6.75	1.6	口縁			25000		
27-7	縄文	土器	12.8	4.0	-	口縁			32000		
27-8	縄文	土器	14.0	5.1	-	口縁			34000		
27-9	縄文	土器	-	4.9	6.3	口縁			90000		
27-10	縄文	土器	-	6.2	-	口縁			90000		
27-11	縄文	土器	-	8.1	-	口縁			90000		
27-12	縄文	土器	-	8.1	-	口縁			90000		
27-13	縄文	土器	-	8.4	-	口縁			90000		

第7表 SD01出土遺物観察表

SD01出土木製品

ここでは調査区の3～4区を北流するSD01より出土した木製品を器種別に大別し事実記載を行う。出土遺物の出土地点及び各部位の計測値については遺物観察表を参考にされたい。また、SD01の層位については、遺物量が少なく堆積断面を十分観察できた4区の断面観察結果から層位は3層に大別され流速は非常にゆっくりとしたもので、どちらかというと言っている状況に近く埋積の状態からは時期差は認められない。遺物は溝の縁から底まで、どの層位からも出土するが、2～3層の出土量が最も多く、深さ約1.6mを測る川底の出土遺物と川の淵から出土している十製品、木製品には時期差は認められないほか、大型の木製品の中には上層部から下層部にかけて真っすぐあるいは斜めに埋没しているものも多数あった。

以上のことから、まじないや祓い後に土器や木製品が破棄された期間、つまりSD01が捨て場として利用された期間は短期間と考えられる。

(1) 出土遺物

1はH、鼻、口を刻み烏帽子をかぶったか、あるいは髷を結った人物の人形の形形で下端部が錐状にすどく尖る。2～4は墨描、線刻はなく、手や足も作り出されていないが、上端部の加工状況から人形とする。

5～7は木札で墨痕は確認できない。8・9は墨描、線刻はないが中央に切込みを入れ鞍を表わした馬形である。10は薄く弱いだ板で、特に加工はされていないが、馬形あるいは鳥形の可能性も捨て切れないと考える。

11～14は刀形である。いずれも基部側が欠損しており全体像は不明であるが、11・14は身の部分の両側がくびれ基部を作り出している。付属する鐙らしき木製品の出土はなかった。

15～17は舟形である。15は長方形の薄板の周縁がわずかに立ち上がり、舟底は平坦なタイプである。16は船首部分が鋭角に作られ、船尾部分は尖らない。舟底は強く弓なりを呈し、内部は舟底に合せてV字状に削られている。船首の右側と船体の右側に一穴ずつ穴が穿たれている。17は舟底が平坦なタイプで船体の左側面に7穴、右側面に6穴穿たれている。

66は不明器種としたが大形の舟形の可能性もある。大きさは、長さ60cm、幅18cm、厚さ6cmを測り、内側は断面をU字状に削り、船首は鋭角で中央に穴が一穴穿たれている。船尾部分は平坦に切られる。

18は火切口で、両端が欠損する。

19～21は櫓物である。いずれも心持材を利用し、19・20は基部が欠損している。19は先端部から欠損部まで中心部に穴があいている。自然に中心部が朽ちたものか、人為的にあけられたかは不明であるが、洗浄時に流水をあてただけで中の土がたやすく流れ出たことから人為的に穴があけられていた可能性が強いと考えられる。

22～44は簀中である。22～24は下端を剣先状に尖らせ、上端を圭頭状に作りだし、両側面を切り欠く。25～38・40は、下端を剣先状に尖らせ、上端を圭頭状に作り出し、圭頭部両角に削りかけがほとんどされる。39は丸頭状で中央部に一穴穿たれる。下端部は欠損しておりどのような形状であったか不明であるが、この1点は頭部が丸みを帯び大きく他の簀中とは異なるものである。

41～44は人型簀中である。41・44は上端部が欠損し形状は不明である。42は丸頭状、43は圭頭状に作り出されている。44の下端部は剣先状に尖らせてあるか41～43の下端部は、錐状に尖らせてある。

46～51は櫓扇の板である。46は榎目の薄板を用いている。46-①は46-②-⑦の断面の両面が平坦であるのに比べ断面の片面が丸みを帯びることから最も外側に用いられる板と考えられるが対になる板がないことから7枚以上で構成される櫓扇と推測される。先端に糸でとじた痕跡は認められない。47と46の板の長さはほぼ同じであるが47はやや細身で要部分から先端に向かって幅が増す。48は46に比べ板がやや厚く頑丈な印象であるが、すべて先端部を欠く。48-①は48-②-③に比べ断面の片面が丸みを帯びることから最も外側に用いられる板と考えられる。48-①と対に

なる板がないことから48は10枚以上の板で構成される椀蓋と考えられる。

52~56は盤である。52・53は高台のないタイプ、54~56は高台のあるタイプである。53は内外面伴に黒漆が認められた。

57はケヤキ材を用いた用途不明の鉢状の刳物で底に直径約7cmの穴がある。

58は砧状の木槌。

59は出土当初高杯に似た形状を示していたが、時間の経過に伴い変形してしまった。用途は不明で組み合わせ具の一部の可能性もある。材質はクスノキで、黒漆がぬられていた。

60は匙、61は赤漆が両面ぬられており膳の脚の一部と推測される。

62は包丁等の柄である。

63は用途不明の円形の板材で、端部がやや立ち上がるようだが、欠損しており正確な形状は判明しない。裏面中央には浅い円形の穴が刳られこの部分に組み合わせ具の一部を組み込んだとも考えられる。

64は大型杓子。

65は彫作。

67は動物の木製品である。

68は用途不明で直径約52cmの円形の板で縁は山型を採す。

69~72・79~80・82・84はSD01中に打ち込んであったもので、護岸工事に用いられたと考えられる。

78・86・88・92は板材の一部に穴穿がたれたものである。83・85は用途不明の板材。

87・89は角丸の板材の縁に平行に2穴穿たれた板材。90・94は板材に2穴穿ち樹皮が通されている。

95は用途不明の角材の中央に細い釘が打たれている。96は角材の両端が炭化し、太い釘が打たれている。

97~99はヒョウタンを利用した柄杓。100~101・105・106は曲物を利用した柄杓である。

102~104・107は曲物、112~124は曲物の底板である。102~109と出土した他の側板の高さを見ると、2.5cm、7~8cm、10cm前後3タイプに大別される。底板と側板はすべて木釘で留められており、樹皮による固定は認められなかった。110・111は曲物等の容器の蓋であろう。112~124は曲物の底である。底板の側面には、すべて木釘の痕が確認できる。底板の直径は側板が残っている曲物や柄杓を含めて最小9.6cm、最大24.3cmである。明確な規格は認められないが、10cm前後、12cm前後、16cm前後のものが最も多い。

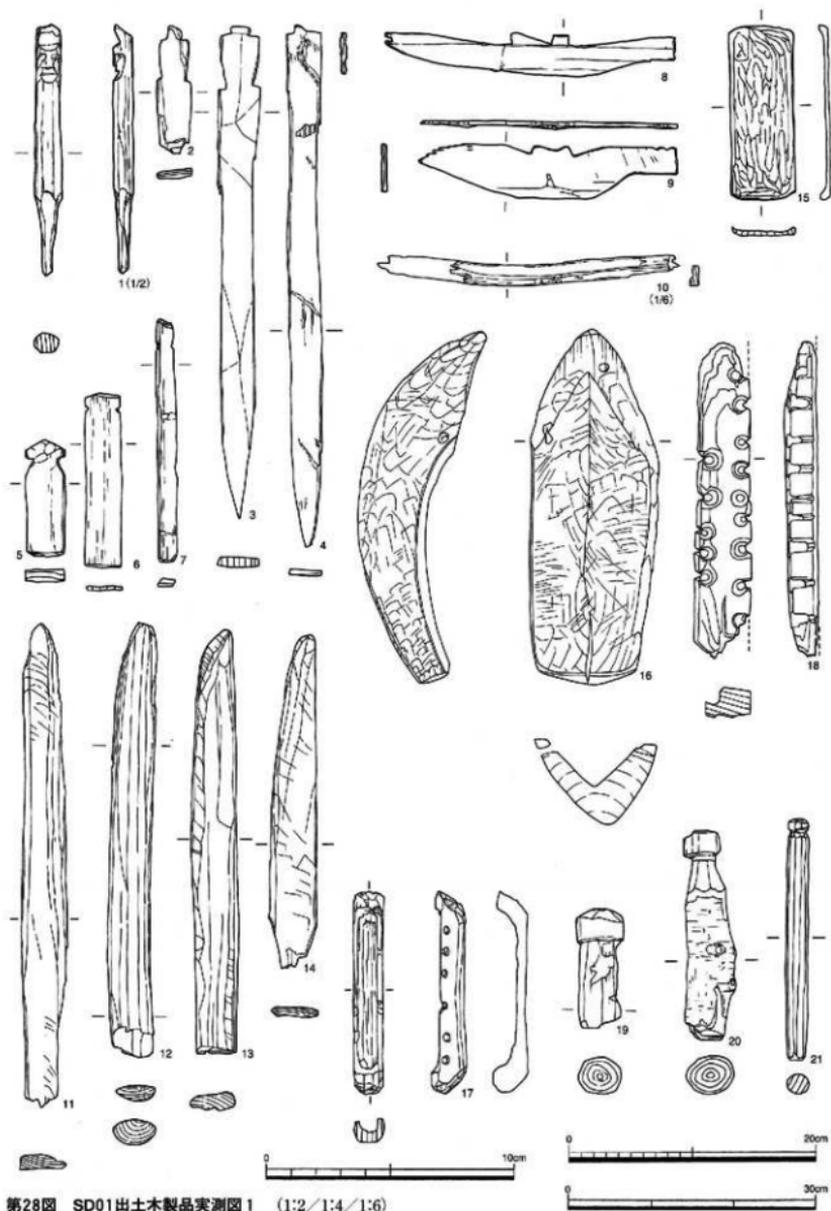
126は組み合わせ式糸巻具である。127~129は用途不明であるが紡錘関係のものかと思われる。130・131は動物同一動物である。132~135は用途不明。136は宝珠状をしているが下端部が欠損しており用途不明である。

137は下端部は乳頭状に突出していないが壺蓋であろうか。

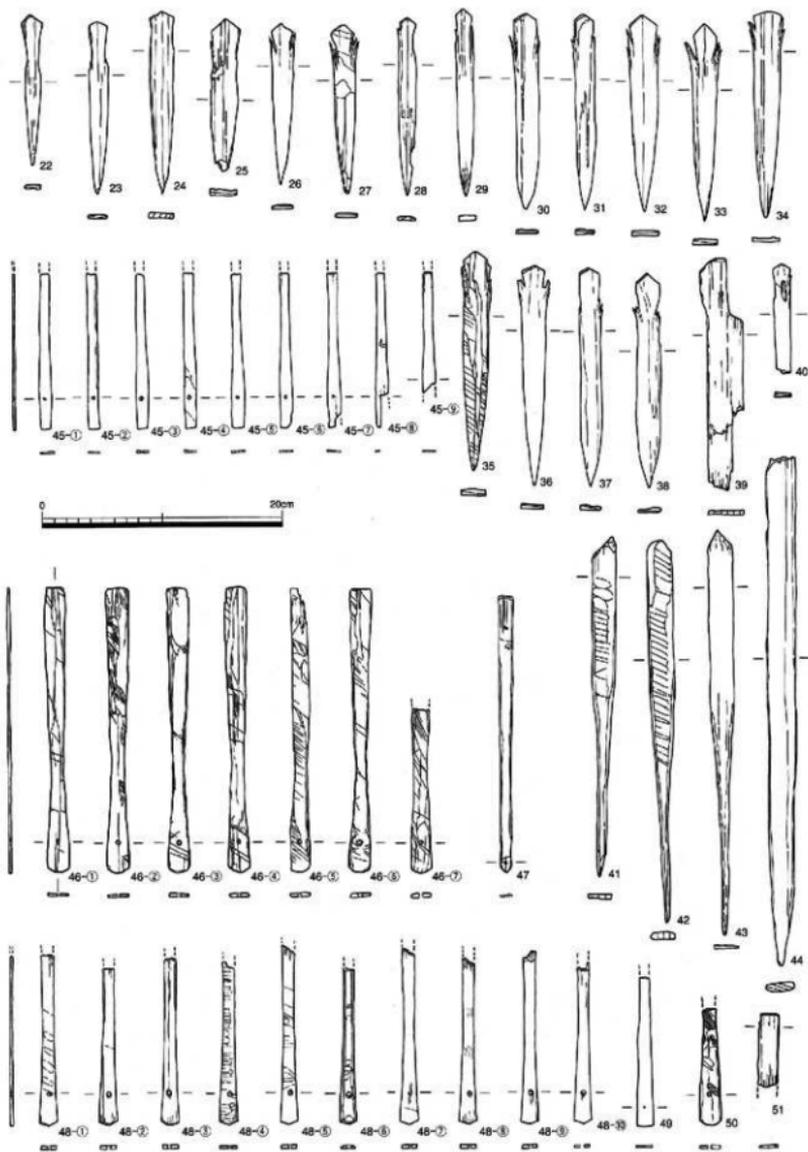
138は楔形の部材に横方向に一穴穿がたれる。139・140・142~144は角材を加工した部材の一部と考えられるが、用途は不明である。141は心持材の両端を面取りし、若干丸身を帯びさせている。145は長方形の角材の中央に約3cmの穴が穿がたれている。146は薄板の中央に木が打ち込まれている。147は角材の両端が薄くなるよう加工されている。148は細く浅い溝が掘られた用途不明の薄板。149は心持材で端部が加工されている。150・151・153は用途不明。端部に小さな穴が一穴穿がたれている。152は欠損しており全体の長さ等は不明であるが一端がすりこ木状に丸く加工されている。

134~194は長さ14~93.6cm、直径0.5~2cm、断面形も円型、多面形、方形と様々である。箸もあればいわゆる棒も含まれているであろうが、いずれも祭祀に用いられたと考えられる。

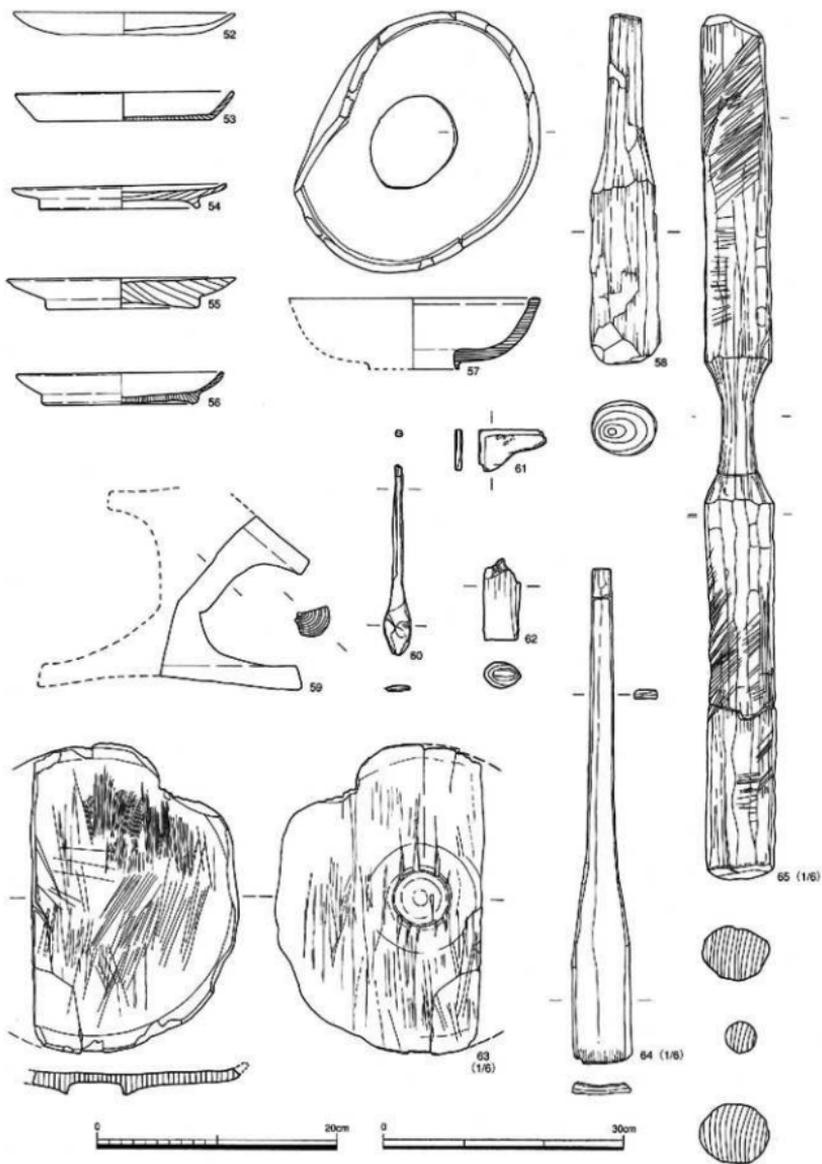
(稲垣)



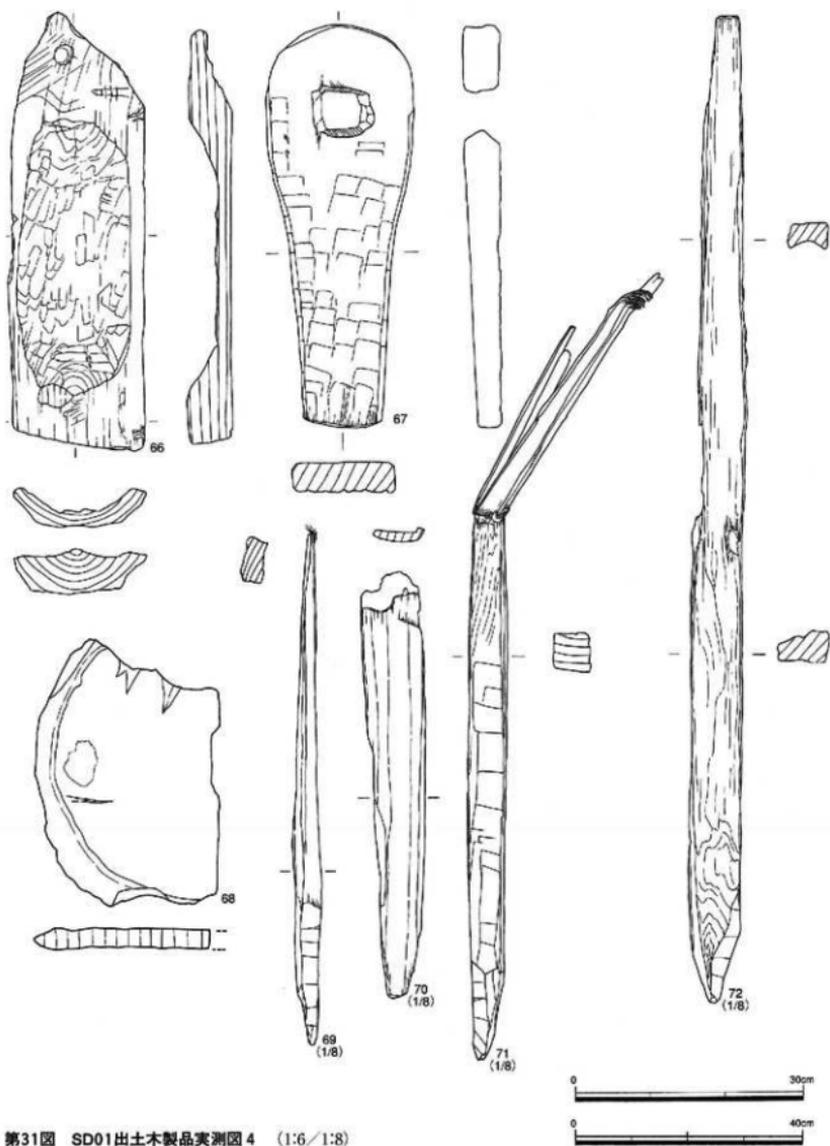
第28图 SD01出土木製品実測图1 (1/2/1/4/1/6)



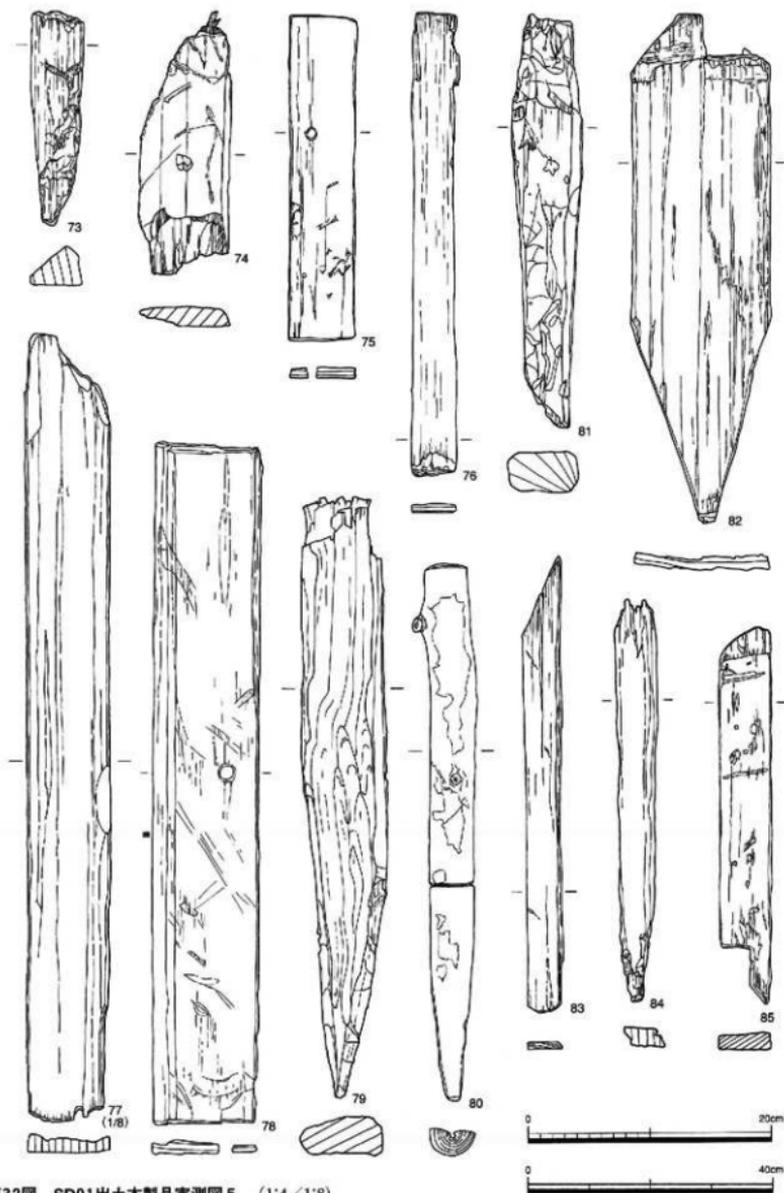
第29图 SD01出土木製品実測图 2 (1:4)



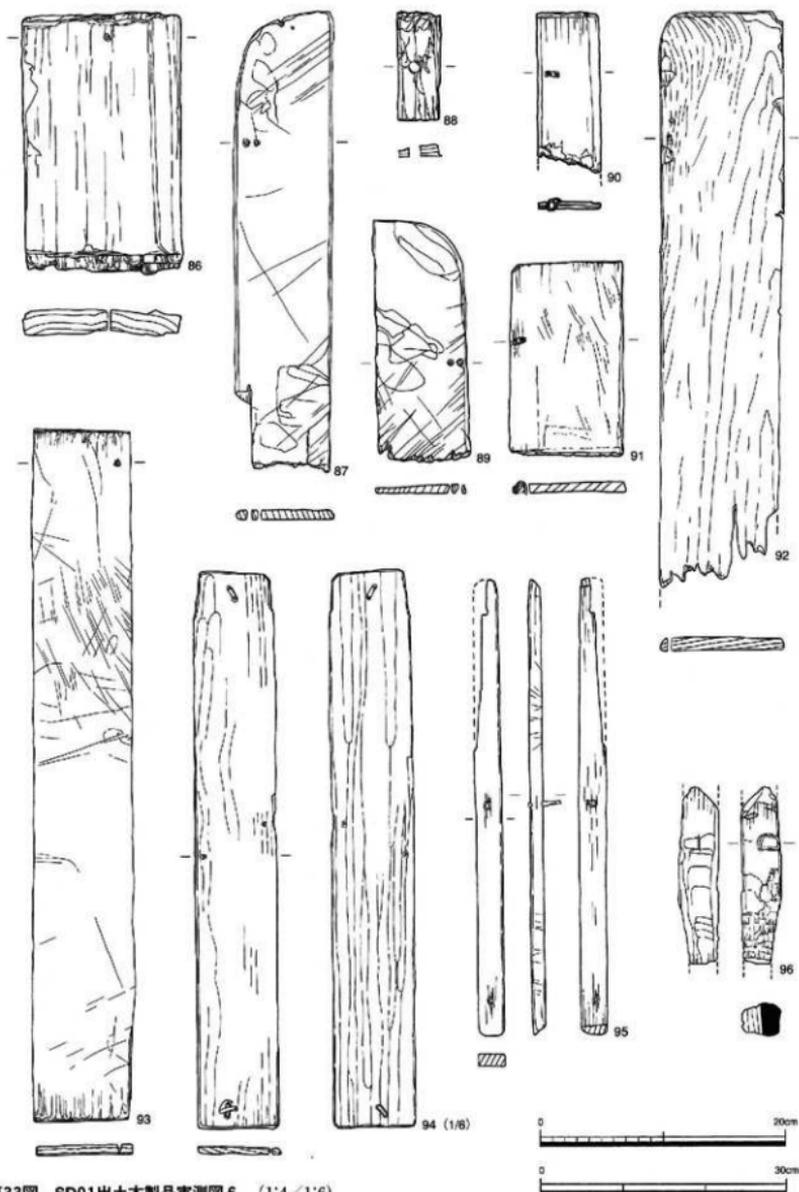
第30图 SD01出土木製品実測图3 (1:4/1:6)



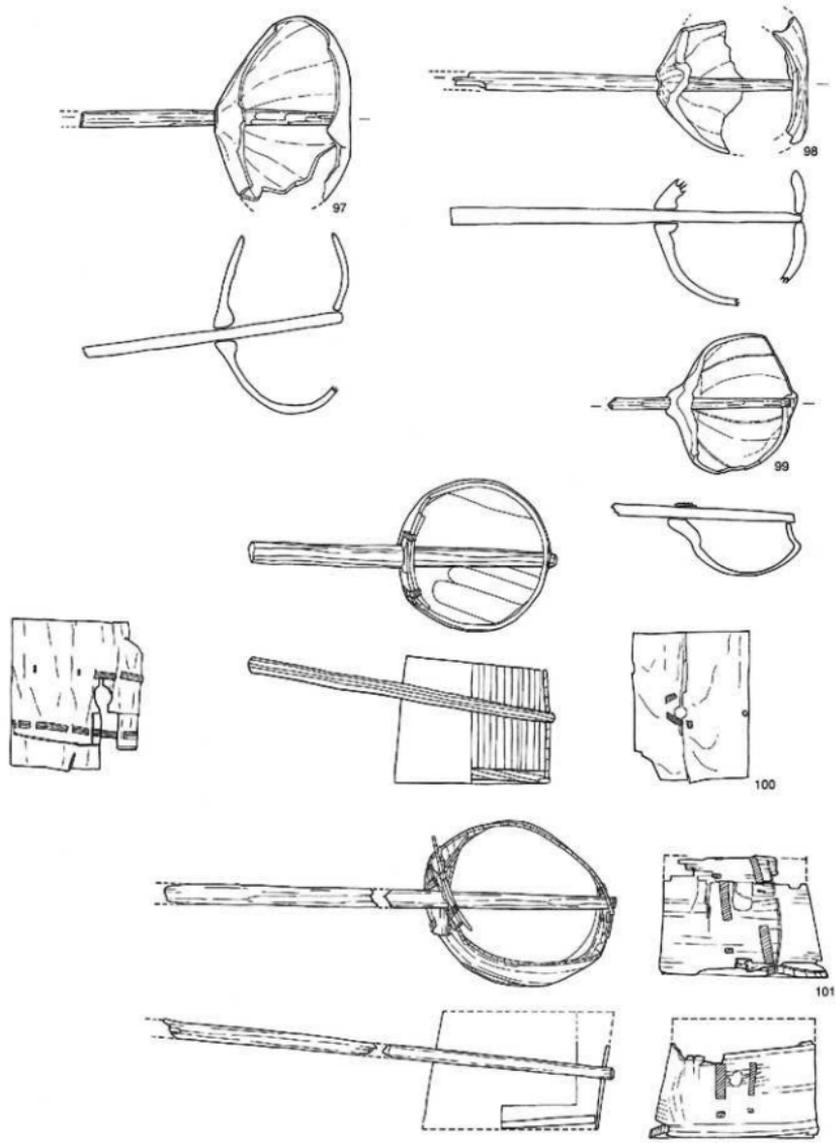
第31图 SD01出土木製品実測图4 (1:6/1:8)



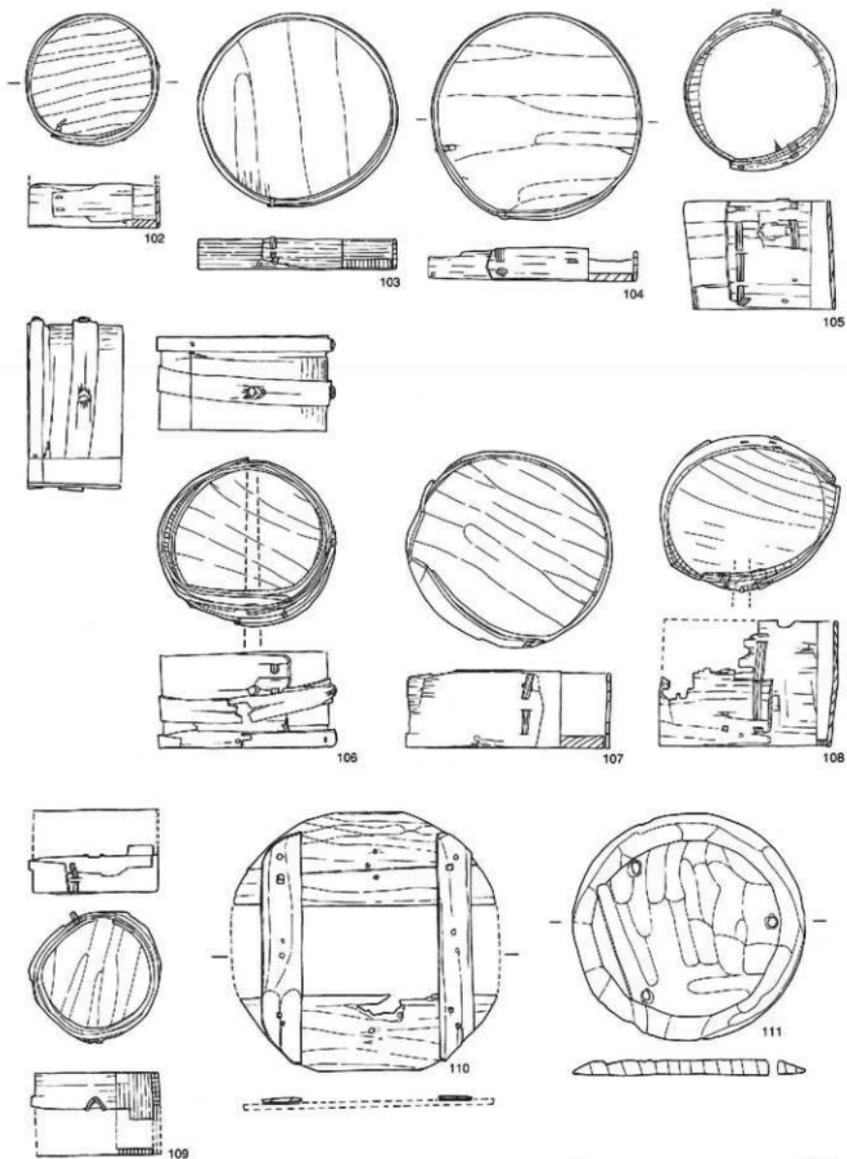
第32图 SD01出土木製品実測図5 (1/4、1/8)



第33图 SD01出土木製品実測图6 (1/4/1/6)

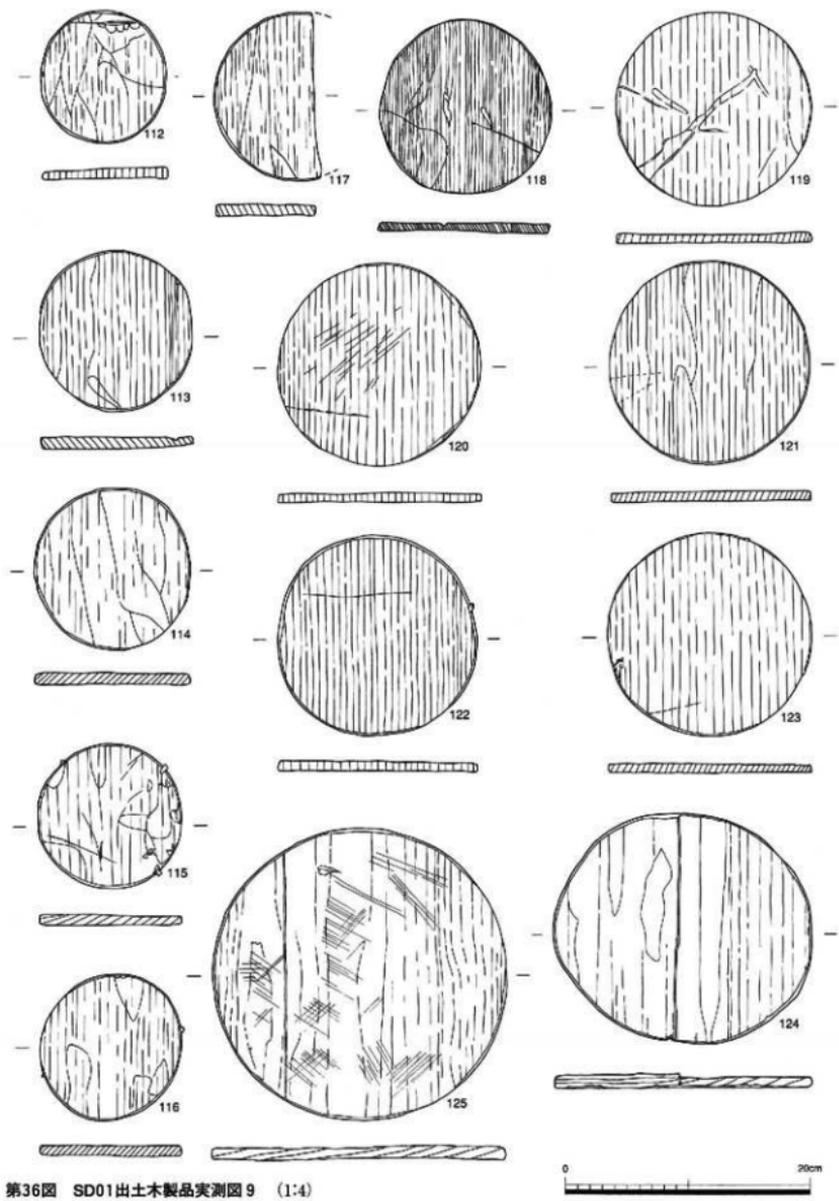


第34图 SD01出土木製品実測图7 (1:4)

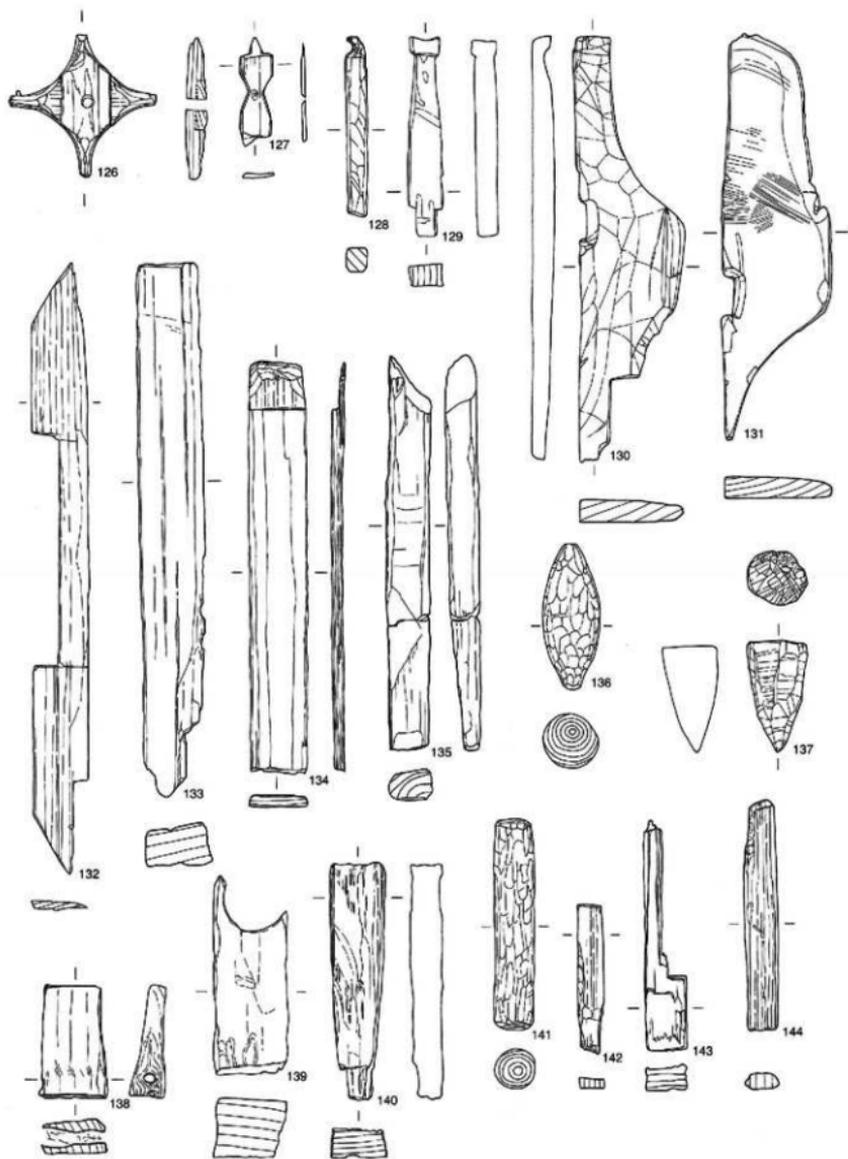


第35图 SD01出土木製品実測图 8 (1:4)

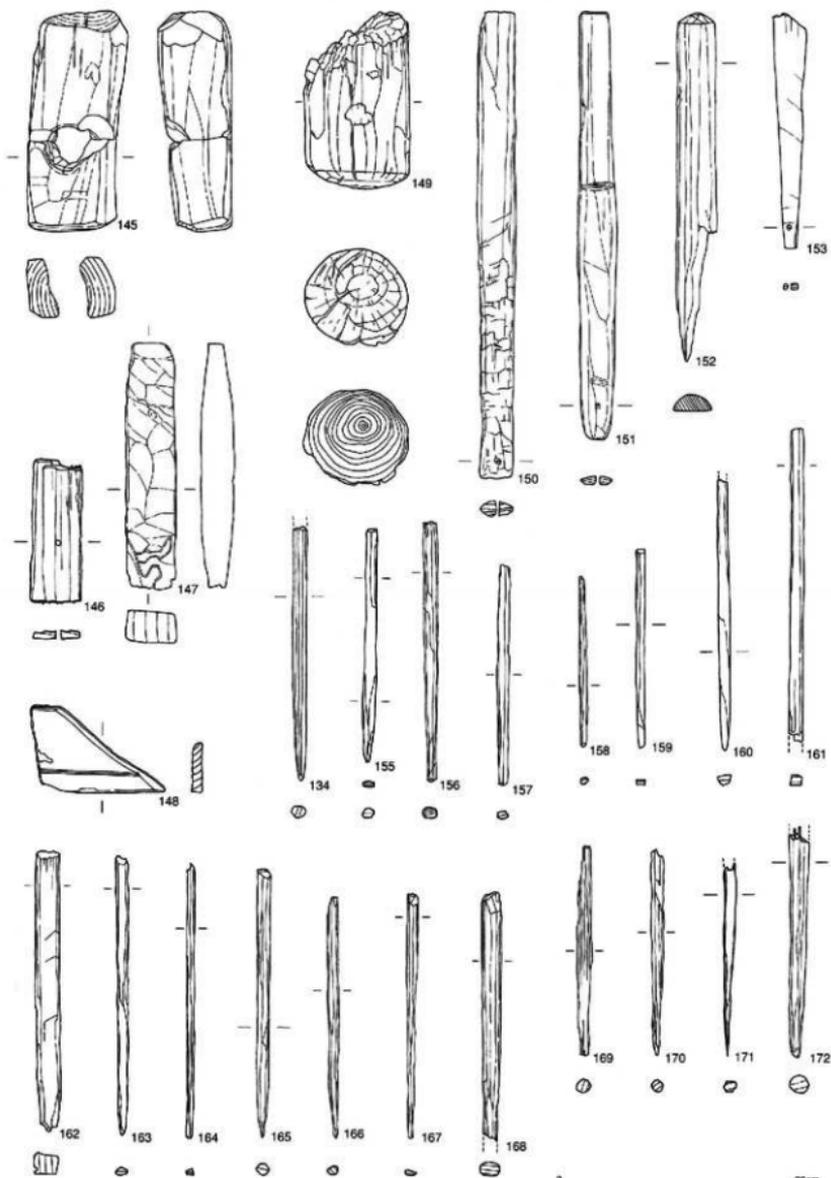




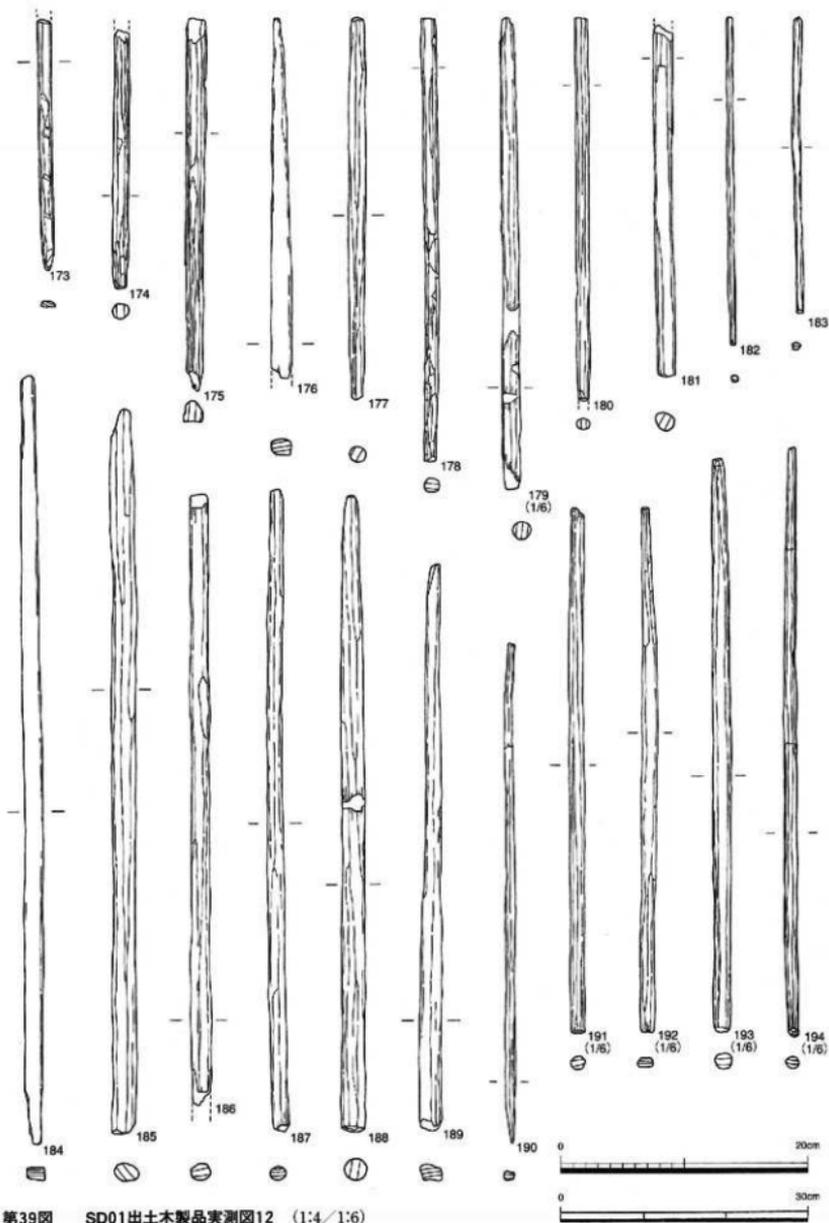
第36图 SD01出土木製品実測图9 (1:4)



第37图 SD01出土木製品実測品10 (1:4)



第38图 SD01出土木製品実測图11 (1:4)



第39圖 SD01出土木製品実測図12 (1:4/1:6)

図版	番号	品上地点	産地	長さ(門径)	幅(深径)	厚さ(高)	備考
28	1	SD00 3区	人形	10.3	1.3	0.8	
28	2	SD01	人形	10.4	2.8	0.7	
28	3	SD00 2区	人形	40.1	3.4	0.85	
28	4	SD00 2区	人形	42.5	2.8	0.4	
28	5	SD00 4区	水丸	9.5	3.3	1.0	
28	6	SD00 4区	水丸	14.2	2.9	0.3	
28	7	SD00 2区	水丸	18.0	1.5	0.6	
28	8	SD00 3区	角形	25.4	2.3	0.4	
28	9	SD00 3区	角形	20.6	4.2	0.4	
28	10	SD00 3区	角形	37.0	2.6	1.1	
28	11	SD00 3区	刀形	26.4	3.7	1.2	
28	12	SD00 3区	刀形	33.9	3.4	2.0	
28	13	SD00 3区	刀形	36.9	3.7	1.3	
28	14	SD00 3区	刀形	37.2	3.9	0.7	
28	15	SD00 3区	角形	16.2	5.2	0.7	
28	16	SD00 4区	角形	29.0	20.3	3.2	穴1 未削1
28	17	SD00 3区	角形	16.5	2.5	1.0	穴多数
28	18	SD00 2区	穴5区	26.8	4.6	2.4	変化
28	19	SD00 2区	角形	9.8	3.6	3.6	縁中央に穴1貫通
28	20	SD00 3区	角形	17.2	4.0	3.8	
28	21	SD00 4区	角形	19.6	1.8	1.8	
28	22	SD00	角形	13.3	2.0	0.3	
28	23	SD00	角形	14.1	1.6	0.3	
28	24	7区	角形	15.3	2.0	0.3	
28	25	SD00	角形	12.8	2.3	0.5	
28	26	SD00	角形	13.6	1.8	0.5	
28	27	SD00	角形	14.2	1.8	0.4	
28	28	SD00	角形	13.0	1.4	0.2	
28	29	SD00	角形	15.8	1.5	0.4	
28	30	SD00	角形	16.4	2.0	0.3	
28	31	SD00	角形	16.5	1.7	0.5	
28	32	SD00	角形	16.5	3.2	0.4	
28	33	SD00	角形	16.6	2.3	0.4	
28	34	SD00	角形	17.4	2.3	0.3	
28	35	SD00 2区	角形	18.4	2.4	0.5	
28	36	SD00	角形	18.5	2.5	0.4	
28	37	SD00 2区	角形	18.4	1.8	0.5	
28	38	SD00 3区	角形	18.1	2.0	0.4	
28	39	2区	角形	19.6	3.0	0.3	
28	40	7区	角形	9.2	1.5	0.6	
28	41	SD00 4区	角形	29.2	2.0	0.4	
28	42	SD00 4区	角形	32.2	2.0	0.6	
28	43	SD00 4区	角形	34.3	2.1	0.3	
28	44	SD00 4区	角形	42.7	2.5	0.8	
28	45	SD00 2区	角形	13.0	1.0	0.2	穴1
28	45-①	SD00 2区	角形	13.0	0.9	0.1	穴1
28	45-②	SD00 2区	角形	13.0	1.0	0.2	穴1
28	45-③	SD00 2区	角形	13.0	1.1	0.1	穴1
28	45-④	SD00 2区	角形	13.0	1.1	0.1	穴1
28	45-⑤	SD00 2区	角形	13.0	1.0	0.1	穴1
28	45-⑥	SD00 2区	角形	13.0	1.0	0.1	穴1
28	46	SD00 3区	角形	25.9	1.8	0.2	穴1
28	46-①	SD00 3区	角形	24.0	1.8	0.2	穴1

図版	番号	品上地点	産地	長さ(門径)	幅(深径)	厚さ(高)	備考
29	46-②	SD00 3区	角形	23.9	1.8	0.3	穴1
29	46-③	SD00 3区	角形	24.0	1.8	0.2	穴1
29	46-④	SD00 3区	角形	23.9	1.6	0.2	穴1
29	46-⑤	SD00 3区	角形	23.9	1.8	0.2	穴1
29	46-⑥	SD00 3区	角形	23.8	1.8	0.3	穴1
29	47	SD00 3区	角形	23.2	1.2	0.3	穴1
29	48-①	SD00 2区	角形	14.3	1.5	0.3	穴1
29	48-②	SD00 2区	角形	13.2	1.5	0.3	穴1
29	48-③	SD00 2区	角形	14.0	1.5	0.3	穴1
29	48-④	SD00 2区	角形	13.6	1.5	0.2	穴1
29	48-⑤	SD00 2区	角形	13.1	1.4	0.3	穴1
29	48-⑥	SD00 2区	角形	13.2	1.4	0.2	穴1
29	48-⑦	SD00 2区	角形	14.7	1.5	0.3	穴1
29	48-⑧	SD00 2区	角形	14.0	1.5	0.3	穴1
29	48-⑨	SD00 2区	角形	14.6	1.5	0.3	穴1
29	48-⑩	SD00 2区	角形	13.6	1.5	0.2	穴1
29	49	SD00 3区	角形	13.5	1.4	0.1	穴1
29	50	SD00 3区	角形	9.8	1.8	0.3	穴1
29	51	SD00 3区	角形	6.2	1.7	0.2	
29	52	SD00 3区	角形	16.2	10.3	1.8	
29	53	SD00 3区	角形	17.8	14.5	2.4	穴内面磨削
29	54	SD00 2区	角形	17.7	12.5	1.9	
29	55	SD00 3区	角形	18.0	12.7	2.5	
29	56	SD00 3区	角形	17.0	17.7	2.2	
29	57	SD00 3区	角形	10.0	4.0	3.0	穴内面磨削
29	58	SD00 3区	角形	29.4	5.3		
29	59	SD00 3区	角形	12.1	6.4		
29	60	SD00 3区	角形	16.0	2.3	0.4	
29	61	14区	角形	5.3	3.5	5.5	未削
29	62	SD00 4区	角形	6.8	3.1		
29	63	SD00 3区	角形	20.4	3.6	3.7	
29	64	SD00 3区	角形	23.0	7.4	1.3	
29	65	SD00 3区	角形	130.1	6.7		
29	66	SD00 3区	角形	20.0	10.0	6.0	
29	67	SD00 3区	角形	25.3	10.9	4.2	穴1
29	68	SD00 4区	角形	36.3	24.8	3.0	
29	69	SD00 4区	角形	22.4	19.6	3.4	
29	70	SD00 4区	角形	27.2	10.8	1.8	
29	71	SD00 4区	角形	154.0	6.6	7.1	
29	72	SD00 4区	角形	173.0	9.0	5.9	
29	73	SD00 3区	角形	17.9	6.1	3.3	
29	74	SD00 1区	角形	21.9	6.8	1.6	角丸
29	75	SD00 3区	角形	22.0	6.4	0.9	穴1
29	76	SD00 3区	角形	38.3	3.7	0.7	
29	77	SD00 3区	角形	130.7	13.5	2.9	
29	78	SD00 3区	角形	26.8	8.6	1.2	穴1
29	79	SD00 3区	角形	25.8	7.0	3.1	
29	80	SD00 3区	角形	44.3	37.5	2.1	
29	81	SD00 3区	角形	24.4	5.6	3.4	
29	82	SD00 3区	角形	22.3	11.1	1.2	
29	83	SD00 3区	角形	37.7	2.8	0.6	
29	84	SD00 3区	角形	33.3	3.3	1.3	
29	85	SD00 4区	角形	33.3	3.8	1.4	角丸
29	86	SD00 3区	角形	21.9	13.1	2.1	穴1

第8表 SD01出土木製品観察表

図解	番号	品名	材種	長さ(L)	幅(B)	厚さ(H)	備考
33	87	SD01 4区	板	38.3	7.9	0.8	角丸
33	88	SD01 3区	板	9.1	2.4	1.0	穴1
33	89	SD01 4区	板	20.0	7.4	0.7	穴2 角丸
33	90	SD01 2区	板	13.2	5.1	0.6	角の流汗
33	91	SD01 3区	板	16.2	9.3	0.9	角の流汗
33	92	SD01 2区	板	47.4	20.1	1.1	穴2 角丸
33	93	SD01 2区	板	57.5	7.9	0.8	穴1 (貫通せず)
33	94	SD01 3区	板	58.9	10.2	0.9	穴2 板の流汗
33	95	SD01 3区	板	28.0	2.2	1.0	釘1 板穴1
33	96	SD01 3区	板	14.7	3.1	2.7	釘1 板穴化
34	97	SD01 3区	板	30.8	(14.0)		角の長さ(21.0+11.7)の長さ(板3区)2.4
34	98	SD01 3区	板	12.0	(14.4)		角の長さ(11.6+10.0)の長さ(板3区)2.4
34	99	SD01 3区	板	19.4	1.0		角の長さ(13.0+10.0)の長さ(板3区)2.4
34	100	SD01 3区	板	11.0	(12.2)	10.4	角の長さ(13.0+10.0)の長さ(板3区)2.4
34	101	SD01 3区	板	(11.0)	12.4	9.8	角の長さ(13.0+10.0)の長さ(板3区)2.4
35	102	SD01 3区	板	13.0	10.8	(2.0)	釘穴4 既張り
35	103	SD01 4区	板	6.2	16.2	2.6	釘穴4 既張り
35	104	SD01 3区	板	(17.0)	17.0	2.6	釘穴5 既張り
35	105	SD01 3区	板	11.9	11.5	9.0	釘穴1 既張り
35	106	SD01 4区	板	13.6	12.0	7.9	
35	107	SD01 3区	板	16.4	7.7	6.4	釘穴4 既張り
35	108	SD01 3区	板	(14.2)	24.0	10.3	穴穴2
35	109	SD01 4区	板	15.2	10.2	4.0	釘穴4 既張り
35	110	SD01 3区	板	21.3		0.8	釘穴18
35	111	SD01 3区	板	28.0		1.0	穴穴3
36	112	SD01 3区	板	11.0	11.0	1.3	釘穴1
36	113	SD01 3区	板	12.3		1.0	
36	114	SD01 3区	板	12.8	1.0	釘穴3	
36	115	SD01 3区	板	10.6	0.9	釘穴5	
36	116	SD01 3区	板	12.1	0.9	釘穴7	
36	117	SD01 3区	板	12.9	1.0	釘穴2	
36	118	SD01 3区	板	14.6	0.8	釘穴2	
36	119	SD01 3区	板	15.7	1.8	釘穴4	
36	120	SD01 3区	板	16.2	1.5	釘穴4	
36	121	SD01 3区	板	15.9	0.8	釘穴4	
36	122	SD01 3区	板	21.6	0.9	釘穴3	
36	123	SD01 3区	板	16.3	1.6	釘穴4	
36	124	SD01 3区	板	21.0	1.2	穴穴1	
36	125	SD01 3区	板	34.3	1.2	穴穴7	
37	126	SD01 4区	板	12.0	12.1	1.8	角穴 穴1
37	127	SD01 3区	板	9.2	2.6	0.4	穴1
37	128	SD01 3区	板	15.3	1.7	2.0	
37	129	SD01 3区	板	24.9	2.7	1.9	
37	130	SD01 3区	板	36.2	3.7	1.9	角 管体
37	131	SD01 3区	板	31.5	6.8	1.8	
37	132	SD01 3区	板	31.6	4.5	7.0	
37	133	SD01 3区	板	43.4	5.5	3.6	
37	134	SD01 3区	板	38.4	4.9	1.0	穴1
37	135	SD01 3区	板	35.4	3.6	2.5	
37	136	SD01 3区	板	12.4	4.6		
37	137	SD01 3区	板	9.5	4.6		釘7
37	138	SD01 3区	板	5.5	3.7	2.0	穴1
37	139	SD01 4区	板	16.8	5.6	5.1	
37	140	SD01 3区	板	20.0	4.6	2.5	
37	141	SD01 3区	板	17.8	3.3		

図解	番号	品名	材種	長さ(L)	幅(B)	厚さ(H)	備考
37	142	SD01 3区	板	13.6	2.0	1.9	
37	143	SD01 4区	板	28.6	2.4	2.1	
37	144	SD01 3区	板	19.4	2.6	1.3	
38	145	SD01 3区	板	17.9	7.0	4.0	穴1
38	146	SD01 3区	板	11.7	4.0	1.0	木突1
38	147	SD01 3区	板	20.1	4.1	2.5	
38	148	SD01 3区	板	5.8	10.4	0.8	
38	149	SD01 3区	板	14.4	4.2		穴化
38	150	SD01 3区	板	37.5	3.0	1.1	穴1 表板
38	151	SD01 3区	板	34.4	3.1	0.6	穴1
38	152	SD01 3区	板	28.0	2.0	1.3	
38	153	SD01 3区	板	18.9	2.1	0.4	穴1
38	154	SD01 3区	板	20.7	0.9		
38	155	SD01 3区	板	14.0	0.9	0.5	
38	156	SD01 3区	板	21.1	1.1	0.9	
38	157	SD01 3区	板	18.0	0.9	0.7	
38	158	SD01 3区	板	15.8	0.6	0.9	
38	159	SD01 4区	板	16.2	0.7	0.4	
38	160	SD01 3区	板	22.0	0.9	0.7	
38	161	SD01 3区	板	25.5	0.9	2.8	
38	162	SD01 3区	板	22.8	2.0	1.8	
38	163	SD01 3区	板	22.7	1.0	0.6	
38	164	SD01 3区	板	22.3	0.3	0.5	
38	165	SD01 3区	板	21.8	1.0		
38	166	SD01 3区	板	25.6	0.9	0.7	
38	167	SD01 3区	板	19.9	0.9	0.4	
38	168	SD01 3区	板	20.0	2.6	1.1	
38	169	SD01 3区	板	17.0	1.1	1.0	
38	170	SD01 3区	板	16.7	1.0		
38	171	SD01 3区	板	15.7	1.0	0.8	
38	172	SD01 3区	板	18.2	1.5	1.3	
38	173	SD01 3区	板	20.5	1.2	0.5	
38	174	SD01 3区	板	21.0	1.2		
38	175	SD01 3区	板	20.4	1.5	1.7	
38	176	SD01 3区	板	20.2	1.5	1.3	
38	177	SD01 3区	板	21.0	1.3		
38	178	SD01 3区	板	26.1	1.2		
38	179	SD01 3区	板	27.9	2.1		
38	180	SD01 3区	板	21.2	1.1	0.8	
38	181	SD01 3区	板	28.7	1.4		
38	182	SD01 3区	板	25.8	0.6		
38	183	SD01 3区	板	24.1	0.7	0.6	
38	184	SD01 3区	板	22.5	1.5	1.1	
38	185	SD01 3区	板	28.9	1.9	1.4	
38	186	SD01 3区	板	49.7	1.6	1.4	
38	187	SD01 3区	板	32.1	1.2		
38	188	SD01 3区	板	23.6	2.6		
38	189	SD01 3区	板	46.0	1.8	1.3	
38	190	SD01 3区	板	22.6	0.8	0.7	
38	191	SD01 3区	板	64.7	1.7	1.7	
38	192	SD01 3区	板	64.8	1.6	1.1	
38	193	SD01 3区	板	70.8	2.1	1.8	
38	194	SD01 4区	板	72.6	1.0	1.4	

第9表 SD01出土木製品観察表

金属製品・土製品 (第40図)

SD01からは、木製品の他、鉄製品、陶の羽口、銅銭が出土している。

1 (第40図-1) 鉄鎌である。柄はなく鎌身のみ出土である。鎌身は先端が欠けており、残存部分で全長18.6cm、幅2.3~3.8cm、厚さ1.0~2.0mmを測る。基部を折り曲げており、折り曲げた位置から柄は鈍角で装着されていたと考えられる。

2 (第40図-2) 鉄釜である。復元口径18.4cm、残高5.8cmを測る。体部はゆるやかに立ち上がり口縁端部で内傾する。五十川伸矢氏の種類によると鉄釜Ⅰ類にあたり(五十川1992)、年代的にもSD01で出土した土器群と一致する。小杉町内の遺跡では上野南遺跡、綿打池遺跡で鉄釜の鋳型が出土しており、これらの資料との検討が望まれる。

3 (第40図-3) 包丁である。柄はなく身のみ出土である。全長23.0cmを測り、柄を差し込むための茎がそのうちの6.5cmを占める。鍛造品で歯を幅約5.0mmほどで打ち出している。

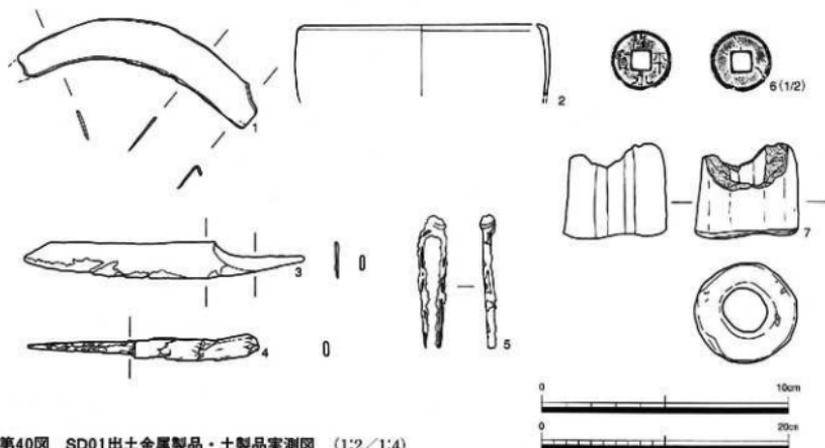
4 (第40図-4) 刀子である。柄は装着された形で片面だけ出土している。全長18.6cmを測る。身と柄の間に切羽が装着されていた跡が見られる。

5 (第40図-5) 錐子、いわゆる毛抜きである。全長10.9cm、幅1.5~2.2cmを測る。鉄製でUの字に大きく曲げられており、上部には錆で覆われているが棒状のつまみが付いているものと思われる。

6 (第40図-6) 銅銭で隆平水寶と呼ばれる皇朝十二銭の1種である。直径24.0mm、厚さ1.5mm、重さ2.50gを測る。表には隷書体で「隆平水寶」の文字が鋳出されており、裏面は無文である。縁は一部欠けているものの残りがよく幅約2mmである。

7 (第40図-7) 陶の羽口である。直径8.2cm、残長7.8cmを測る。二次焼成を受けているがスラグ等の付着は見られないため、送風管とも考えられる。

(藤田)

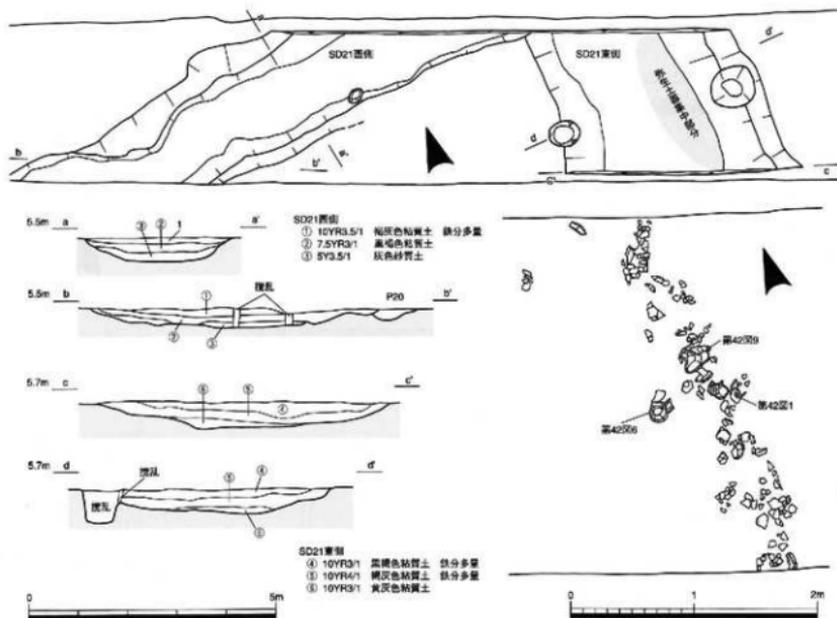


第40図 SD01出土金属製品・土製品実測図 (1/2/1/4)

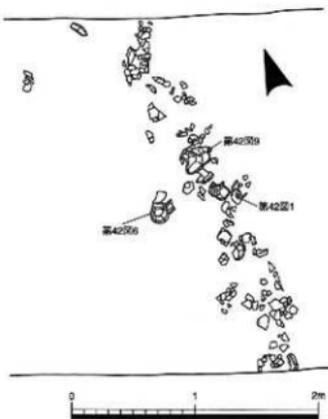
1区SD21

1区のA3・AA3～A5・AA5グリッドに位置する。当初は1つの溝とみていたが、調査の結果2つの溝が切り合っていることが判明した。東側の溝の規模は、長さ3.2m、幅3.8～4.3m、深さ約44cmを測り、西側の溝に切られる。遺物は須恵器・土師器・弥生土器が出土している。特に東側の最深部では、溝の流れに沿った状態で弥生土器の集中部分を確認した。器種は高坏・壺・甕・甗・台付裝飾壺等である。この他に須恵器坏蓋の転用硯も1点出土しているが、出土位置からSK30の遺物の可能性も考えられる。開溝時期は出土遺物から弥生後期とみられる。一方、西側の溝の規模は、長さ6.5m、幅2.8～2.2m、深さ約40cmを測る。北東から南西方向に走り、SD21東側の溝・P20・P26を切る。層序は3層からなり、各層から須恵器・土師器が少量出土する。

- 1 (第43図-1) 須恵器坏蓋Aである。底部から口縁部にかけてやや内湾気味に立ち上がり、口縁端部は内側に丸く折り曲げられる。底部は回転糸切り未調整で、調整はロクロナデを施す。内面に墨痕が付着している。
- 2 (第43図-2) 須恵器甕である。口縁部から頸部にかけての残存であった。口縁部に計3条の沈線と3条の波状文を施す。口縁端部は丸く仕上げられ、内側には稜が認められる。
- 3 (第43図-3) 土師器坏境Aである。底部から口縁部にかけてほぼ一直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く仕上げられる。底部は回転糸切り未調整である。調整は内外面ともロクロナデである。
- 4 (第43図-4・5) 弥生土器の甕である。口縁部から頸部にかけての残存であった。有段口縁をもち、口縁部に縦凹線の巡るものとそうでないものがある。調整は摩耗のため、ほとんど不明であるが、ナデ調整を施しているとき



第41図 1区SD21遺構平・断面図 (1:100/1:80)



第42図 1区SD21遺物出土状況図 (1:40)

られる。

5 (第43図-6) 弥生土器の壺である。口縁部から頸部にかけての残存である。頸部から口縁部が少し外傾する。

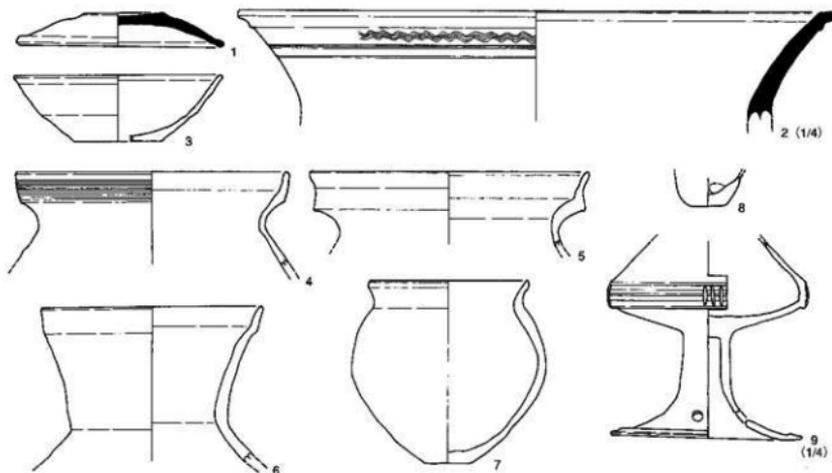
6 (第43図-7) 弥生土器の小型甕である。頸部でやや外湾気味に外方に伸びる比較的短い口縁部を持つ。調査は摩耗のため、不明である。

7 (第43図-8) 手づくね土器である。口縁部は欠損してが、おそらくコップ状の形態であろう。内面に指頭圧痕が確認できる。

8 (第43図-9) 台付裝飾壺である。口縁部は欠損して出土している。体部に4条の浅い沈線を施した後、3つからなる棒状浮文を4箇所貼り付ける。裾部に円形透孔をもうけている。体部外面の一部には、赤彩と煤の付着を確認できる。

図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	裾径(cm)	焼成	残存率 (口径/器高)	備考
43-1	坏	12.1	2.10	4.8	—	良	100/100	内面墨痕
43-2	甕	47.6	(8.85)	—	—	良	10/0	
43-3	埴A	12.5	4.0	5.2	—	やや不良	13/—	
43-4	甕	16.4	(5.8)	—	—	不良	31/0	
43-5	甕	16.6	(4.4)	—	—	良	6/0	
43-6	壺	13.2	(9.3)	—	—	やや不良	79/0	
43-7	小甕	9.4	11.1	2.7	—	良	15/100	
43-8	ミニチュア土器	—	(1.8)	2.1	—	良	0/100	
43-9	台付裝飾壺	—	(17.0)		16.0	良	0/70	外面一部赤彩

第10表 1区SD21出土遺物観察表



第43図 1区SD21出土遺物実測図 (1/3・1/4)

2区SD02・05・29

SD02・05・29は2区の東端にて確認された溝である。SD02と残り2つの溝は切り合って検出されたことから、時代の異なるものとみられる。

SD02

2区のC4～C5グリッドに位置し、規模は長さ6.0m、幅4.0～4.4m、深さ約45cmを測る。平面形は南北方向に沿ってほぼ一直線に走る溝である。層序は3層からなり、各層より遺物は出土しているが、大部分は炭化物を含む3層から最深部にかけてである。断面形は扁平なV字形である。遺物は弥生土器のほか、北壁付近にて有溝土錘が出土している。時代は出土遺物から弥生後期～終末期と考える。

SD05

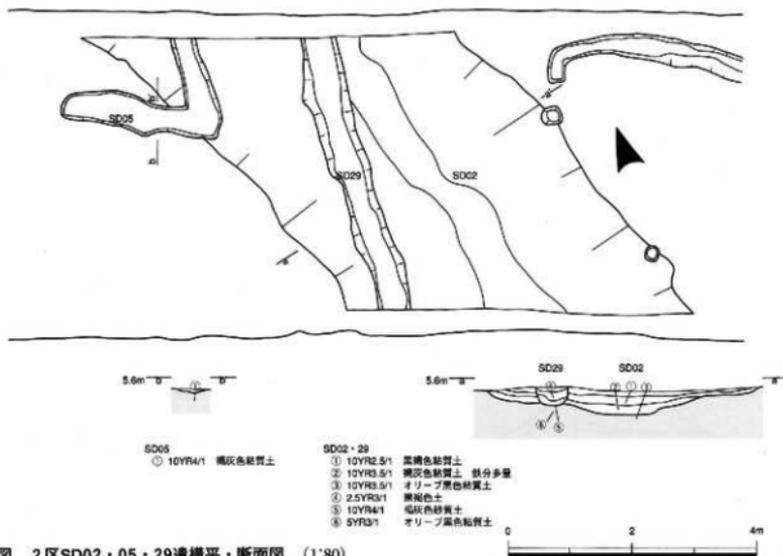
2区のC5グリッドに位置し、規模は長さ3.7m、幅0.39～0.56m、深さ約8cmを測る。平面形はL字形を呈し、北側は調査区域外にのびる。断面形は逆台形である。SD02の西側肩部に掘り込まれているが、削平により遺構上部は欠損している。遺物は出土せず、時期不明である。

SD29

2区のC5グリッドに位置し、規模は長さ4.6m、幅0.46～0.74m、深さ約29cmを測る。SD05とはほぼ同角度で南北方向に一直線に走っており、北側と南側は、調査区外にそれぞれのびる。断面形はU字形である。遺物は須恵器・土師器が少量出土している。

1 (第45図-1・2) 弥生土器の高坪である。ともに脚部から裾部にかけての残存であった。裾部には、円形透孔をもうけている。調整は摩耗のため不明である。

2 (第45図-3) 弥生土器の小型鉢である。体部下半から口縁端部にかけて内湾しながら立ち上がる。底部は突出したあげ底を呈し、指頭圧痕を確認することができる。体部の調整は摩耗のため不明である。



第44図 2区SD02・05・29遺構平・断面図 (1:80)

3 (第45図-4) 弥生土器の蓋である。端部は欠損しているため不明である。紐頂部は凹み、頂部を小さく柱状に仕上げる。器面の内外には煤が付着している。

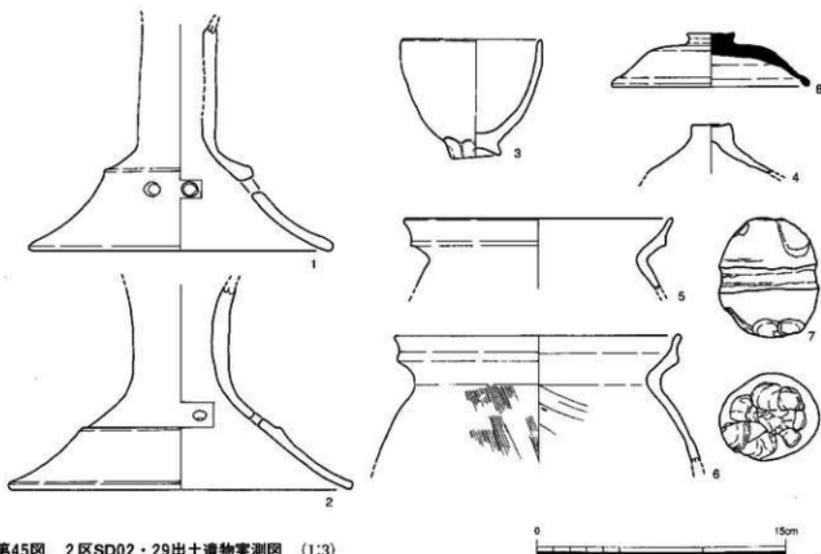
4 (第45図-5・6) 弥生土器の甕である。ともに口縁部から頸部にかけての残存であった。有段口縁をもち、外面はナデないしハケ調整、内面はケズリを施す。また、外面に煤が付着している。

5 (第45図-7) 7は有溝石錘である。短軸のみに溝を巡らし、両端部に打撃痕がみられる。凝灰岩製である。

6 (第45図-8) SD29出土の須恵器坏蓋である。端部は丸く簡略化されており、頂部に擬宝珠形つまみを貼り付ける。内面に黒炭がみられる転用甕である。

図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	裾径(cm)	焼成	残存率 (1径/底径)	備考
45-1	高坏	—	(13.8)	—	18.4	良	0/100	
45-2	高坏	—	(12.3)	—	20.8	良	0/80	
45-3	鉢	8.3	7.3	2.8	—	良	8/100	
45-4	蓋	—	(2.9)	—	—	良	0/—	
45-5	甕	16.0	(4.3)	—	—	良	20/0	
45-6	甕	17.0	(7.7)	—	—	良	18/0	
45-8	坏蓋	11.7	3.3	—	—	やや不良	24/—	内面黒炭
図版番号	器種	全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	残存率 (1径/底径)	備考	
45-7	有溝石錘	7.4	5.95	5.2	322.0	100		

第11表 2区SD02・29出土遺物観察表



第45図 2区SD02・29出土遺物実測図 (1:3)

4区SD04・16・17

SD04・16・17は、4区のちょうど中央付近にて検出された溝である。

SD04

4区のG3・G4・H3・I3・J3グリッドに位置し、規模は全長22.5m、幅0.42～1.1m、深さ約26cmを測る。平面形は南北方向に沿って一直線に走る溝である。中央付近でSD17と合流するが、新旧関係は不明である。覆土は単一層にて、断面形はV字形である。遺物は須恵器・土師器の小片が出土している。

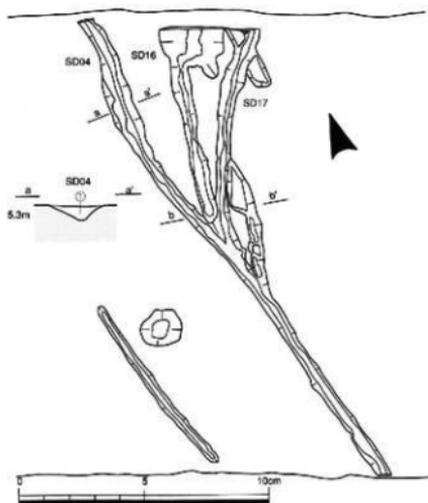
SD16

4区のH3・I3グリッドに位置し、規模全長7.9m、幅0.38～2.6mを測る。遺構はSD04とSD17の間において検出され、南側は両遺構と合流し、SD04とSD17両遺構を切る形である。覆土は単一層にて、遺構深度は約10cmと同隣の溝と比べてやや浅く、断面形は不整形である。このため、溝ではなく窪地の可能性も考えられる。遺物は古墳時代の土師器や須恵器を少量出土しているが、流れ込みによるものとも考えられる。

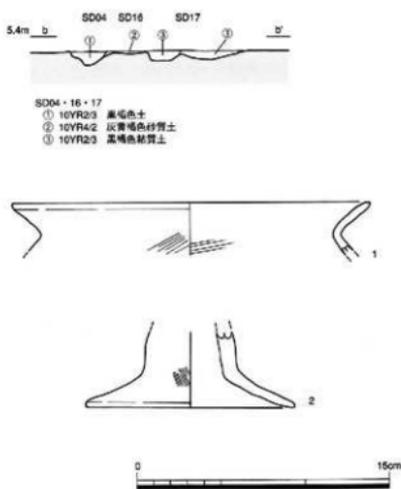
SD17

4区のH3・I3グリッドに位置し、規模は全長9.0m、幅0.48～1.8m、深さ約17cmを測る。溝の形状は一定でなく、SD04との合流部では深度のある部分とない部分が入り混じり、起伏に富んでいる。深度のある部分の覆土は単一層で、断面形は逆台形である。遺物は須恵器・土師器・陶磁器が出土している。

- 1 (第47図-1) 土師器甕である。「く」の字状に外屈した口縁部をもつ。胴部は内・外面にハケ調整を施す。
- 2 (第47図-2) 高坏の脚部である。脚部部にて強く屈曲外反する。内面はナデ調整、外面はハケ調整を施す。



第46図 4区SD04・16・17遺構平・断面図 (1:200/1:80)



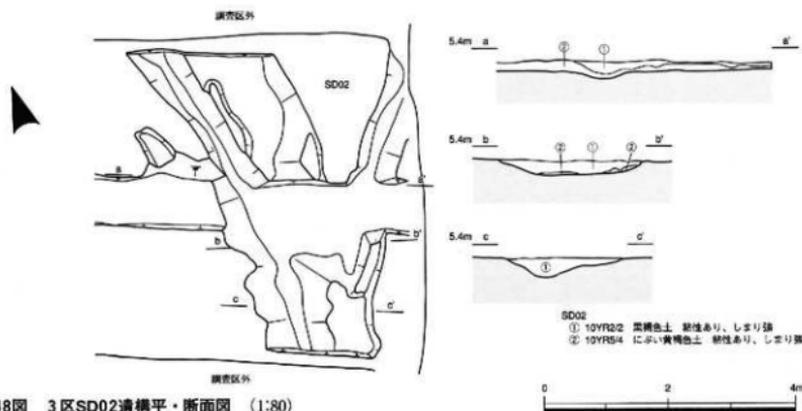
第47図 4区SD16出土遺物実測図 (1:3)

図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	裾径(cm)	焼成	残存率 (口径/底径)	備考
47-1	甕	21.3	(3.2)	—	—	良	24/0	
47-2	高坏	—	(4.6)	—	12.2	やや不良	82/100	

第12表 4区SD16出土遺物観察表

3区SD02

3区のE6グリッドに位置し、規模は全長6.12m、幅1.76~4.3m、深さ約26cmを測る。平面形は不整形を呈して、調査区を縦断するように南北に延びている。遺構の中心部分が一段高くなっていることから、本来はV字の様な遺構ではなく、やや幅のある1つの溝であった可能性を考えたい。出土遺物はなく時期の特定はできない。



第48図 3区SD02遺構平・断面図 (1:80)

他の溝状遺構

前述の溝状遺構以外に計15条検出されている。このうち3区SD07と4区SD05は近現代の河道、1区のSD03とSD07は暗渠の可能性ある。下記に規模等を表として掲載した。

地区番号	遺構番号	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	備考
1区	SD02	343	74~92	18	
1区	SD03	350	28~34	7	暗渠?
1区	SD07	350	14~62	14	暗渠?
1区	SD18	520	92~115	12	
1区	SD31	196	16~49	20	SX22に付属?
2区	SD03	662	23~43	9	
2区	SD27	120	55~150	4	
2区	SD28	245	23~31	8	
3区	SD04	303	22~53	5	
3区	SD05	308	30~43	7	
3区	SD06	592	27~77	10	
3区	SD07	412	117~231	40	近現代の河道
4区	SD05	1795	185~460	33	近現代の河道
4区	SD06	235	15~85	5	
4区	SD19	789	33~48	4	

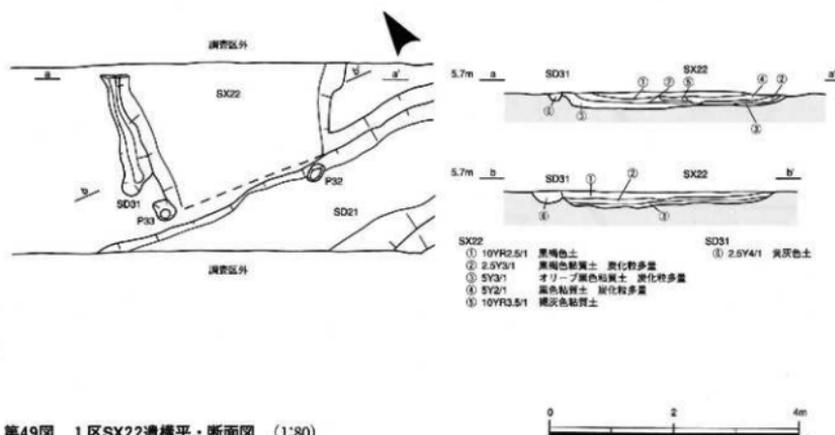
第13表 溝状遺構規模観察表

6. 不明遺構

1区SX22

1区のA4・AA4グリッドに位置し、規模は長軸3.7m、短軸2.5mを測る。東西両方向から10cmほど斜めに掘り込まれ、底面はほぼ平らである。平面形は長方形に近く、層序は基本的に3層からなる。しかしながら北側の平面プランは、SD21西側の調査ですでに掘削しているため推測の域をでない。南壁面では炭化物を多量に含む層がみられ、遺構は調査区域外に広がる。この遺構に隣接して北側にはP32・P33のビット2基と東側にはSD31を検出したが、SX22に付随するものかは判断できない。出土遺物は主に1・2層からみられ、須恵器・土師器が出土している。

- 1 (第50図-1) 須恵器坏Aである。底部から口縁部にかけて一直線的に立ち上がる。底部の大部分が欠損しているが、ロクロヘラ切りを確認することができる。体部はロクロナデを施す。
- 2 (第50図-2) 須恵器坏Aである。底部から口縁部にかけてほぼ一直線的に立ち上がる。器厚はやや薄く、底部はロクロヘラ切りが観察でき、体部はロクロナデを施す。
- 3 (第50図-3) 須恵器坏Bである。底部から口縁部にかけて、やや丸みを持ち内湾し、そのまま口縁端部に至る。高台は体部と底部の境付近に短いものを貼り付ける。底部はロクロヘラ切り、体部はロクロナデを施す。
- 4 (第50図-4) 須恵器坏Bである。底部から口縁部にかけて、一直線的に立ち上がる。断面方形の高台は扁平に接地する。底部はロクロヘラ切り後、高台貼り付け時ナデを施す。
- 5 (第50図-5) 須恵器甕である。頸部から口縁部にかけて外反して立ち上がり、口縁端部の外側を突出させている。口縁部の調整は内外面ともロクロナデである。
- 6 (第50図-6) 須恵器坏蓋である。山笠形を呈し、天井部はロクロヘラ削りを施す。端部は丸みを持つ断面三角形である。つまみは擬宝珠形を呈している。
- 7 (第50図-7) 土師器坏である。口縁部は欠損しているが、体部は。口縁部にむかい底部からほぼ一直線に立ち上がる。底部は回転糸切り未調整で、調整はロクロナデを施す。内外面とも、煤が付着している。



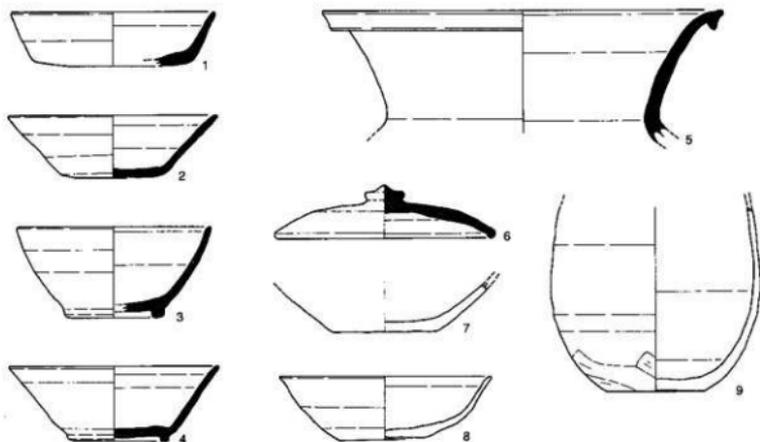
第49図 1区SX22遺構平・断面図 (1:80)

8 (第50図-8) 土師器埴Aである。底部から口縁部にかけてやや丸みを持ち内湾し、体部中位付近で角度を変え外湾し、口縁端部に至る。底部は回転糸切り未調整で、調整はロクロナデを施す。全体として、摩擦による器面の剥離が激しい。

9 (第50図-9) 土師器小甕である。口縁部を欠損して出土している。体部上半の調整は内・外面ロクロナデ、体部下半は内面ロクロナデ・外面ケズリを施す。底部は切り離した後、丁寧なヘラケズリを行う。

図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	洗成	残存率 (口径/底径)	備考
50-1	坏A	12.2	3.3	9.25	良	18/-	
50-2	坏A	12.6	3.8	6.0	良	69/100	
50-3	坏B	11.6	5.5	5.2	良	25/30	
50-4	坏B	12.6	4.5	6.0	やや不良	38/100	
50-5	甕	24.0	(8.1)	-	良	68/0	
50-6	蓋	12.9	3.2	-	良	75/-	
50-7	坏	-	(2.7)	6.3	不良	0/100	
50-8	埴A	12.7	3.8	5.05	不良	78/100	
50-9	小甕	-	(11.1)	6.0	良	0/100	

第14表 1区SX22出土遺物観察表



第50図 1区SX22出土遺物実測図 (1:3)



7. 土坑

土坑は1区にて4基、2区にて1基の計5基を検出した。また4区不明遺構についても土坑形態に近いのでここに加える。このうちSK30以外の遺構の深さは10cm程度と浅く、共存遺物は少量にて時期の特定は困難である。

SK04

SK04は1区のA3グリッドに位置し、規模は長径2.4m、短径0.77m、深さ7cmを測る。平面形は不整形である。出土遺物は須恵器・土師器が少量出土している。

SK08

SK08は1区のAA5～AA6グリッドに位置し、規模は長径1.4m、短径1.2m、深さ12cmを測る。平面形は遺構の南側が調査区外のために不明である。出土遺物は須恵器・土師器の小片が数点出土している。

SK17

SK17は1区のA5グリッドに位置し、規模は長径0.82m、短径0.64m、深さ4cmを測る。平面形は円形である。底部は西側に比べて東側はやや深く掘り込まれている。遺物は出土しなかった。

SK30

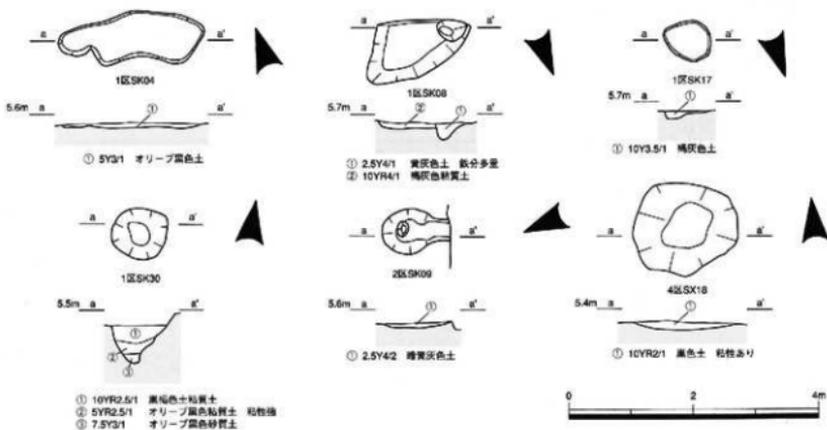
SK30は1区のA4グリッドに位置し、規模は直径0.88m、深さ約81cmを測る。平面形は円形を呈する。遺構はSD21の東側肩部に掘り込まれ、断面形はV字形で、層序は3層からなる。遺物は1層から土師器が出土している。時期は古代と考える。

SK09

SK09は2区にて検出した土坑である。C5グリッドに位置し、規模は長径1.03m、短径0.74m、平面形は楕円形を呈する。遺構深度は約7cmと浅く、覆土は単一層である。遺物は出土しなかった。

SX18

4区のH3グリッドに位置し、規模は長径1.7m、短径1.5m、深さ13cmを測る。平面形は隅丸方形を呈し、覆土は単一層である。遺物は出土しなかった。



第51図 1区SK04・08・17・30、2区SK09、4区SX18遺構平・断面図 (1:80)

8. ビット

赤田I遺跡では、4地区合わせて46基のビットを検出した。これらのうち建物として取上げなかったものを下の表に掲載した。規模は直径30cm前後が多い。平面形は、円形・楕円形・方形・不整形の4パターンあるが、大部分は円形と楕円形である。1区のP34と2区のP14については柱根が出土している。

() は推定値

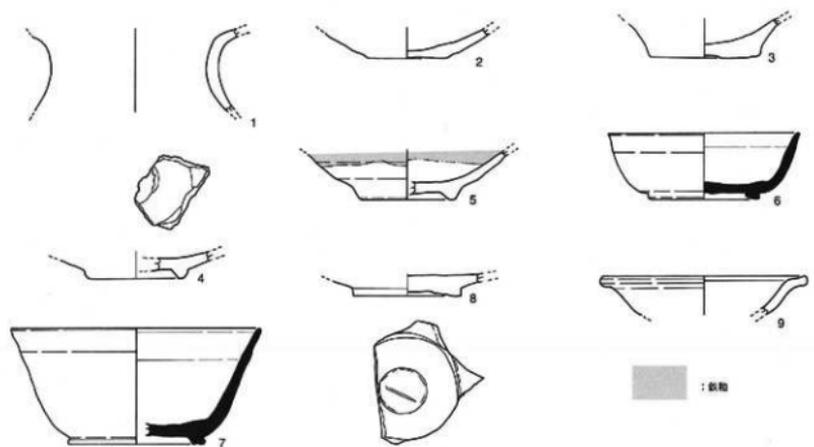
地区番号	遺構番号	平面形	直径(cm)	深さ(cm)	柱根の有無	備 考
1区	P11	方 形	30.0	12.0	無	
1区	P15	楕円形	32.0	18.0	無	
1区	P16	楕円形	30.0	16.0	無	
1区	P19	楕円形	(59.0)	13.0	無	SD18に切られる
1区	P25	円 形	28.0	6.0	無	
1区	P27	方 形	(36.0)	8.0	無	一部調査区域外
1区	P28	方 形	(27.0)	15.0	無	一部調査区域外
1区	P29	楕円形	(39.0)	6.0	無	一部調査区域外
1区	P32	楕円形	30.0	21.0	無	SX22付属?
1区	P33	不整形	34.0	21.0	無	SX22付属?
1区	P34	不整形	27.0	20.0	柱根	
1区	P35	楕円形	28.0	15.0	無	
1区	P36	楕円形	30.0	19.0	無	
2区	P07	円 形	37.0	20.0	無	
2区	P10	楕円形	48.0	32.0	無	
2区	P11	方 形	23.0	14.0	無	
2区	P12	楕円形	26.0	42.0	無	
2区	P13	円 形	30.0	28.0	無	
2区	P14	円 形	26.0	26.0	柱根	
2区	P16	方 形	30.0	40.0	無	
2区	P17	不 明	31.0	32.0	無	
2区	P18	不 明	32.0	20.0	無	
4区	SP07	不整形	52.0	50.0	無	
4区	SP08	方 形	48.0	12.0	無	

第15表 ビット規模観察表

9. 遺構内および包含層出土遺物

観察表にて掲載した遺構においても少量の遺物が出土している。また、包含層出土遺物は、4地区合わせてコンテナで約8箱と少なく、図化できる遺物は限られる程度であった。

- 1 (第52図-1) 1区SD18出土の弥生土器である。蓋または壺の肩部ないし頸部から口縁部にかけての部分とみられる。残高5.0cmを測る。調整は内外面とも摩耗が激しく不明である。
- 2 (第52図-2) 1区SK30出土の土師器杯である。底部のみの残存にて、復元底径4.7cm、残高1.7cmを測る。調整は内外面ともロクロナデを施し、底部は回転糸切り未調整である。
- 3 (第52図-3) 1区P19出土の弥生土器である。蓋または壺の底部とみられる。復元底径6.3cm、残高2.4cmを測る。底部表面はドーナツ底形を呈する。内外面は摩耗のため調整不明である。
- 4 (第52図-4) 4区SD05出土の唐津皿である。削り出し高台を持ち、軸は透明に近い灰粉で、見込みは蛇ノ目軸割ぎである。復元底径5.4cm、残高1.65cmを測る。16世紀後半のものと考えられる。
- 5 (第52図-5) 4区SD05出土の越中瀬戸である。断面三角形の削り出し高台を持ち、鉄軸を施す。復元底径5.6cm、残高2.7cmを測る。
- 6 (第52図-6・7) 1区A4と4区H1南東グリッド出土の須恵器杯Bである。底部から口縁端部にかけて、ほぼ直線的に立ち上がり、口縁端部付近にて若干の内湾する。6の高台端面は外傾し、7の高台はほぼ扁平に接地する。6は復元口径11.4cm、器高4.0cm、復元底径6.2cmを測る。7は復元口径14.8cm、器高7.0cm、復元底径7.6cmを測る。
- 7 (第52図-8) 4区I4南グリッド出土の緑釉陶器碗である。復元底径6.4cm、残高1.2cmを測る。胎土は硬質で、削り出された蛇ノ目高台の底部外面中央には×の窯印が刻まれる。京都洛北産である。
- 8 (第52図-9) 4区H4北西グリッド出土の青磁碗である。復元口径12.1cm、残高2.3cmを測る。龍泉窯系、15世紀のものと考えられる。



第52図 遺構内出土遺物・包含層出土遺物実測図 (1:3)

IV ま と め

赤田Ⅰ遺跡で検出された遺構は、弥生時代後期と平安時代に大きく分けることができる。ここでは簡単に時代を違って整理し、まとめたい。

弥生時代～古墳時代

1区のSD21東側や2区のSD02にて遺物が出土している。両遺構とも主として遺物は、最深部から出土している。SD21の遺物は、溝の流れに沿う形で東肩の落ち込みぎわにまとまって出土しており、器種は赤彩された台付装飾壺や甕、広口壺などがある。SD02の遺物は高坏・甕・壺の出上がみられた。これらの遺物の形式は、弥生後期の法弘式にあたり、開溝時期も同時期と考えられる。

4区のSD04、16、17においては古墳初頭の遺物を若干出土しており、この時期とみられる。

平安時代

2区・3区・4区のSD01がこの時代にあたる。SD01では土師器坏が多量に出土し、特に3区においては土器類とともに、木製品が多量に出土した。土師器坏は赤彩を施すものや墨・漆が付着したものが多く含まれており、祭祀後投棄された可能性が考えられる。また、口縁部に焦げ痕を残すものもあり、灯明皿として使用されていたともみられる。須恵器は、坏をはじめ坏蓋・皿・甕・双耳瓶・長頸壺・平飯などがある。いくつかの皿には内面に墨痕を確認できる。須恵器の年代については、9世紀前半まで遡ることができ、土師器坏とは若干の隔たりがみられる。墨書土器は、1点出土したが、「東」「泉」「仁」「槍」と一字ものがほとんどを占め、遺跡や遺構の性格を判断するには難しいといえる。しかしながら、近隣の北高木遺跡や荒畑遺跡においても「東」「仁」の墨書土器の出土例がある。この他に特徴的な遺物としては、12点の緑軸陶器が挙げられる。緑軸陶器の出土数は、3地区で差があり2区で1点、3区で11点と大部分は3区にて出土している。品種は壺と皿がある。生産地としては、尾張産と京都洛北産があり、尾張産は全て3区の出土である。また3区の中でも特に南壁付近にて多くみられ、刀子・包丁といった金属製品もほぼ同じ地点より出土している。年代は共存する土器群と同様、9世紀後半前後とみられる。

木製品としては、まず祭祀具の斎串・人形・舟形・刀形・馬形・箸状木製品等がある。こうした遺物は、前述の北高木・荒畑両遺跡においても出土している。発火具としては火鑽臼がある。火を使った痕跡としては、灯明皿とみられる土師器坏や、火熱を受けた椽などを共存遺物に見出すことができる。しかしながら、遺構内で火が引いられた痕跡を観察することはできなかった。容器類としては、曲物・皿・瓢箪製容器・高杯等がある。その他には、紡績具・笠袴・櫛がみられる。櫛は、官衙や荘園など古代の知識層と関連する遺跡にて出土することが多いとされるが、今回の調査では、3組の櫛が比較的良好な状態で出土した。また、「槍」と記された土師器皿が4区にて出土している。こうした木製品の大部分は3区のSD01からの出上であり、緑軸陶器と同様この周辺にて場所を定めた意図的な投棄が行われたことを窺うことができる。

遺構の形態・性格については、3地区それぞれ異なった特徴をもつ。4区は矢板・杭・しがらみを用いて堰を2ヶ所設けている。堰については時代を異なるが、本遺跡の南側に位置する南太閤山Ⅰ遺跡には弥生時代の堰状遺構がみられる。3区は杭やしがらみを備えたテラス状の張り出しが造られている。溝にこうしたテラス状の張り出しを設ける例としては、石川県河北郡津幡町北中条遺跡B地区の奈良時代の溝があり、墨書土器をはじめ鳥形や瓢箪製容器等の木製品も出土している。遺構は、出土遺物から8世紀後半から9世紀前半頃の祭祀関連のものと考えられている。2区は最深部に獣骨や歯がいくつか残っており、下層ほど覆土にはビビアンナイトを多量に含んでいる状況から、複

数の獣が溝に投棄された可能性を指摘できる。出土した獣骨や歯の分析が実施されることを期待したいところである。土師器坏等の土器類の大部分は、西層の最深部よりやや上層にてまとまって出土した。

このように、出土遺物や出土状況からSD01は、祭祀に関係する性格の遺構と考えられる。これに類似した遺構をもつ遺跡としては、新潟県柏崎市半田の箕輪遺跡が挙げられる。この遺跡では、河跡から700個体の土器が折り重なって出土した他、黒書土器・黒色土器・緑釉陶器、木製品としては倉中等の祭祀具、皿・碗等の食器類、金属製品としては小刀・刀子等が出土している。興味深いことに、これらの出土遺物は今回の調査のものとはほとんど同じ内容である。また、箕輪遺跡では河跡の近くから建物跡が検出され、祭祀用の仮設建物と考えられている。今回の調査では建物跡として、1区2棟、2区1棟の計3棟を検出した。しかしながら、全ての建物について一部の検出のため規模の確定が困難な上、共存遺物も乏しいことから年代の特定は行うことができなかった。したがって、箕輪遺跡の例のような、SD01に関連した祭祀用の建物は検出されなかったと言える。

中世・近世

当該時代の明確な遺構は確認されなかった。2区のSB26やSD05が該当する可能性があると言えるのみである。包含層や近現代の河道からは、越中瀬戸・唐津・青磁等が出土している。

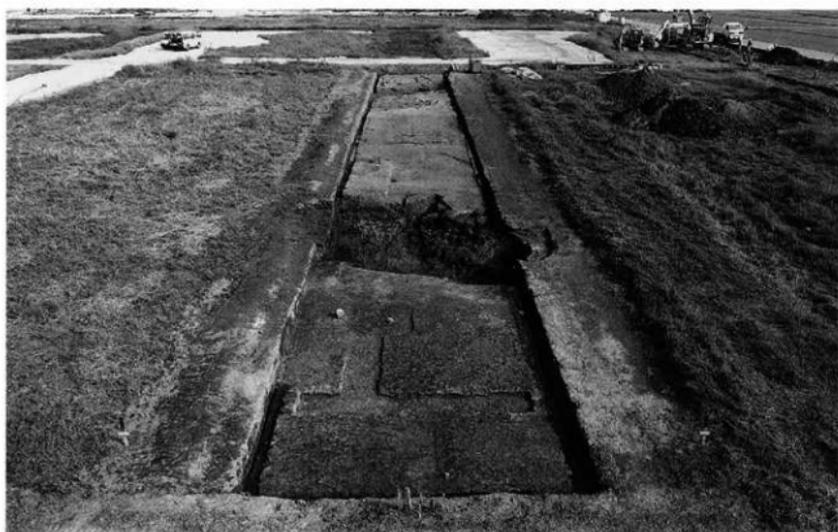
以上のように、今回の調査にて赤田I遺跡は、弥生時代後期と9世紀～10世紀初めの2時期を中心とする遺跡であることが確認できた。特にSD01については、その出土遺物の量から、かなり大規模な祭祀が行われていたことが容易に想像できる。遺跡の性格としては、官衙・都衙関連の遺跡である可能性が考えられるが、建物群等は未確認であることから可能性を述べるにとどめたい。最後に、今回調査範囲に限られた区域であったこともあり、調査結果の事実記載しか実施できなかった感もあるが、今後付近の調査結果とあわせて検討されることにより、赤田I遺跡の全容が解明されることを期待しつつ今回のまとめとしたい。(井伊)

〈引用・参考文献〉

- | | | |
|-------------------------|------|---------------------------------|
| 五十川 伸 矢 | 1992 | 『古代・中世の鉄器遺物』【国立歴史民俗博物館研究報告】46 |
| 石川県立埋蔵文化財センター | 1986 | 『漆町遺跡 I』 |
| 内 田 亜紀子 | 1999 | 『富山県の古代施釉陶磁器』【富山考古学研究】3 |
| 内 田 亜紀子 | 2002 | 『富山県の黒色土器』【富山考古学研究】5 |
| 大 島 町 教 育 委 員 会 | 1995 | 『富山県大島町北高木遺跡発掘調査報告書』 |
| 久々 忠 義 | 1997 | 『小杉町史通史編』小杉町役場 |
| 小 杉 町 教 育 員 会 | 1992 | 『小杉町伊勢領遺跡発掘調査概要』 |
| 五 島 美 術 館 | 1998 | 『日本の三彩と緑釉』 |
| 津 幡 町 教 育 委 員 会 | 2002 | 『津幡町北中条遺跡 (B区)』 |
| 高 橋 照 彦 | 1995 | 『緑釉陶器』【概説中世の土器・陶磁器】 |
| 富 山 市 教 育 委 員 会 | 1987 | 『長岡杉林遺跡-富山県富山市長岡杉林遺跡発掘調査報告書- I』 |
| 富 山 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー | 1990 | 『栗山榎原遺跡・南中田A遺跡・任海鎌倉遺跡・南中田C遺跡』 |
| 富 山 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー | 1991 | 『富山県富山市南中田D遺跡発掘調査報告書』 |
| 富 山 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー | 1994 | 『富山県総合運動公園内遺跡発掘調査報告 (4) 吉倉B遺跡』 |

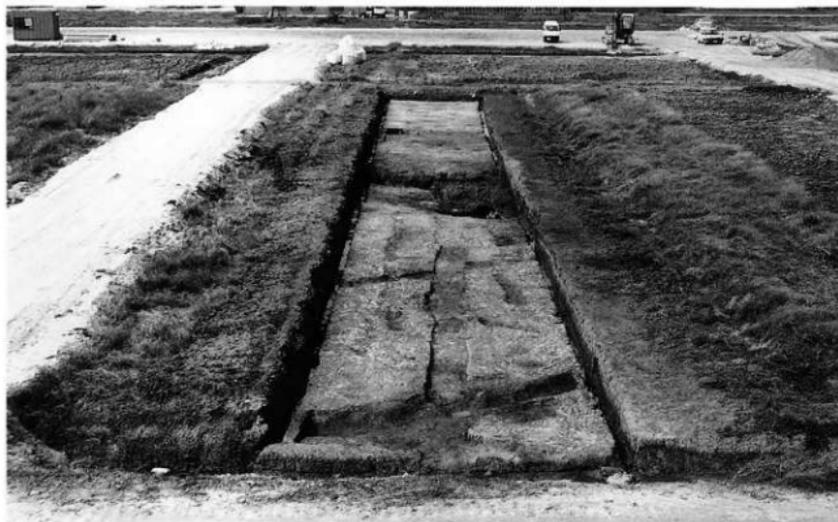


1区 全景 (東より)



2区 全景 (西より)

図版1 1・2区全景



3区 全景 (東より)



4区 全景 (東より)

図版 2 3・4区全景



2区 SD01 (北東より)



3区 SD01 (南より)

図版3 SD01遺物出土状況



2区 SD01墨書土器出土状況
(東より)



2区 SD01緑釉陶器出土状況
(北東より)



4区 SD01墨書土器出土状況
(南より)

図版 4 SD01墨書土器・緑釉陶器出土状況



SD21 遺物出土状況（北より）



台付裝飾壺出土状況（北より）



SD21 土層（北東より）



SD18 完掘（北東より）



SX22 完掘（北より）



作業風景



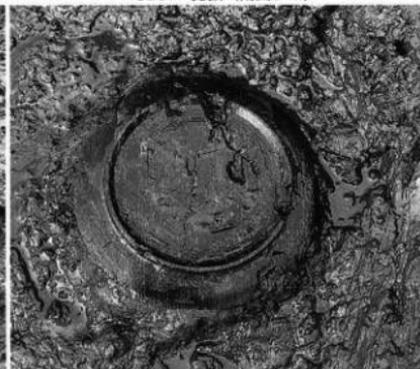
SB26 完掘 (南より)



SD01 完掘 (南西より)



SD01 遺物出土状況 (北より)



SD01 木製盥出土状況 (南より)



SD01 獣骨出土状況 (南東より)



SD02 遺物出土状況 (北より)



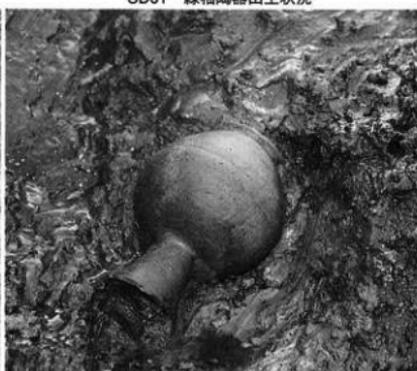
SD01 遺物出土状況(南より)



SD01 緑釉陶器出土状況



SD01 木製盤出土状況



SD01 長頸壺出土状況



SD01 木製高杯出土状況



SD01 木製高杯出土状況



SD01 完掘 (南西より)



SD01 完掘・近景 (南西より)



SD01 塚状遺構 (南西より)



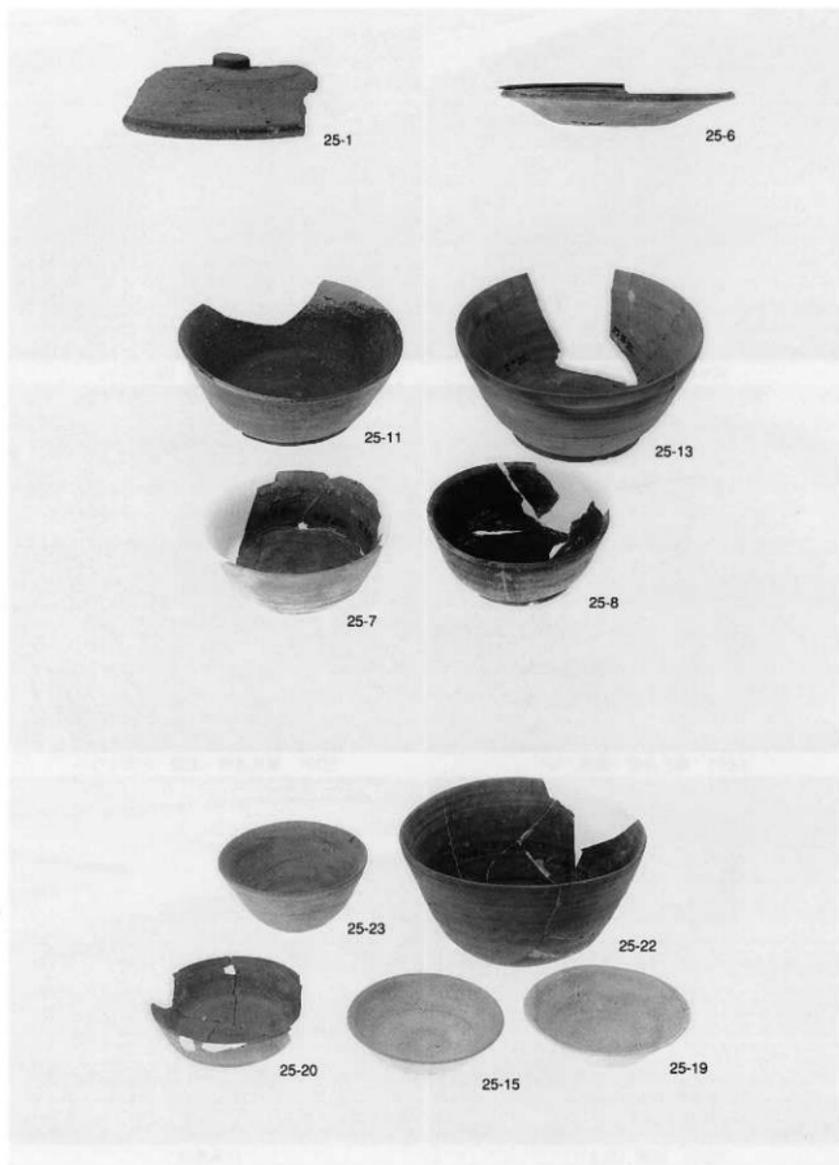
SD01 塚状遺構・近景 (南西より)



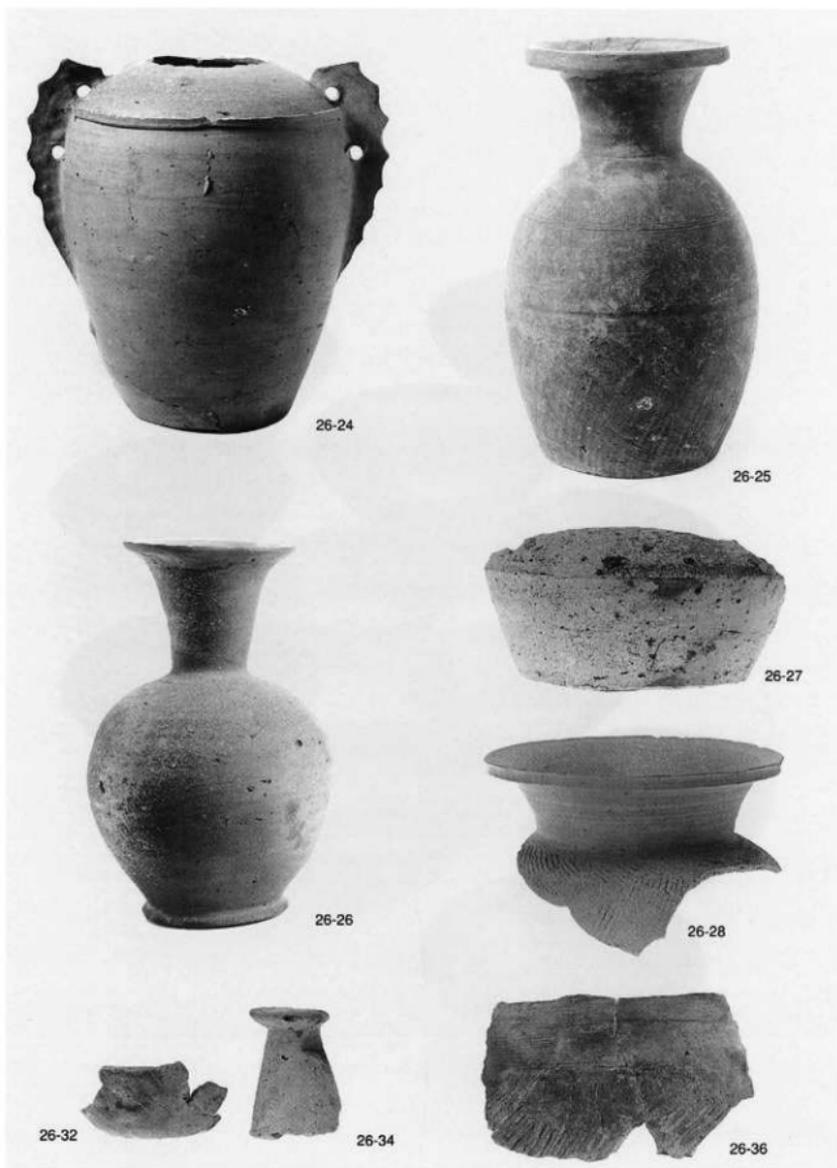
SD04 完掘 (南より)



作業風景



図版9 SD01出土遺物



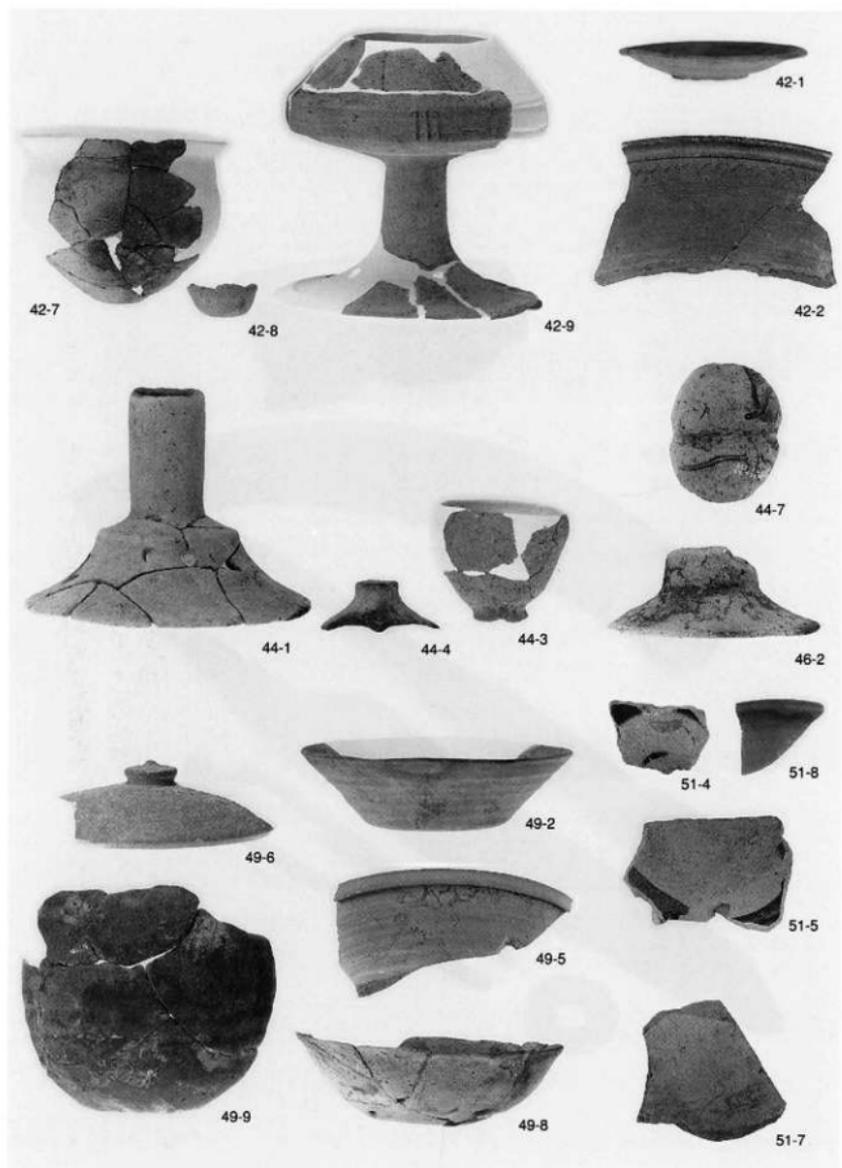
图版10 SD01出土遗物



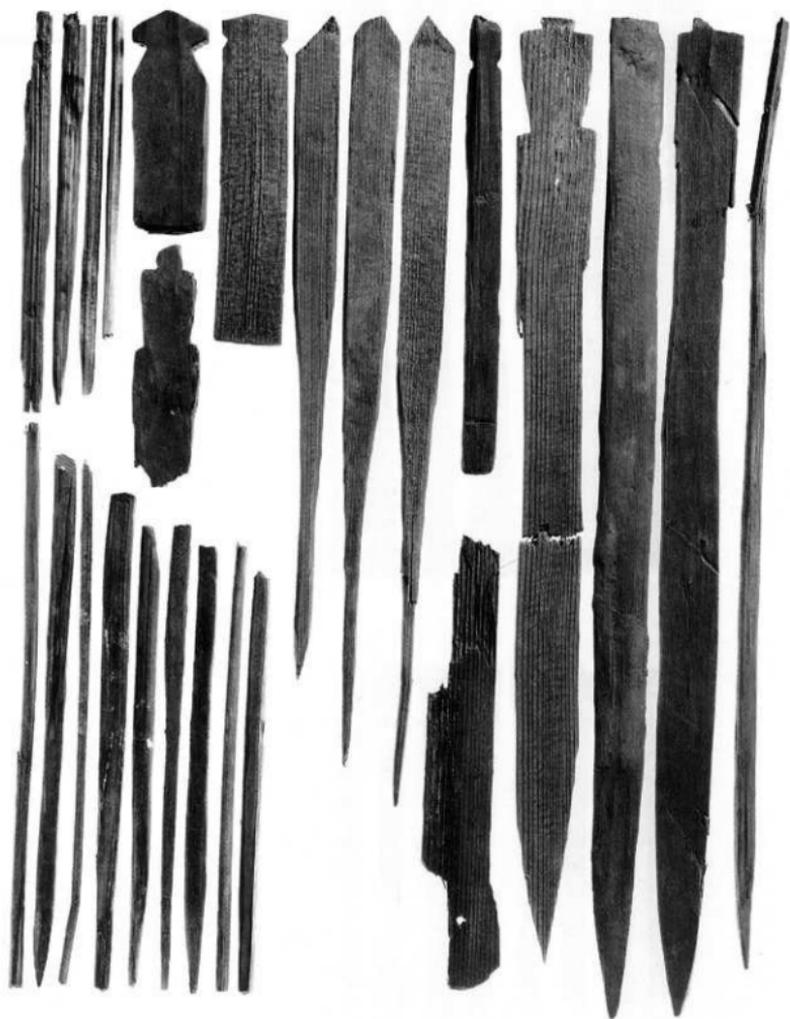
圖版11 SD01出土黑色土器



图版12 SD01出土金属器



图版13 遺構・包含層出土遺物



图版14 SD01出土木製品



图版15 SD01出土木製品



圖版16 SD01出土木製品



图版17 SD01出土木製品



圖版18 SD01出土木製品



图版19 SD01出土木製品



圖版20 SD01出土木製品



图版21 SD01出土木製品



图版22 SD01出土木製品



图版23 SD01出土木製品



图版24 SD01出土木製品



图版25 SD01出土木製品

報告書抄録

ふりがな	あかんだいちいせきはつつちょうさほうこく
書名	赤田 I 遺跡発掘調査報告
編著者名	稲垣尚美(小杉町教育委員会)、井伊浩一郎、新宅輝久、藤田慎一(塚中部日本館業研究所)
編集機関	小杉町教育委員会、塚中部日本館業研究所
発行機関	小杉町教育委員会
所在地	〒939-0351 富山県射水郡小杉町戸破1511 TEL (0766)56-1511
発行年月日	西暦2003年12月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
赤田 I	富山県射水郡 小杉町下桑	16381	301	36度 42分 35秒	137度 5分 25秒	本調査 20020713～ 20021011	2,170	土地区画整理事業 に伴う本調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
赤田 I	集落跡 祭祀遺跡	弥生(後期) 平安	掘立柱建物 溝 土坑 ピット	弥生土器・土師器 須恵器・緑釉陶器 墨書土器・黒色土器 青磁・唐津・越中瀬戸 古銭・木製品・金属製品 石器	溝より700個体以上の土師器 器坏の他、緑釉陶器や木製 品祭祀用具等が出土してい る。

赤田 I 遺跡発掘調査報告

発行日 平成15年12月26日
編集 小杉町教育委員会
 (株)中部日本鉱業研究所
発行 小杉町教育委員会
印刷 北日本印刷株式会社

